

尾花沢市小中学校建設基本構想・小学校建設基本計画

令和 5 年 3 月

尾花沢市教育委員会

尾花沢市小中学校建設基本構想・小学校建設基本計画

目 次

I. 基本構想・基本計画策定の背景・目的	1
II. 小中学校建設基本構想	1
1. 基本構想の概要	1
2. 社会情勢の変化	1
3. 上位計画・関連計画等	2
(1) 第7次尾花沢市総合振興計画	2
(2) 尾花沢市教育等の振興に関する大綱	2
(3) 尾花沢市学校教育全体構想	3
(4) 尾花沢市小中連携学力向上アクションプラン	4
(5) 新しい時代の学びの姿	5
(6) 第2次尾花沢市都市計画マスタープラン ・尾花沢市立地適正化計画	5
(7) 尾花沢市環境基本計画	5
4. 小中学校の現状	6
(1) 学校施設の課題	6
① 社会と教育の変化における現状と課題	6
② 機能面における現状と課題	6
③ 安全面における現状と課題	7
(2) 児童生徒数の現況及び将来推計	8
① 小学校在籍児童数・学級数	8
② 小学校児童数将来推計	9
③ 中学校在籍生徒数・学校数	10
④ 中学校生徒数将来推計	10
5. 学校施設整備の進め方	11
(1) 尾花沢市が目指す教育の方向性	11
① 学力の向上（基礎づくり）	11
② 社会力の育成（活用場面）	11
(2) 尾花沢市が目指す学校のコンセプト	12
(3) 具体的な学校施設整備の方向性	12
① 『学習』	12
② 『生活』	14
③ 『連携・協働』	15
④ 『安全・安心』	16
⑤ 『環境』	17
6. 施設の有効活用のために必要な事項	17
7. 建設計画地の概要	18
(1) 建設場所の考え方	18
① 選定指針	18
② 建設候補地	19
③ 建設候補地の比較評価表	20

④ 建設候補地に関するアドバイザーの講評	2 1
⑤ 建設地の選定	2 2
(2) 建設予定地及び周辺地域の地域性等	2 2
(3) 建設予定地及び周辺の状況、土地利用計画	2 2
① 建設予定地及び周辺の現況	2 2
② 土地利用計画	2 3
③ 法規制	2 3
Ⅲ. 小学校建設基本計画	2 4
1. 基本計画の概要	2 4
2. 施設規模	2 4
(1) 計画学級数	2 4
(2) 施設規模(上限)	2 4
3. 配置計画	2 4
(1) 校舎等の配置	2 4
(2) 周辺施設との連携	2 4
(3) 自然環境との調和	2 5
4. 諸室計画	2 6
5. 構造計画	3 4
(1) 耐震安全性	3 4
(2) 構造・階数	3 4
6. 設備計画	3 4
(1) 電気設備	3 4
(2) 機械設備	3 5
7. 防災安全計画	3 6
(1) 安全性の確保	3 6
(2) 防災機能の確保	3 6
8. 環境配慮計画	3 6
9. 事業スケジュール	3 6
資 料	
1. 尾花沢市小中学校建設検討委員会名簿	3 8
2. 小学校・中学校建設に係るアンケート調査結果	3 9
3. 『僕たち私たちが考える学校を語ろう会』で出された意見(小学 生)	7 5
4. 『僕たち私たちが考える学校を語ろう会』で出された意見(中学 生)	8 5
5. 第1回新しい学校を考える市民ワークショップ開催結果	9 8
6. 第2回新しい学校を考える市民ワークショップ開催結果	9 9

I. 基本構想・基本計画策定の背景・目的

尾花沢小学校は昭和44年に竣工してから53年が経過し、老朽化が進み早期の建て替えが必要になっている。また、近年、少子化が急激に進み将来的にも児童・生徒数がさらに減少していくと予測され、各学校においては学年1学級や複式学級が増えており、多様な考えによる学習の広がりや授業の中での刺激を得られない、異なる考えに触れる「協働的な学び」を進めにくいなどの課題がある。そのため、尾花沢市の今後の学校のあり方について、平成29年度から、アンケート調査の実施、学校のあり方を語る会の開催、学校教育検討委員会による検討を行った。令和元年度に学校教育検討委員会から「将来を展望した学校のあり方に関する提言書」を受け、さらに各小学校区で令和2年度に意見交換会、令和3年度に検討委員会による検討を重ね、令和3年度に『尾花沢市小中学校のあり方に関する基本方針』を決定した。

小中学校のあり方に関する基本方針としては、①協働的な学びを重視する等、学習方法の変化に応じた教育活動の活性化を図る。②出生数減少の推移を受けた学校の適正規模、教職員の適正配置を目指す。③尾花沢市学校教育検討委員会の提言を尊重した方針とする。

また、将来の小中学校のあり方としては、①小学校の統合については、令和9年度の開校をめざし新たな統合小学校を建設し、市内小学校を1校に統合する。②中学校の統合については、令和8年度に福原中学校を尾花沢中学校に統合する。校舎については、当面、現在の尾花沢中学校の校舎を使用するが、将来的には市の財政状況を踏まえ、統合小学校に隣接する形で新たな中学校を整備する。③小中学校の形態については、小学校と中学校を別々に設置した小中連携型とし、経営方針は、教育課程の要所において9年間を見通して小中学校で定めていく。

以上の基本方針を推進するにあたっては、学校関係者、幼稚園・保育園、小中学校のPTA役員、地域の代表や学識経験者等による「尾花沢市小中学校建設検討委員会」（以下「検討委員会」という。）（委員会名簿参照）を設置し、尾花沢市の小中学校の基本的な考え方について検討を行っていく。

II. 小中学校建設基本構想

1. 基本構想の概要

基本構想は、社会情勢の変化、上位計画・関連計画、小中学校の現状等を受けて、尾花沢市の小中学校建設において目指すべき学校づくりのコンセプトを定め、そのコンセプトに基づき、整備方針や施設の有効活用のために必要な事項等を定める。

2. 社会情勢の変化

日本においては、AI（人工知能）、ビッグデータ、IoT（Internet of Things）、ロボティクス等先端技術の進展によってSociety5.0の実現を目指しており、社会のあり方が劇的に変わりつつある。

加えて、新型コロナウイルスの感染症拡大や自然災害の多発化など、先行きが見通せない「予測困難な時代」になってきている。また「ポストコロナ」を見据えた新たな世界（ニューノーマル）への移行が求められている。

本市においては、「子育て日本一への挑戦」を目標に掲げ手厚い子育て支援を行っているが、少子高齢化や人口減少が続いており、児童生徒数の減少によって学校運営や教育的機能の維持が困難になってきている。

このように急激に変化する時代の中において、学校教育には、一人一人の児童生徒が様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、次世代の創り手となれるような資質・能力の育成が求められて

いる。さらに、豊かな自然、歴史、伝統文化を大切にした学習を通じて本市の魅力を伝え、ふるさと尾花沢への愛着と誇りを持って、新しい尾花沢市を担う人材を育む教育が必要である。

3. 上位計画・関連計画等 ※各計画中、教育に関する部分を抽出

(1) 第7次尾花沢市総合振興計画 令和3年度～令和12年度

【子育て・教育の基本目標】『ふるさと愛を育むまち』

少子高齢化と人口減少の克服には、子供が健やかに成長できる環境づくりが最も重要である。

グローバル化がますます進む21世紀を生きる子供たちが、国際感覚を持ちながら個性と創造力を伸ばすことができるよう、子育て環境と学校教育の充実、さらには、生涯にわたって生きがいを持てる環境づくりを進め、市民一人ひとりのふるさと愛を育むまちを目指す。

少子化対策・子育て支援の充実

【施策方針】「子育て日本一への挑戦」を目標に掲げ地域全体で子育てを応援します。

【主要施策】

① 地域における子育て支援の充実

- ・子育て支援拠点の機能強化
- ・市独自の保育の実践
- ・質の高い多様な保育サービスの提供
- ・放課後児童クラブの充実
- ・子供の学力定着の支援

学校教育・青少年健全育成の充実

【施策方針】・子供たちの「ふるさと愛」と新しい時代を牽引できる力を育みます。

・新しい教育環境の構築と未来を担う人材確保に取り組みます。

【主要施策】

① 本市独自の教育の展開

- ・確かな学力の育成
- ・「いのち」の教育の充実と豊かな心の育成
- ・心の問題に関する相談・指導の充実
- ・特別支援教育の充実、適切な就学相談・指導
- ・国際社会で求められる活用力・研究力の育成
- ・ICT教育環境の充実
- ・国際的視野を持つ人材の育成
- ・基礎体力の向上と心身の健全育成
- ・地域特性を活かした食育の推進
- ・教職員の指導力向上に向けた支援
- ・いじめ防止対策の充実
- ・児童虐待防止対策の充実

② 学校、家庭、地域の協力

- ・学校経営の持続的な改善
- ・地域と連携する教育活動の推進
- ・保護者などへの意識啓発
- ・登下校時の見守り活動の充実

③ 学園構想による新しい教育環境の構築

- ・学校施設の適正規模と適正配置の検討
- ・児童生徒の通学対策の充実
- ・適正な教育環境の整備
- ・空き校舎の利活用の推進

(2) 尾花沢市教育等の振興に関する大綱 令和3年度～令和7年度

【基本目標】『尾花沢の未来をひらく いのち輝く 人間の育成』

【基本的な方針と施策の展開方向】

① 地域の特性を楽しみ ふるさとを愛する「おばねっ子」を育てる教育の推進

知・徳・体がバランスよく調和し、人間力に満ちた児童生徒を育むとともに、尾花沢に対する理解を深め、ふるさと愛を育む教育を推進する。

・幼保・小・中が連携し人間力に満ちた子供の育成

「学ぶ力の育成」「豊かな心の育成」「健やかな身体の育成」をもとに、知・徳・体がバランスよく調和するとともに、それらを活かし社会の発展に貢献する人間力に満ちた子供を育成する。

・幼少期からのふるさと愛の醸成

幼少期から地域と関わるきっかけづくりを行うとともに、学校と地域が連携して、尾花沢に対する理解を深めたり、地域の魅力を実感したりする機会を作り、子供たちがふるさと尾花沢へ愛着と誇りをもち、ふるさと愛を育む教育を推進する。

② 夢と志を持ち 可能性に挑戦し続ける力を育む 確かな教育の推進

学校・家庭・地域が連携し、感性を磨き、豊かな想像力と思いやりの心を育み、グローバル化した社会の中にあっても、自己実現の達成をめざすため、自他の「いのち」を大切にし、互いに協力し合える教育を推進する。

・確かな学力の育成

児童生徒が、基本的な生活習慣を身につけ、基礎基本の確実な定着のもと、自ら課題を見つけ自ら考え主体的に解決していく探究型学習を推進する。

・自尊感情と思いやりを持ち、自己の夢を追い続ける子供の育成

生徒指導の三機能（「自己決定の場を与える」「自己存在感を与える」「共感的な人間関係を育成する」）をもとに、子供同士、教師と子供一人一人のかかわりを通して、生き生きと自己実現をめざす活動に取り組む子供を育成する。

・協調性があり、社会性に富んだ子供の育成

友達同士が支え合い、相談し合える関係を大切にしたい子供たちの主体的な活動を重視し、いじめのない、いじめを許さない学校づくりをめざすとともに、一人一人に寄り添った教育を推進する。

③ これからの時代を生き抜く力を育む 多様な教育の推進

多様な学習活動を保障する教育環境を整備し、時代のニーズに対応していくことで、児童・生徒、保護者・地域から期待され信頼される学校づくりを推進する。

・多様な学習活動を可能とする教育環境の整備

1人1台端末によるICT教育の推進や外国語活動、地元企業や地元高校との連携した教育など、教育環境・体制の整備を進めるとともに、SDGsを意識した教育を推進する。

・少子化に対応し、教育活動の活性化に向けた学校づくりの推進

小中の連携、市内公共施設の有効活用をふまえ検討を進めるとともに保護者や地域の意向を集約し、総合教育会議を通して具現化していく。

・開かれた信頼される学校づくりの推進

保護者や地域住民と一体となった学校評価を進めたり、学校の教育活動を保護者や地域住民に積極的に発信したりして、開かれた信頼される学校づくりを推進する。

（３）尾花沢市学校教育全体構想

【尾花沢市教育目標】『幼保・小・中が連携し、人間力に満ちた子供の育成』

【めざす子供像】『自らの未来を自らの力で切り拓く、たくましい児童生徒』

幼・保：心身ともに健康で生活のきまりを守り元気に活動する幼児

小学校：友だちと協力しながら学習や運動にねばり強く取り組む児童

中学校：互いに切磋琢磨しながら「心・知力・体力」を高め合う生徒

① 学ぶ力の育成

・学びに向かう意欲の向上

・基礎・基本の定着

・思考力・判断力・表現力の育成

・探究型学習の推進

・英語教育・ICT教育の推進

② 豊かな心の育成

- ・自尊感情の育成
- ・協調性・社会性の育成
- ・社会性の向上
- ・いのちの教育の推進
- ・読育の推進
- ・道德教育の推進

③ 健やかな身体の育成

- ・健康・スポーツの奨励
- ・食育の推進
- ・体力・ねばり強さの育成
- ・生活リズムの確立

【学校教育の重点施策（令和4年度）】

① 学力向上

- ・基礎・基本の確実な習得と探究型学習による課題解決能力の育成
- ・「尾花沢市小中連携学力向上アクションプラン」に基づく、学習習慣の確立と家庭教育の充実
- ・ICT教育の充実（1人1台端末の更なる活用と内容の充実）
- ・「学校の働き方改革」を推進し、子供と向き合う時間を創出

② 英語教育の推進

- ・「尾花沢市チャレンジ・イングリッシュプラン」に基づく英語教育の推進
 - ・ALT3名の継続配置
 - ・中学生英語検定料の助成
 - ・英語授業力レベルアップ交流会の実施
 - ※小中学校間の授業参観、中学校教諭による小学校の授業実施
 - ・イングリッシュキャンプの実施
 - ・教員研修の充実

③ 「ふるさと愛」を育む教育活動の充実

- ・「知る・体験する・自ら動く」ことをテーマにした特色ある教育活動の創造
 - ・知る…歴史・文化・伝統
 - ・体験する…自然・産業・社会
 - ・自ら動く…お手伝い・ボランティア

（4）尾花沢市小中連携学力向上アクションプラン

【取組方針】

- ① 義務教育9年間を見通した系統的・継続的な教育の実施
- ② 「学びの基礎力」の育成（基礎・基本の定着＋学習習慣）
- ③ 学校と家庭との課題共有と改善に向けた連携

【取組内容】

- ① 2つの中学校区ごとに具体的な取組内容を話し合い、内容を子供と保護者に伝える
- ② 各校は毎年取組の成果を検証し、次年度の改善に活かす

【重点の取組】

① 学習習慣の確立

- ・発達段階に応じた学習ルールづくり
- ・社会性を身につけさせるための基盤づくり

② 授業改善

- ・国語・算数(数学)を中核にした基礎・基本の習得
- ・探究型学習の推進
- ・小中学校間の授業交流

③ 家庭学習の充実

(5) 新しい時代の学びの姿

『令和の日本型学校教育』の姿

～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し、
「主体的・対話的で深い学び」を実現する～

社会のあり方が劇的に変わる「Society5.0時代」の到来や、新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」の中においては、一人一人の児童生徒が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となれるようにすることが必要であり、全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現が重要である。

- ①個別最適な学び…基礎的・基本的な知識等を確実に習得させるために、子供の成長やつまづき、悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援することや、子供が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していく。
- ②協働的な学び…自分の良さや可能性を認識するとともに他者を価値ある存在として尊重し、探究的な学習や体験活動等を通じ、子供同士、あるいは地域の方々を含めた多様な人々と協働しながら、様々な課題・問題を解決していく資質・能力を育成する。

(6) 第2次尾花沢市都市計画マスタープラン・尾花沢市立地適正化計画

令和4年度～令和22年度

都市計画マスタープラン

【将来都市像】『未来に向けて前進する 豊かさと活力あふれるまち 尾花沢』

【都市づくりの視点】

○都市構造

- ・市街地における都市機能や住居区域の集約化
- ・人口減少や少子高齢化に対応できる都市のコンパクト化
- ・市役所周辺には、行政、文化、スポーツ、防災等の様々な機能を集約し、利便性の高いまちづくりを進める。
- ・教育、保育関連機能の再編による学園構想を推進する。
- ・子育て世代に配慮したまちづくりの方針
- ・学園構想を推進し、保育・学校教育施設等の集約化を検討する。
- ・市内小学校を1校に統合し、統合小学校の整備を検討する。
- ・施設整備及び建設場所については、学校建設に係る検討委員会を立ち上げ、市民の皆様の声を反映させながら検討を進める。
- ・尾花沢中学校について、活断層上にあることを踏まえ、移転改築を検討する。

立地適正化計画

【誘導施策】『公的施設の誘導、集約等による拠点機能の強化』

- ・教育、保育施設の一体的な整備（学園構想の推進）

(7) 尾花沢市環境基本計画 令和4年度～令和13年度

【テーマ】『豊かな自然を未来につなぐ 持続的発展が可能な環境のまち 尾花沢』

【施策の柱】

- ①ゼロカーボンシティの現実に向けた市民運動の展開
 - ・環境教育・環境学習の充実
 - ・学校における環境教育を総合的に推進する。
- ②再生可能エネルギーの推進と地域の活性化

・公共施設の設備導入

- ・公共施設における再生可能エネルギーの設備導入計画を策定し、計画的かつ積極的に推進する。
- ・公共施設の新設や改修時に、環境配慮型設備を計画的に導入する。
- ・照明のLED化などの省エネ機器への更新を進める。

4. 小中学校の現状

(1) 学校施設の課題

① 社会と教育の変化における現状と課題

ア. ポストコロナ時代における学校施設の役割としては、学習機会・学力・健康・運動を保障する役割のみならず、保護者の労働環境を確保するとともに児童生徒にとって安全・安心な居場所を提供するという福祉的機能と、児童生徒の社会性・人間性を育む社会的機能が必要である。

また、遠隔・オンラインによる教育の有効性を認識する一方で、実験・実習等の機会や児童生徒同士の学び合う場面、未知の課題に対してチームで協力しながら解決策や新たなアイデアを生み出す場面などにおける対面指導が重要である。

イ. ICTの活用により、学級単位で一つの空間で一斉に黒板を向いて授業を受けるスタイルだけでなく、クラウド等を活用し、教師と子供、子供同士がつながり、タブレットを片手に教室内外で個に応じた学習を行う、身体的距離を確保しながら多目的スペース等を活用してグループ学習を行う、校内外の他者との協働により創造的な探究学習を行うなど、学びのスタイルが多様に変化していく可能性がある。

ウ. GIGAスクール構想を推進するため1人1台端末とネットワーク環境を整備し、大型提示装置や実物投影機の導入も行っているが、教室と機器が一体的に整備されていないため、必要な時にすぐ活用できない状況もあり、黒板やホワイトボードを含めた教室全体のICT機器整備が望まれる。

② 機能面における現状と課題

ア. 廊下に面して普通教室や特別教室を一行に配置した、片廊下一文字型の学級単位で全員が黒板を向いた画一的な一斉授業を前提とした教室が整備されている。

イ. 多様な学習内容・学習形態に対応可能な多目的スペースを有する学校もあり、使い方の自由度が高まるなどの効果がある一方、周りの音で集中できなくなったり、冬期間に寒さで使えなかったりするので、可動間仕切りや家具の利用など音環境と空調の改善が必要である。

ウ. 図書室の設備・機能・デザイン・配置が不十分であり、自由に気軽に利用できて、情報収集機能の充実や自分から進んで学習したくなるような空間整備が必要である。

エ. ICTを活用した1人1台端末の使用や教科書、ノートの大変化の影響で机の天板が大きくなっており、新型コロナウイルス感染拡大防止対策で机と机の距離を確保すると空間がなくなる状況にあるため、教室を広くする必要がある。

オ. 小中学校における衛生面においては、令和4年3月現在、空調設備の設置率は普通教室が100%である一方、特別教室は約70%、体育館は0%となっており、熱中症対策、感染対策、災害発生時の避難所対策としての環境整備が課題である。また、トイレの洋式化は約70%、手洗い設備の非接触化は約55%（特別教室、保健室、炊事場、校舎外を除く）となっている。

カ. バリアフリー化の状況は令和4年3月現在、車いす使用者用トイレが尾花沢小学校に2ヵ所、玉野小学校に1ヵ所、尾花沢中学校に2ヵ所、福原中学校に1ヵ所、エレベーターが尾花沢中学校に1ヵ所となっており、バリアフリー化の一層の推進が必要である。

- キ. 子供たちの困り感にすぐに対応できるスペースやクールダウンするスペース、仲間との交流が自然と行える環境が不足しているため、落ち着いた中で相談やコミュニケーションが図れる場所、児童生徒のその時々の状態に応じた居場所づくりが必要である。
- ク. 多様な教育的ニーズのある児童生徒に対応した環境が不足しているため、ユニバーサルデザインと合わせてインクルーシブ教育に配慮する必要がある。
- ※インクルーシブ教育：障がいや経済上の理由などに関わらず「共に育つ」ことを目指し、障がいの有無に関わらず子供たちが一緒に学んでいくために物理的・心理的なバリアフリー化を進める。
- ケ. 書類や物品を整理・保管する場所、掲示物を張れる場所が足りないため、教材収納スペースや教材資材室、掲示スペースを考慮する。
- コ. 放課後児童クラブは小学校区毎に設置されているが、改築して設置したため機能面やセキュリティ・動線の面で課題があるので、屋内運動場やグラウンド・遊具・トイレなどの使用を想定した配置を考慮する必要がある。
- サ. 市内の各小中学校では、鶴子発電所で発電された電気等、県内の再生可能エネルギーを供給するやまがた新電力の電気を使用し、電力の地産地消を身近に学んでいるが、尾花沢市環境基本計画においては、公共施設の設備導入にあたって再生可能エネルギーの活用、省エネ機器の導入など、環境配慮型設備の導入とそれら設備を活用した環境教育が求められている。
- シ. 柔らかで温かみのある感触や優れた調湿効果による、豊かで快適な学習環境とするために内装の木質化も大切である。
- ス. 学校と地域の交流が深められるように、地域の人が集まったり、ふるさと学習を行ったり、地域の歴史を知ったりできる場所を考慮することも重要である。
- セ. 小学校の給食は自校方式と調理場方式に分かれているが、小中学校のあり方に関する基本方針では中学校も含めた全体の給食提供方法を検討し、自校方式の実施を検討することとしている。
- ソ. 採光、通風、換気等を効果的に行うことは省エネルギー性能を高めるために有効であるが、吹き込む雪と張り出す雪庇、重く積み重なる雪など、豪雪地帯の気象により雨漏りや破損が毎年のように発生しているため、尾花沢市特有の気象条件を十分に考慮する必要がある。
- タ. 冬期間、グラウンドが使えないため、中学校においてはピロティを利用した活動を行っているが、高さや広さに制限された内容となっている。冬でも屋外種目ができるような施設は、地域スポーツの振興においても有効である。

③ 安全面における現状と課題

- ア. 子供たちの生命を守り、地域の避難所となる安全・安心な教育環境を実現するため、構造体の耐震化や吊り天井落下防止等、耐震対策を含めた防災機能強化の推進が必要である。
- イ. 避難所の防災機能として、備蓄倉庫や非常用発電機等の整備が課題である。
- ウ. 複合化・集約化をはじめ、地域に開かれた学校施設として地域住民等が利用する空間を設ける際には、動線に配慮するなどの安全対策が課題である。
- エ. 豪雪対策として、駐車場等の除雪における堆雪場の確保、屋内駐車場の整備、容易な雪囲いの設置、屋根の雪下ろし時の安全性確保と経費削減、屋根雪落下時の重みと風圧による人的被害及び建物や乗用車破損の防止等、屋根構造や建物配置計画を十分に検討し、安全で維持管理しやすい建物とする必要がある。

(2) 児童生徒数の現況及び将来推計

令和4年度における小学校の児童数は594人で、学級数は福原・尾花沢・宮沢・玉野・常盤を合わせて、普通学級の単式が26学級、複式が5学級、特別支援学級が9学級、合計40学級である。児童数は今後も減少が続き、令和8年度には500人を下回ると推計される。中学校の生徒数は、令和4年度に333人で、学級数は福原・尾花沢を合わせて、普通学級が13学級、特別支援学級が4学級、合計17学級で、令和8年度には300人を下回ると推計される。

①小学校在籍児童数・学級数（令和4年4月現在）

単位：人、学級

区 分			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	計
福原小	児童数		13	10	14	18	14	20	89
	普通学級数		1	1	1	1	1	1	6
	特別支援学級	知的	1						1
		情緒	1						1
		肢体							
尾花沢小	児童数		56	60	61	58	61	63	359
	普通学級数		2	2	2	2	2	2	12
	特別支援学級	知的	1						1
		情緒	1						1
		肢体	1						1
宮沢小	児童数		5	6	5	6	3	10	35
	普通学級数		1	1		1	1		4
	特別支援学級	知的	1						1
		情緒							
		肢体							
玉野小	児童数		12	10	14	13	8	9	66
	普通学級数		1	1	1	1	1		5
	特別支援学級	知的	1						1
		情緒	1						1
		肢体							
常盤小	児童数		7	6	9	8	6	9	45
	普通学級数		1	1		1		1	4
	特別支援学級	知的	1						1
		情緒							
		肢体							
合 計	児童数		93	92	103	103	92	111	594
	普通学級数	単式	6	4	4	5	3	4	26
		複式		2			2		5
		複式				1			
	特別支援学級	知的							5
		情緒							3
		肢体							1

②小学校児童数将来推計

単位：人

区 分		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	計
令和 5 年度	福原小	19	13	10	14	18	14	88
	尾花沢小	65	56	60	61	58	61	361
	宮沢小	5	5	6	5	6	3	30
	玉野小	8	12	10	14	13	8	65
	常盤小	6	7	6	9	8	6	42
	計	103	93	92	103	103	92	586
令和 6 年度	福原小	12	19	13	10	14	18	86
	尾花沢小	39	65	56	60	61	58	339
	宮沢小	4	5	5	6	5	6	31
	玉野小	9	8	12	10	14	13	64
	常盤小	3	6	7	6	9	8	39
	計	67	103	93	92	103	103	561
令和 7 年度	福原小	10	12	19	13	10	14	78
	尾花沢小	38	39	65	56	60	61	319
	宮沢小	4	4	5	5	6	5	29
	玉野小	7	9	8	12	10	14	60
	常盤小	3	3	6	7	6	9	34
	計	62	67	103	93	92	103	520
令和 8 年度	福原小	14	10	12	19	13	10	78
	尾花沢小	44	38	39	65	56	60	302
	宮沢小	3	4	4	5	5	6	27
	玉野小	6	7	9	8	12	10	52
	常盤小	1	3	3	6	7	6	26
	計	68	62	67	103	93	92	485
令和 9 年度	福原小	9	14	10	12	19	13	77
	尾花沢小	22	44	38	39	65	56	264
	宮沢小	5	3	4	4	5	5	25
	玉野小	8	6	7	9	8	12	50
	常盤小	4	1	3	3	6	7	24
	計(統合小)	48	68	62	67	103	93	441
令和 10 年度	福原小	11	9	14	10	12	19	75
	尾花沢小	35	22	44	38	39	65	243
	宮沢小	3	5	3	4	4	5	24
	玉野小	4	8	6	7	9	8	42
	常盤小	4	4	1	3	3	6	21
	計(統合小)	57	48	68	62	67	103	405

③中学校在籍生徒数・学級数（令和4年4月現在） 単位：人、学級

区 分		1 年	2 年	3 年	計
福原中	生徒数	17	15	23	55
	普通学級数	1	1	1	3
	特別支援学級	知的			1
		情緒			1
尾花沢中	生徒数	90	82	106	278
	普通学級数	3	3	4	10
	特別支援学級	知的			1
		情緒			1
合 計	生徒数	107	97	129	333
	普通学級数	4	4	5	13
	特別支援学級	知的			2
		情緒			2

④中学校生徒数将来推計 単位：人

区 分		1 年	2 年	3 年	計
令和5年度	福原中	20	17	15	52
	尾花沢中	91	90	82	263
	計	111	107	97	315
令和6年度	福原中	14	20	17	51
	尾花沢中	78	91	90	259
	計	92	111	107	310
令和7年度	福原中	18	14	20	52
	尾花沢中	85	78	91	254
	計	103	92	111	306
令和8年度	福原中	14	18	14	46
	尾花沢中	89	85	78	252
	計(統合中)	103	103	92	298
令和9年度	福原中	10	14	18	42
	尾花沢中	82	89	85	256
	計(統合中)	92	103	103	298
令和10年度	福原中	13	10	14	37
	尾花沢中	80	82	89	251
	計(統合中)	93	92	103	288

5. 学校施設整備の進め方

(1) 尾花沢市が目指す教育の方向性

① 学力の向上（基礎づくり）

◆学ぶ力を育む

○【学びに向かう意欲の向上】

身近な事柄や生活と関わる教材や問題を有効活用し、好奇心や探究心を育む

○【基礎・基本の定着】

基礎的・基本的な知識や技能を身に付けさせ、自信を持って学びに挑戦させる

○【思考力・判断力・表現力の育成】

自ら考えたり表現したりする多様な学びの中で、思考力・判断力・表現力を育む

○【探究型学習の推進】

必要感のある課題を通して、探究的・協働的に学ぶ授業づくりを推進する

○【英語教育・ICT教育の推進】

小学校の外国語（活動）、中学校の英語、1人1台端末によるICT教育の充実に向けて機器や外部人材を積極的に活用した授業づくりを推進する

② 社会力の育成（活用場面）

◆豊かな心を育む

○【自尊感情の育成】

子供同士、教師と子供の関わりの中で、認め励まし合い、自尊感情や自己有用感を育む

○【いのちの教育の推進】

「いのち」の大切さ、自分らしい「生き方」等「いのちの教育」を推進する

○【協調性・社会性の教育】

子供同士が支え合い、相談し合える関係を大切にした主体的な活動を重視し、一人一人に寄り添う

○【読育の推進】

読書指導、家庭読書、読み聞かせ等の充実を図り、感性を磨き、想像力を豊かにする読書活動を推進する

○【社会力の向上】

地域行事への参加やボランティア活動等を通じた、社会力や豊かな人間性を育む

○【道德教育の推進】

生き方について考えを深める道德教育を推進し、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育む

◆健やかな身体を育む

○【運動・スポーツの奨励】

運動やスポーツの楽しさを体験できる取組を奨励し、運動能力の向上と健やかな身体を育む

○【体力・ねばり強さの育成】

豊かな自然環境や地域に根ざしたスポーツを通じた、体力とねばり強さを育む

○【食育の推進】

給食の時間や教科・特別活動における食育の充実を図り、望ましい食習慣を形成する

○【生活リズムの確立】

早寝・早起き・朝ご飯を推進し、学習習慣や生活リズムの確立に努める

（２）尾花沢市が目指す学校のコンセプト

『学ぶ力 豊かな心 健やかな身体を育む学校』

尾花沢市が目指す学校施設は、社会情勢の変化や上位計画・関連計画、小中学校の現況、アンケート調査結果、ワークショップでの意見等を考慮し、尾花沢市が目指す教育の方向性を実現するため、次のことに配慮した学び舎を創造する。

空間	内 容
学習	・確かな学力の育成 ・多様な学習活動を可能にする教育環境 ・ICT 教育環境の充実 ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 ・探究型学習の推進 ・学校図書室の充実 ・インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進 ・英語教育の推進 ・基礎体力の向上と心身の健全育成 ・幼保・小・中の連携 ・効果的な教育活動を行うための働き方改革の推進
生活	・快適な環境 ・子供の居場所を確保 ・衛生的な環境 ・内装への木材の活用 ・バリアフリー・ユニバーサルデザインの推進
連携 協働	・ふるさと愛を育む ・地域と共に子供を育む ・他の公共施設との複合化・共用化 ・未来を担う人材を育む ・放課後児童クラブとの連携 ・地域に開かれた信頼される学校
安全 安心	・安全・安心な教育環境 ・避難所としての学校 ・豪雪地にふさわしい学校
環境	・省エネルギー性能の確保 ・環境教育の推進 ・再生可能エネルギーの活用

（３）具体的な学校施設整備の方向性

①『学習』…個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、柔軟で創造的な学習空間を実現する。

ア．変化に対応する柔軟性・可変性をもたせる

ICT の活用により、時間や場所を限定しない学びが可能となるため、学校施設全体を学習に利用するという発想に立ち、デジタル化のための教育環境と合わせ、児童生徒の主体的な活動を喚起し、求められる学び・活動の変化に柔軟に対応できるようにする。

また、時代の変化に対応し、学校施設を長く有効に活用していくために、その時々ニーズに応じた改修がしやすい施設にする。

イ．多様な学習活動を展開できる教室空間

GIGA スクール構想の実現のためには、1 人 1 台端末の確保や高速大容量通信ネットワーク環境のほか、それに対応した教室用机や大型提示装置などを整備できる教室とし、ロッカーや充電保管庫等を教室外に配置することも考える。

多様な学習活動に柔軟に対応できる多目的スペースを教室の周辺に整備する際には、防音効果や温熱対策、可動間仕切りの設置、家具の配置の工夫、教職員の視野の確保に考慮する。

ウ. 読書・学習・情報のセンターとなる図書室「ラーニング・コモンズ」の整備

デジタル化の中で図書室の在り方を捉え直し、図書室を核にしてコンピュータ教室と組み合わせ、読書・学習・情報のセンターとしての役割を持たせる「ラーニング・コモンズ」を整備することで、ICT と図書を活用した、調べる、まとめる、発表するなどの学習活動を効果的・効率的に行えるようにする。

どの教室からも利用しやすいように「ラーニング・コモンズ」を学校の中心に配置し、誰もが立ち寄りやすい雰囲気にすることで、調べ学習での活用や、子供たちの自主的・自発的な学習と協働的な学習を促していく。

※ラーニング・コモンズ：情報通信環境が整い、自習やグループ学習用の家具や設備が用意され、相談係がいる開放的な学習空間。

エ. 設備や家具の導入による教室環境の充実と多様な学習活動の展開

1 人 1 台端末に対応した教室用機の整備を進め、大型提示装置や充電保管庫、カメラなど通信装置等の遠隔会議システムの導入など、ICT 環境整備を推進していく必要がある。

黒板だけでなく、プロジェクタや大型提示装置などを活用することで、黒板中心の学習から多角的な学習や活動が行えるようにしていく。

移動が容易な机、様々な大きさや高さの机、ロッカーなどの家具を配置することで、場面に応じた多様な活動が可能になり、少人数指導、対話や発表等、様々な学習シーンに応じて、スペースを柔軟に変更できたり、活発な議論を促したり、収納したりすることができる家具の有効活用を検討する。

教材収納スペースや教材資材庫、掲示スペースを備え、書類や物品を整理する場所と掲示物が貼れる場所を確保していく。



1 人 1 台端末を文房具として活用し多様な学びを可能にする



教室と隣接する多目的スペースとの連続性・一体性を持たせる



ロッカー等の移動可能な家具を教室外に配置し教室空間を有効活用する



図書室と PC 室を組み合わせ、読書・学習・情報のセンターとなる「ラーニング・コモンズ」としていく

オ. 働き方改革を推進し、教職員が効果的な教育活動を行える執務空間

学校施設は教職員が働く場でもあるため、職員室や準備室等において教職員がより効果的・効率的に授業の準備や研修等を行うことができるような執務環境を確保する必要がある。

また、日常的なコミュニケーションが図られ、リフレッシュできるラウンジなども執務スペースと連携させて整備することが重要である。

カ. 9年間の教育課程を見通した施設環境（小中学校の連携）

小学校・中学校の枠を超えた異学年交流は社会性や人間性を高めることから、学習・生活・遊び等多方面にわたり小学校と中学校が連携できるように諸室や施設配置を工夫する。

小学校と中学校が共通して取り組む事項や指導方法を共有化し、小中双方の教職員が子供一人一人の情報を共有して授業の改善につなげていくため、両校の教職員が連携しやすい施設整備を行う。

また、放課後は小学校の体育館を中学生の部活動の場として使用することや、小中学生の交流を図るためにランチルームでの会食を想定する。さらに、幼児期の教育と小学校教育が円滑に接続できるように、幼稚園・保育園との連携交流も想定した配置とする。

キ. 多様な教育的ニーズのある児童生徒への対応（インクルーシブ教育システムの構築）

障がい、性別、国籍、経済上の理由などにかかわらず、共に育つことを基本理念として、バリアフリー・ユニバーサルデザインを進めインクルーシブな社会環境の整備が求められるため、車椅子使用者用トイレやスロープ等による段差解消、エレベーター等の整備を一層推進していく。

すべての子供が、安全かつ円滑に交流や共同学習を行えるスペース、落ち着いて学習できるスペース、クールダウンできるスペースを用意し、医療的ケアについてもスムーズに行えるように配慮する。

②『生活』…新しい生活様式を踏まえ、健やかな生活空間を実現する

ア. 快適で温かみのある生活空間

学校施設は子供たちの社会性・人間性を育む場でもあり、それにふさわしいゆとりと潤いのある快適な空間にしていける必要がある。子供たちがゆっくり過ごしたり落ち着いたりすることができる居場所となり、また、学校への愛着を育むことができるような温かみのある生活空間を創意工夫により整備していく。

木材は、断熱性や調湿性に優れ、温かみや味わいがあり、そこで学習・生活する子供たちや教職員の快適で健やかな環境を生み出し、健康面・学習面での効果も期待されることから、内装及び家具・備品等への木材の利用促進を考慮する。

子供たちのリフレッシュの場として、落ち着いた雰囲気の中でコミュニケーションや休憩をとることができるラウンジや、子供がその時々状態に応じて居場所にできる小空間・コーナー等を計画し、椅子やベンチ、畳、カーペットなどの家具を配置して、子供たちの自主的・自発的な学びや交流を生み出す工夫をする。

子供と調理員のコミュニケーションが図られ、栄養教諭と学校との連携が密になるなど、食育教育に有効であり、温かいものは温かく冷たいものは冷たいうちに適時に提供することができる自校方式の給食を進め、隣接して建設される予定の中学校への提供も含め検討していく。

イ. 健やかで衛生的な環境の整備

新型コロナウイルス感染症の拡大防止と新しい生活様式も踏まえ、健やかに学習・生活できる衛生的な環境とする。

熱中症対策や衛生環境の改善を図るため、冷暖房設備等の整備を積極的に推進する。また、地域の避難所となる体育館についても断熱性能の確保と空調設備の整備を検討していく。

衛生環境の改善や生活スタイルの変化等を踏まえ、トイレの洋式化・乾式化と手洗い設備の非接触化、学校給食施設のドライシステムや空調設備の導入を推進する。

豪雪地帯である尾花沢市においては、11月中旬から4月中旬までの長い期間、雪に閉ざされグラウンドが使えないため、中学校においてはピロティを利用した活動を行っているが、高さや広さの制限から活動が限定される。冬期間の運動不足解消や不足する活動場所を確保し、運動能力の向上と健やかな身体を育むために、冬でも野外スポーツが行えるような施設を検討していく。



インクルーシブ教育に配慮し、子供たちの居場所となる小空間等の配置や木材を使用し温かみのある空間としていく



壁面の工夫や椅子、ベンチ、畳、カーペットなどの家具を配置し、子供たちの自主的・自発的な学びや交流を生み出す

③『連携・協働』…地域や社会とともに創造する**連携・協働空間**を実現する

尾花沢市は、御所山、翁山が連なる奥羽山脈の山並みや、最上川、丹生川、臈気川、野尻川等の河川とその流域に広がる水田などの雄大な自然、奥の細道や延沢銀山遺跡、徳良湖などの歴史的遺産、スイカや尾花沢牛などの農畜産物、これらの豊かな資源が特徴である。

学校と地域が連携・協働しながら豊かな資源を生かした創造的な活動を企画・立案したり、交流したりするため、地域コミュニティの拠点、地域住民の生涯学習の場として「連携・協働空間」を整備する。

ア. 学校と地域が支え合い協働していくための**連携・協働空間**

子供たちにとって豊かな資源に満ちた尾花沢市で育つことは、自然とともに生活することを身につけられるとともに、自然・歴史・伝統・文化に親しむことによって、ふるさとに感謝する心、健全な心、強い身体など、子供たちの新しい時代を牽引できる力を育む。

尾花沢市内の小中学校では、これまで地域の方を講師に招いた「ふるさと学習」を実施しており、今後も継続して地域で活躍する人々との触れ合いや交流を深めながら地域への愛着と誇りを育てていく。そのため、地域の方が集まることのできる会議室や「ふるさと学習」を行う交流ホールを整備し、ランチルームでの地域住民との会食等を想定する。

「連携・協働空間」を創出する上では、子供と地域住民等との動線を整理して、明確なゾーニング、死角を作らない空間配置、防犯システムの活用など防犯上の工夫が重要である。

また、統合により閉校となる学校の歴史を尊重するとともに、ふるさとの良さを大切にして地域の伝統文化を後世に伝えていくための展示スペース等を検討していく。

さらに、尾花沢市の子供は、地域の伝統文化として花笠踊りや地域の太鼓に積極的に取り組んでおり、校内において練習や発表ができるように、活動スペースや収納スペースを確保する。

イ. 地域の活性化や人づくりのための複合化・共用化等

将来のまちづくりを見据えた地域の拠点としての役割や、地域活性化等の観点から、他の公共施設との複合化や、施設・設備の共用化・集約化等を推進する。

複合化により、児童生徒や地域住民に多様な学習環境が提供できるとともに公共施設の有効活用を促進していく。

建設予定地の周辺には、学習情報センター、えほんの杜、文化体育施設、共同福祉施設、市役所、総合運動公園等の公共施設、住宅地の整備が行われている。これまでのまちづくりと統合小学校の整備を中心にした学園構想との連携を図り、機能分担や相互利用による効率的な施設整備を行う。

放課後児童クラブを小学校内に設置し、屋内体育館やグラウンド・遊具などは、放課後児童クラブの児童も使用することを想定する。

学校プールの夏休み中の地域開放を念頭に、児童生徒と地域住民との動線を分離し、更衣室やトイレの設置を考慮する。

周辺公共施設を含め、子供たちや地域住民が安全かつ円滑に移動できるよう、地吹雪の状況や街路灯の設置を考慮するなど人や車の動線に配慮する。

複合施設は子供たちや地域住民等の多様な人々が利用するため、事故の発生防止や防犯機能の確保に十分配慮する。安全性を確保するためには、地域住民が利用するエリアを明確に区分することや、施設へのアプローチを二方向確保する配置計画や空間構成にしていく。

また、各施設間の相互利用・共同利用が活発になることを考慮し、施設計画の初期の段階から利用内容に応じた総合的な施設管理が可能な組織や運営方法を検討し整備していく。

④『安全・安心』…子供たちの生命を守り抜く、安全・安心な教育環境を実現する

ア. 安全・安心の確保

災害・事故等から生命を守るために、構造体の耐震化のみならず、天井や外壁、ブロック塀などの安全対策、防犯対策等を含め、学校施設全体の安全性を高める。

イ. 死角のない安全な施設

屋内外ともに死角を極力なくし、教職員のみならず周辺住民等が子供を見守り、子供の安全を確保できるようにする。また、校内を見渡せる位置に職員室を配置し、防犯カメラを設置してセキュリティ対策を向上させ安全な施設とする。

ウ. 避難所としての防災機能の強化

地域の避難所として、備蓄倉庫や自家発電設備、Wi-Fi等の情報通信環境を整備し、バリアフリー化を行い、体育館の冷暖房設備の導入を検討して利用者すべてに優しい学校施設とする。災害時に学校施設を地域住民に開放するためセキュリティの確保対策を検討し、住民の避難が長期化する際には学校教育活動を再開するために避難生活と教育活動を同時に行う必要があり、避難所と教育機能とのゾーンや動線を分ける工夫が重要である。また、物資搬入時の車両通行幅や作業スペースを十分に確保する。



地域の避難所としての防災機能の強化と居住性の向上を図る

エ. 豪雪地帯にふさわしい施設

尾花沢市は日本三雪と称される豪雪地であり、駐車場や建物周りの除排雪、屋根の雪処理、屋根からの落雪による人身事故や建物・車両の損傷、雨漏り、ライフラインのメンテナンス、融雪時の軒先やフェンスの損壊等、冬期間における施設の維持管理に大変苦勞している。

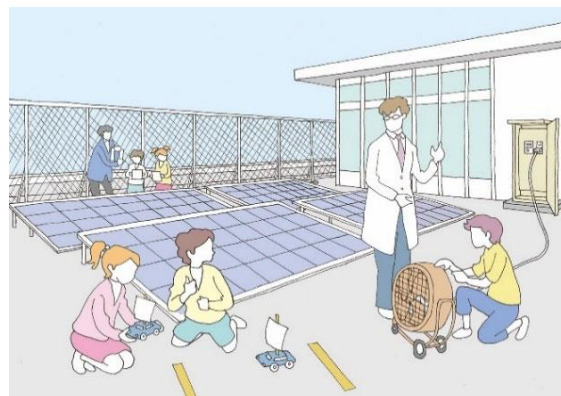
そのため、雪囲いや除雪がしやすく、雪による事故・損傷が避けられ、ライフラインのメンテナンスに支障のない施設及び配置を計画するとともに、十分な駐車スペースと堆雪場所の確保、屋内駐車場の整備を検討する。また、屋根雪の処理については、雪庇・ツララができにくく、極力雪下ろしの必要がなく、雨漏りが発生しにくい構造と消融雪システムの導入を検討する。

⑤『環境』…脱炭素社会の実現に貢献する**持続可能な教育環境**を実現する

ア. 脱炭素社会の実現を目指した学校施設整備

2050年脱炭素社会の実現に向けて、学校施設の省エネルギー化や再生可能エネルギーの導入等を推進するため、太陽光、バイオマス、地中熱、雪氷熱などを検討し、コストが抑えられて地域的に有効なエネルギーの導入を図っていく。

また、導入した再生可能エネルギー設備を活用した環境教育にも努める。



省エネルギー化や再生可能エネルギーの導入を進め、環境教育での活用を図る

6. 施設の有効活用のために必要な事項

尾花沢市が目指す新しい小・中学校の教育環境は、魅力ある教育活動によってさらにその効果が発揮されることから、今後は、小・中が近接した敷地で学ぶという特性を活かした教育活動の具体的な検討や、地域全体で子供を支えていくためのシステム作り等についても検討を深めていく。

また、公共施設が近隣に整備されていることを考慮し、相互利用を図る等、効率的な施設整備を行う必要があることから、各関係機関が連携して取り組んでいくことが重要である。

7. 建設計画地の概要

(1) 建設場所の考え方

①選定指針

【教育環境・生活環境】

ア. 校地環境

- ・災害から子供たちの命を守り避難所としての機能を確保するために、洪水、雪崩、地滑り、土砂崩れ等の自然災害に対し安全な場所
- ・建物、屋外運動施設等を安全に設置できる地質及び地盤であるとともに、危険な埋設物や汚染、地震や陥没等のない土壌の場所
- ・危険な高低差や川などが無い安全な地形で、大規模な造成の必要がない場所
- ・日照、空気、見晴らし、景観、排水の便等が良好な場所

イ. 周辺環境

- ・頻繁に車が入り出る施設が立地していない場所
- ・騒音、振動、臭気等を発生する施設が立地していない場所
- ・社会教育施設や社会体育施設など、共同利用が図れる施設に近接する場所
- ・災害発生時の避難や緊急車両の進入が容易に行えるように、主要道路との接続が良好な場所
- ・電力、通信、上水道、下水道の整備が進んでいる場所
- ・風俗営業及び性風俗関連特殊営業の営業所が立地していない場所
- ・教育上ふさわしくない施設が立地していない場所
- ・学校建設が周辺施設へ迷惑をかけない場所

【アクセス】

ア. 通学環境

- ・徒歩通学の子供の安全を重視し、歩道・横断歩道・信号機、街路灯等の安全施設の整備、通学距離、冬期間の歩道確保等、通学環境の安全を確保できる場所
- ・児童生徒数が多い地域から近く、徒歩通学距離が短い場所
- ・空き家、水路、死角が多い所、人通りの少ない所、熊が出没する所をできるだけ避けられる場所
- ・暴風雨、地吹雪が発生しにくい場所
- ・スクールバスの運行時間とアクセスを考慮した場所
- ・一定幅以上の道路に接しており、渋滞の原因とならない場所

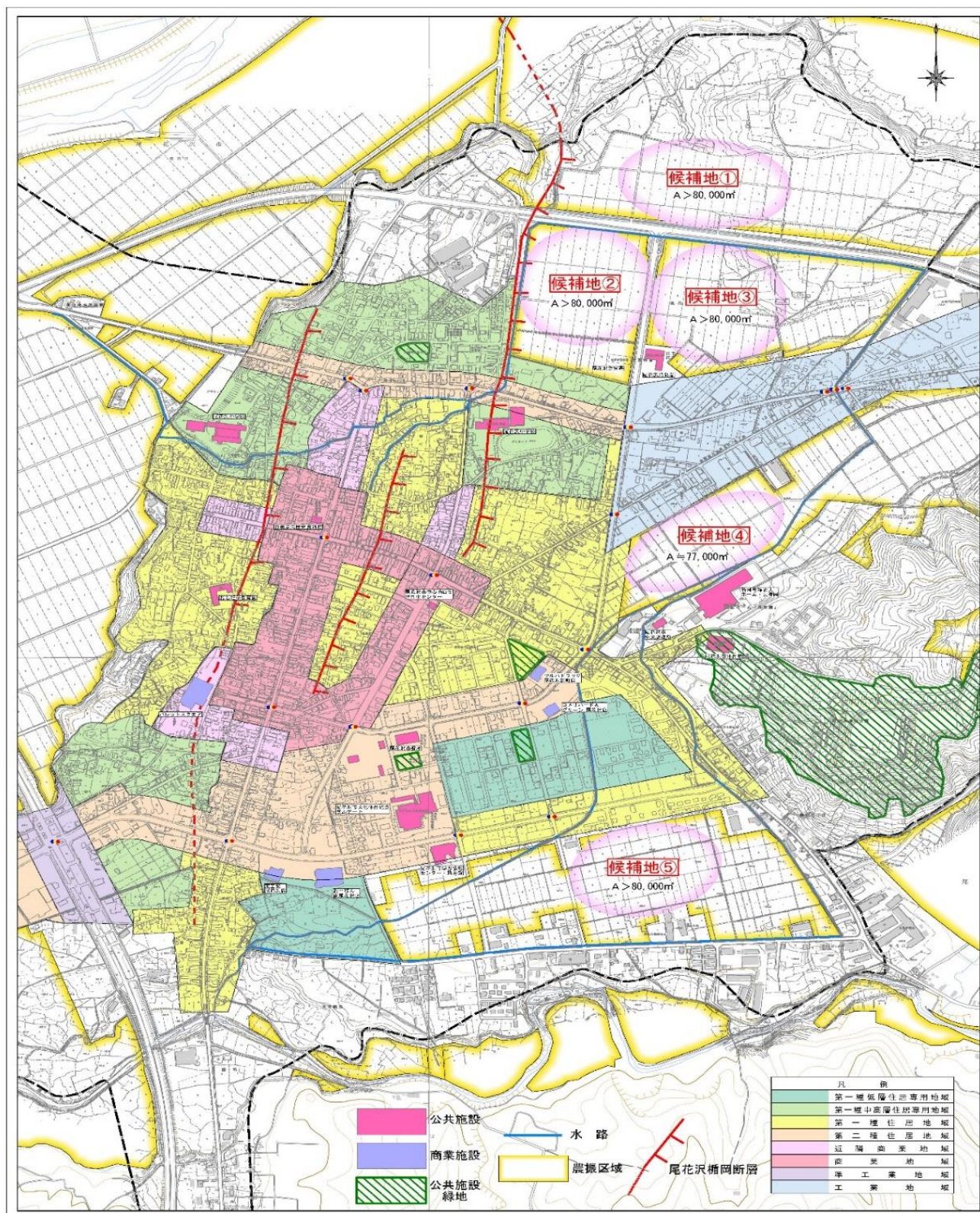
【まちづくり】

ア. まちづくり

- ・これまでの定住・移住策として進めてきた宅地造成や公園整備等の住環境整備と公共施設の集約化を継続させ、市の主要施設から近く魅力ある市街地環境づくりが期待できる場所。
- ・都市計画マスタープラン並びに立地適正化計画が目指す、都市機能の集約化、効率化を図り、生活利便性の高い、コンパクトな都市構造の実現に結びつく場所。
- ・地域住民も学校を利用することから、徒歩及び車の利便性が良い場所。

② 建設候補地…市街地において保育所・小学校・中学校を一体的に整備可能な場所

- ❖ 候補地 1 (国道 3 4 7 号北側)
- ❖ 候補地 2 (尾花沢警察署付近)
- ❖ 候補地 3 (尾花沢市消防本部付近)
- ❖ 候補地 4 (特別養護老人ホーム長寿園付近)
- ❖ 候補地 5 (荒楯付近)



③ 建設候補地の比較評価表

評価項目			評価項目の内容		候補地評点				
					1	2	3	4	5
教育環境・生活環境	Ⅰ. 校地環境の評価				15.6	14.0	15.8	14.8	18.0
	1. 自然災害	①	洪水、雪崩、地滑り、土砂崩れ等の自然災害に対し安全		4.8	5.0	5.0	5.0	5.0
	2. 地質	②	地質及び地盤が良好で、危険な埋設物や汚染、地震や陥没のない土壌		3.5	2.0	3.5	3.0	3.5
	3. 地形	③	危険な高低差や深い川などが無い安全な地形で、大規模な造成の必要がない		2.5	2.0	2.5	2.3	4.5
	4. 環境景観	④	日照、空気、見晴らし、景観、排水の便等が良好		4.8	5.0	4.8	4.5	5.0
	Ⅱ. 周辺環境の評価				25.5	24.0	23.6	27.9	29.3
	1. 周辺環境	⑤	頻繁に車が出入りとする施設がない		3.5	3.5	3.5	4.0	5.0
		⑥	騒音、振動、臭気等を発生する施設がない		3.0	3.0	2.3	5.0	3.8
	2. 公共施設	⑦	社会教育施設、社会体育施設と連携しやすい		1.5	1.5	1.5	3.3	4.5
	3. 生活基盤整備	⑧	主要道路との接続性が良い		5.0	4.5	4.5	2.0	4.0
		⑨	電力、通信、上水道、下水道の整備		2.5	2.0	2.0	4.8	3.5
	4. 教育環境	⑩	風俗営業、性風俗関連特殊営業の営業所等、教育上ふさわしくない施設がない		5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
		⑪	学校建設が周辺施設への迷惑にならない		5.0	4.5	4.8	3.8	3.5
アクセス	Ⅲ. 通学環境の評価				15.0	18.2	18.4	20.0	24.9
	1. 徒歩通学	⑫	歩道、横断歩道、信号機、街路灯等の安全施設の整備状況、冬期間の歩道を確保できる		1.8	2.8	2.8	3.0	4.0
		⑬	児童生徒数が多い地域から近く、徒歩通学距離が短い		1.8	3.0	3.0	4.0	4.8
		⑭	空き家、水路、死角が多い所、人通りが少ない所、熊が出没する所を避けられる		1.8	2.3	2.3	3.0	4.8
		⑮	暴風雨、地吹雪の発生が少ない		1.3	2.3	2.5	4.5	3.8
	2. スクールバス通学	⑯	各地区からの乗車時間とアクセス環境が良い		4.8	4.5	4.5	4.0	3.0
⑰		一定幅以上の道路に接し渋滞の原因とならない		3.5	3.3	3.3	1.5	4.5	
まちづくり	Ⅳ. まちづくりの観点からの評価				6.3	6.6	6.3	10.8	14.3
	1. まちづくり	⑱	これまでの定住・移住策として進めてきた宅地造成や公共施設の集約化を継続させ、市の主要施設から近く魅力ある市街地環境づくりが期待できる		1.8	1.8	1.8	2.8	5.0
		⑲	都市計画マスタープラン並びに立地適正化計画が目指す、都市機能の集約化、効率化を図り、生活利便性の高い、コンパクトな都市構造の実現に結びつく		1.5	1.8	1.5	3.5	4.8
		⑳	地域住民の徒歩及び車の利便性が高い		3.0	3.0	3.0	4.5	4.5
総合		評点		62.4	62.8	64.1	73.5	86.5	
順位				5	4	3	2	1	

④ 建設候補地に関するアドバイザーの講評

各候補地を以下のように評価する。

候補地 1

主要道路との接続がよく、児童生徒のバス通学や地域住民の学校利用などの車を利用する際の利便性が高い点が評価できる。また、学校建設が周辺施設への迷惑にならないなどの利点も見られる。しかし、児童生徒の徒歩通学に関しては、通学距離、歩道等の安全施設の整備状況、人通りの少なさなどの課題が多い。また、国道347号に接していること、消防署・警察署が近くにあることで騒音の問題がある。さらに、魅力ある市街地環境づくりや生活利便性の高いコンパクトな都市構想の実現に結び付きにくいという課題もある。こうしたことから、学校建設の候補地には適していないと判断する。

候補地 2

洪水や雪崩などの自然災害に対する安全性はあるものの、尾花沢楯岡断層が西側に接しているという問題点がある。児童生徒の徒歩通学の際の安全施設の整備状況やスクールバス通学でのアクセス環境などが適していると評価することができる。一方で、候補地一帯が周辺よりも全体的に低いため、多量の盛土をする必要が想定される点、社会教育施設や社会体育施設との連携、消防署・警察署が近くにあることで騒音の問題がある点、生活利便性の高いコンパクトな都市構想の実現に結び付きにくいという点に大きな課題がある。こうしたことから、学校建設の候補地にはあまり適していないと判断する。

候補地 3

洪水や雪崩などの自然災害に対する安全性がある点、学校建設が周辺施設への迷惑にならない点、街路灯等の安全施設の整備状況・冬期間の歩道の確保などの点、スクールバス通学でのアクセス環境が高く評価できる。一方で、警察署・消防署が近くにあるため、緊急車両の警報音や救助への離着陸時の風圧や騒音の問題があり、学習の環境としてはあまり望ましくないものと思われる。社会教育施設や社会体育施設との連携、生活利便性の高いコンパクトな都市構想の実現に結び付きにくいという点に大きな課題がある。こうしたことから、学校建設の候補地にはあまり適していないと判断する。

候補地 4

騒音や振動等を発生する施設がない点や上下水道が整備されている点、また暴風雨や地吹雪の発生が少ないなどの点が高く評価できる。また、児童生徒が多い地域から近く、通学距離が比較的短くなっている点や魅力ある市街地環境づくり、生活利便性の高いコンパクトな都市構造の実現に結び付きやすいという良さもある。幅2mと1.4mの蓋なしの導水路がある点、進入路が狭隘で広い進入路を新たに整備する必要がある点、奥まったところに位置し窮屈な感じがする点に課題がある。以上の点を踏まえて、候補地としてやや適していると判断する。

候補地 5

課題点として主要道路との接続性やスクールバスによる通学の乗車時間がやや長くなる点、亜炭の採掘による空洞の可能性がある点が挙げられるものの、総体的に各評価項目において高い評価を与えることができる候補地である。特に、社会教育施設や社会体育施設との連携のしやすさ、児童生徒の徒歩通学距離の短さや、人通りの多さなどの通学の安全性に関わる部分で他の候補地よりも高く評価することができる。また、これまでの定住・移住策として進めてきた宅地造成などと併せた魅力ある市街地環境づくり、生活利便性の高いコンパクトな都市構造の実現に結び付くという観点から特に高く評価した。こうしたことから、候補地として最も適していると判断する。

学校を整備するにあたっては以下のことに留意すべきである。

人口減少社会においては、まちの中心部にコンパクトに施設を集める必要があり、今後、検討される公共施設については集約化と複合化が求められる。

コンパクトに施設を集め、それぞれの施設の連携を図る際には、車による移動から徒歩での移動に変えていく必要がある。尾花沢市のような豪雪地においては商業施設や公共施設、スポーツ施設、医療機関などを集積し、それらの施設に雁木（雪よけの屋根）を巡らせるなど、無雪空間によるネットワークが有効である。また、脱炭素社会の実現に向け、尾花沢市環境基本計画に基づき、エネルギーのあり方や再生エネルギーの導入に熱心に取り組まなければならない。単なる小中学校の建て替えに終わることなく、市の総合的な取組の中で小中学校建設を位置づけるべきである。

⑤ 建設地の選定

学校は子供と教職員が日々過ごす所であるとともに、災害時には避難所となる施設で、自然災害に対し安全であることが重要である。また、日々生活しやすい環境、学習や様々な活動がしやすい環境が理想的である。さらには、徒歩通学の安全が確保され適度な通学時間であることが大切である。加えて、学校は地域の人も利用する施設でもあるため、地域の人が行きやすく使いやすい場所にある必要がある。

以上のことを基に選定指針を作成し5つの建設候補地を比較評価したところ、候補地5の荒楯付近が最も適していると評価されたため、候補地5を学校建設地として選定する。

ただ、候補地5は主要道路との接続性が弱いこと、スクールバスによる通学時間が長いこと、垂炭採掘跡地であることが課題である。

市内各地から多くのスクールバスが学校に集まることになるので、渋滞を防ぐ対策、学校敷地内での待機場所や旋回場所の確保、児童生徒の安全対策を考慮した配置計画、敷地計画を作成していく。また、スクールバスの通学時間をできるだけ短くするような、スクールバスの配置及び運行を計画していく。さらに、ポーリング調査による空洞調査を実施し安全な構造の学校を建設していく。

（２）建設予定地及び周辺地域の地域性等

建設予定地 尾花沢市大字尾花沢字中新田地内

敷地面積 約 7 h a

建設予定地となる中新田地区は尾花沢市街地内の南東部に位置し、住居地域に囲まれた田園地帯で緩やかな傾斜地となっている。

周辺の地形条件については、東に長根山、南に隴気川があるが、近接しておらず土石流や急傾斜、地すべり、浸水区域から外れている。また、「尾花沢楯岡断層」の活断層から離れた場所に位置している。そのため、自然災害の発生は少ないものと予測される。さらに、危険な水路がなく騒音も少ない良好な学習環境となっている。

（３）建設予定地及び周辺の状況、土地利用計画

① 建設予定地及び周辺の現況

建設予定地は、東側に総合運動公園、市営長根下住宅、西側にえほんの杜、学習情報センター、文化体育施設、共同福祉施設、市役所等の公共施設が近接している。また、南側に市営荒楯住宅、荒楯分譲地、尾花沢ニュータウン、紅花団地があり、北側には花笠ニュータウン、ニュータウン東光台がある。

このように、公共施設の建設と宅地造成を行い市街地形成が図られてきた地域に位置していることから、安全施設が整備され周辺住民の見守りがあるため子供たちの安全な徒歩通学が可能であ

る。また、保護者の送り迎えや周辺施設との連携、地域住民の学校利用に便利な場所である。

② 土地利用計画

統合小学校の周辺に中学校を建設する計画がある。また、都市計画マスタープラン・尾花沢市立地適正化計画に基づき都市機能や住居区域の集約化を図り、利便性の高いまちづくり、子育て世代に配慮したまちづくりを進めて行く。

③ 法規制

用途地域(建ぺい率／容積率)	都市計画区域内 指定なし（－／－）
防火地域	指定なし
その他の地域	建築基準法第 22 条の規定による屋根不燃区域
高さ制限	なし
日影規制	なし
災害予測	・洪水ハザードマップ 浸水深 0 m ・土石流警戒区域 指定なし ・急傾斜警戒区域 指定なし ・地すべり警戒区域 指定なし ・「新庄盆地断層帯」及び「尾花沢楯岡断層」から離れている
農業・農地	・農業振興地域 農用地区域 ・農地法 農地

Ⅲ. 小学校建設基本計画

1. 基本計画の概要

基本計画は、基本構想における学校施設の姿（ビジョン）、学校施設整備の方向性に基づき、新設小学校の配置計画、諸室計画、構造計画、設備計画に関する基本的な考え方を整理し設計等の指針とする。

2. 施設規模

施設規模は、開校時（令和 9 年度）の尾花沢市の児童数に応じた規模とし、児童数の変化や維持管理等の長期的な負担を考慮しながら合理的に整備する。

（1）計画学級数

学級数：22（普通教室：17、特別支援教室：5）

（2）施設規模（上限）

敷地：36,000 m²、校舎：6,253 m²、屋内運動場：1,258 m²、調理室：288 m²、プール：400 m²、グラウンド：14,000 m²

3. 配置計画

配置計画は、校舎等の配置、周辺施設との連携、自然環境との調和に配慮して検討する。

（1）校舎等の配置

- ①校舎等は必要十分な大きさを確保し、教育活動、運動、安全等に配慮するとともに、放課後児童クラブや共用スペースへの動線を二方向から確保する。
- ②放課後児童クラブは校舎棟に合築する。
- ③駐車場は、来客、職員、業者等の利便性に配慮し、教職員及び来客用の必要台数として200台程度を確保する。
- ④プールは地上配置を基本とし、プライバシーを考慮する。
- ⑤体育館は2階に設置し、1階部分には災害時に備えて物資を備蓄するスペースと物品搬入作業が可能なスペースを確保する。
- ⑥グラウンドは、校舎からの動線を考慮し、児童の円滑な利用とケガの迅速な処置が図られる位置に計画する。また、児童が十分に運動できるよう、200mトラック及び100mの直線走路を確保する。
- ⑦校舎棟等は児童の日常生活の中心となることから、良好な日照、通風等の確保に配慮する。
- ⑧学校へのエントランスについては、登下校時における徒歩通学及びスクールバス通学の児童の安全を確保する。
- ⑨除排雪とライフラインのメンテナンスがしやすく、落雪による人身・物損の事故を防ぐ配置にする。

（2）周辺施設との連携

- ①周辺の学習情報センター、えほんの杜、文化体育施設、総合運動公園等の公共施設や将来的に隣接する中学校と相互に連携しやすい施設配置、動線に配慮する。

- ②小学校のグラウンドや遊具、屋内運動場は、放課後児童クラブの児童、地域住民も使用しやすいようにする。
- ③中学生との連携としては、本の読み聞かせやランチルームでの会食等を想定する。また、部活動での屋内運動場やグラウンドの利用等、施設の相互利用に配慮する。
- ④駐車場の出入り口は、広域からのアクセスに配慮した配置とする。

(3) 自然環境との調和

- ①児童が、周辺の自然の雄大さを身近に感じられるよう景観に配慮し、御所山、葉山、月山が視野に入るように配慮する。
- ②夏の蒸し暑さを和らげ冬の暴風雪を遮るため、東南の風が吹き込み北西の風を防ぐ工夫をする。

4. 諸室計画

新設小学校に整備する諸室等に関する基本的な考え方は次のとおりとする。

棟	区分	室名等	面積・計:m ² ,数:室数			配 慮 事 項
			面積	数	計	
校舎棟	普通教室	普通教室	64	17	1,088	1. 多様な教育活動が展開できるように配慮する。 2. 児童にとって魅力があり安心して落ち着くことができる場として計画する。 3. 学年単位の活動等を考慮し、同一学年が同一階、同一区画となるように配慮する。 4. ロッカーや充電保管庫等を室外に設置するなど、1人1台端末環境等に対応した机や大型提示装置を設置できる、ゆとりある室内空間とネットワーク環境を整備する。 5. 学年ごとに、通級指導教室・教育相談室、教材資料室を隣接させる。
	少人数授業用教室	特別支援教室	32	5	160	1. 職員室・保健室の近くに配置する。 2. 可動間仕切りを設けるなど、障害に応じた多様な形態で利用できるようにする。 3. 外部からの音や視覚的な刺激が制御でき、安全性を十分に考慮する。
		通級指導教室	32	4	128	1. 障がいの状態に応じて各教科の内容を取り扱いながら多用な学習活動等に柔軟に対応できるようにする。
	多目的教室	多目的教室	64	1	64	1. 個別学習、少人数指導による学習、グループ学習等、多様な学習活動に柔軟に対応できる計画とする。 2. 学習内容や学習形態等に応じた各種コーナーを形成したり、各種の机、収納家具等を配置できる空間を確保する。
		多目的スペース	128	6	768	1. 普通教室と隣接して多目的スペースを設置し、多様な学習活動、集会や交流等、学校生活を豊かにする場として整備する。 2. 防音性能や断熱性能に配慮し、他のクラスに気がねなく快適に使えるようにする。 3. 移動間仕切りを設置し個別指導やグループワーク、展示・発表等、多様な教育・学習に対応した備えとする。 4. デンやアルコーブ（子供のための小部屋・プライベートスペース）、読書コーナー、流しのコーナー、教材スペース、収納スペース等の機能を検討する。

棟	区分	室名等	面積・計:m ² ,数:室数			配 慮 事 項
			面積	数	計	
校舎棟	多目的教室	大階段	48	1	48	1. 階段状の空間を設置し、発表や討論などの教育活動に活用できるように検討する。 2. 児童が腰を下ろして休憩、交流ができるように検討する。 3. 表現活動を補助する、展示用壁面、大型提示装置などの設置を検討する。
		理科教室	96	1	96	1. 実験や観察、飼育、栽培等に配慮した面積、机の大きさとする。 2. ICTを活用した観察、実験の指導等を考慮する。 3. 臭気の出る作業を想定し、換気に十分配慮する。
	特別教室	理科準備室	32	1	32	1. 観察、実験等に用いる器具、材料、教材、薬品等を安全に収納し管理できるようにする。 2. 地震等による薬品の落下及び薬品棚の転倒が起こらないように計画する。
		生活科室	64	1	64	1. 学習活動で使用する教材、材料、作品等が保管できるスペースを設ける。 2. 低学年(1・2年生)の教室に近い配置とする。
		音楽教室	102	1	102	1. 音楽の喜びが感じられ、音響及び防音に配慮する。 2. 授業やその他の音楽発表が行えるように、合唱用ステージの設置を検討する。 3. 多目的ホール・コミュニケーション(ランチ)ルームと連携し、大勢の前で演奏会や発表会ができるようにする。
		音楽準備室 楽器室	32	1	32	1. 十分な楽器収納量を確保する。
		図画工作室	96	1	96	1. ものづくりの楽しさを育てられる部屋とする。 2. 収納、保管、展示、鑑賞等のための家具や空間を確保する。 3. 作品の制作に配慮して、汚れにくく清掃しやすい床仕上げとし、天井を吹き抜けにするなどの工夫をして児童の作品を展示するスペースを確保する。 4. 臭気の出る作業を想定し、換気に十分配慮する。
		図画工作 準備室	32	1	32	1. 危険な材料や各種工具等を安全に保管できるようにする。 2. 製作途中の作品等を一時保管できるようにする。
		家庭科室	96	1	96	1. 被服室1教室、調理室1教室とする。 2. 多目的ホール・ランチルームと連携し、「調理する」「食べる」の一連の流れが体験できるように、食育を考慮した計画とする。
		家庭教室 準備室	32	1	32	1. 被服と調理それぞれの教材・材料・用具・機械等を安全に保管できるようにする。 2. 製作途中の被服等作品を一時保管できるようにする。

棟	区分	室名等	面積・計:m ² ,数:室数			配 慮 事 項
			面積	数	計	
校舎棟	特別教室	外国語教室	64	1	64	1. 歌や会話の音が、隣接する教室等の支障にならないよう考慮して配置する。 2. 体を動かす活動やグループでの活動など多様な活動に対応でき、床に座って行う活動や発表の場としても考慮する。 3. 外国についての関心と理解を促すための資料を展示・掲示できるスペースを確保する。 4. 教材等を収納する空間を確保する。
		ラーニング・コモンズ	256	1	256	1. 学校図書館を核にしてコンピュータ教室と組み合わせ、読書・学習・情報のセンターの役割を持たせる「ラーニング・コモンズ」を設置する。 2. どの教室からでも利用しやすいように学校の中心に配置し、児童が気軽に立ち寄りやすく滞在したくなる魅力的な空間にする。 3. 図書室とコンピュータ室は、間仕切り壁をガラス張り(防音性を確保)にする等、ラーニング・コモンズ全体が広がりを持った空間になるよう構成する。 4. 児童がその時々状態に応じて居場所にできる小空間・コーナーを配置するなど、快適でリラックスできる空間を計画し、椅子やベンチ、畳、カーペットなどの家具を配置して、自主的・自発的に学びや交流ができるようにする。 5. 図書とコンピュータを使用した調べ学習等を同時にできる、自主学習スペースを確保する。
		図書準備室	32	1	32	
		教育相談室	16	4	64	1. 相談者のプライバシーを配慮する等、カウンセリングしやすく落ち着いた雰囲気となるよう考慮する。 2. 児童が立ち寄りやすく保健室と連携できて保護者の動線を考慮した計画とする。
		小 計			3,254	

棟	区分	室名等	面積・計:m ² ,数:室数			配 慮 事 項
			面積	数	計	
校舎棟	管理諸室	校長室 応接室	48	1	48	1. 応接室と一体に整備し、職員室から直接出入りができるように計画する。 2. 全校の様子が把握しやすい位置とする。
		職員室 事務室	128	1	128	1. グラウンドを見渡せるとともに防犯カメラのモニターを設置し、防犯対策や緊急対応がしやすい配置となるよう計画する。また、来客対応にも配慮する。 2. 児童に安心感を与え、訪れやすい雰囲気とする。 3. 職員室と事務室は一体として整備する。
		ラウンジ	16	1	16	1. 教職員のリフレッシュとコミュニケーションが図られるようにする。
		打合せ スペース	16	1	16	1. 教職員がより効果的・効率的に授業の準備や研修等を行えるスペースを確保する。
		教材収納 スペース	16	1	16	
		給湯室		1		
		会議室	64	1	64	1. 職員室に近接した場所に設置する。 2. 可動間仕切りを設け、分割して利用できるよう計画する。
		保健室	80	1	80	1. グラウンドから直接出入りができ、緊急時の対応がスムーズにできるように配慮した配置・動線及びバリアフリー化にする。その近傍に手洗い、足洗い場、物干し場を設置する。 2. 職員室、特別支援教室との連携に配慮する。 3. 多目的トイレ、水飲み場、シャワールーム等、日常生活の指導に必要な設備を設置する。 4. 児童が相談しやすいように、可動間仕切りによるプライベートに配慮した落ち着いた空間を確保する。
		印刷室	32	1	32	
		教材資材室	16	6	96	1. 各学年にそれぞれ1室を整備する。
	小 計				496	
	給食関係諸室	コミュニケーション (ランチ) ルーム	192	1	192	1. 学年の児童・教職員が一斉に使用できる程度の広さとする。 2. 異学年交流を目的に園児、中学生、地域住民との会食や交流を行うことも想定する。 3. 音楽室、家庭科室と連携し、音楽会、発表会、家庭科の授業で調理したものの食事会の開催を考慮する。
		配膳室	32	3	96	1. 各階に給食を衛生的に配膳できるスペースを確保する。 2. 配膳室には小荷物昇降機を設置する。
	小 計				288	

棟	区分	室名等	面積・計:m ² ,数:室数			配 慮 事 項
			面積	数	計	
校舎棟	その他	多目的ホール	224	1	224	1. 通常は、学年集会、視聴覚設備を活用した学習、音楽活動の場として、多目的に使用する。 2. 視聴覚機能を備え、それに対応した仕上げとする。
		地域交流ホール	192	1	192	1. 1階に配置するとともに、地域住民の利用に配慮する。
		地域交流ホール玄関		1		
		歴史展示スペース	64	1	64	1. 旧小学校及び各地区に関する歴史や資料等を保存・展示できるスペースを設ける。 2. 学校を訪れた人の目に留まる場所を考慮した配置計画とする。
		PTA室 地域活動室	32	1	32	1. PTA活動や授業への協力、ボランティア活動等を行う人たちが使用する室とする。 2. 保護者や地域の人が利用しやすい位置に配置する。
		児童会室	64	1	64	1. 放課後に児童が集まり活動することを想定した計画とする。
		放送室	20	1	20	1. 必要な音響的環境を確保できる形状と構造とする。
		職員更衣 休憩室(男)	22	1	22	
		職員更衣 休憩室(女)	22	1	22	
		書庫	32	1	32	
		用務員 作業室	32	1	32	
		児童用トイレ (男)	32	3	96	1. 階段、トイレ・手洗い等の高さについて、小学生の体格を考慮した計画とする。 2. バリアフリー・ユニバーサルデザインに配慮するとともに、学校集会、イベント、あるいは災害発生時の避難等、非日常時にも十分に対応可能な規模・設備を持たせ、地域住民が利用するエリアを明確に区分するとともに動線を考慮する。 3. トイレの洋式化・乾式化、手洗い設備の非接触化の導入を図る。
		児童用トイレ (女)	32	3	96	
		多目的トイレ		1		
		来客用トイレ (男)	14	1	14	
		来客用トイレ (女)	14	1	14	
		来賓・教職員用トイレ(男)	9	1	9	
		来賓・教職員用トイレ(女)	9	1	9	
		洗面所		1		
		昇降口 (児童用玄関)		1		

棟	区分	室名等	面積・計:m ² ,数:室数			配 慮 事 項
			面積	数	計	
校舎棟	その他	来賓・教職員用玄関		1		
		廊下		1		
		階段		1		
		通用口		1		
		廃棄物保管場所	20	1	20	
		倉庫	16	3	48	
		機械室		1		
		E V		1		
	小 計				1,010	
合 計				5,048		
校舎棟	調理場	調理場	288	1	288	1. ドライシステムを基本とする。 2. 作業の流れに配慮し、各室を効果的に配置する。 3. 調理室は衛生面や高温多湿な環境に十分配慮し、作業場内の動線に留意する。 4. 下処理室と調理室は明確に区別する。 5. 食品等の搬入口と児童通用門とを分離し、調理室を経由しない搬入・搬出とする。 6. 専用の更衣室、休憩スペース、倉庫、トイレなどを設ける。
	小 計				288	
	放課後児童クラブ	居室	64	4	256	1. 校舎棟との合築とするが専用の玄関を設置し、屋内運動場・グラウンドへの動線にも配慮して配置する。 2. トイレは校舎棟または屋内運動場棟を利用し、それ以外の学校エリアへ行き来できない管理区分を配慮して計画する。 3. 居室から直接屋外に出入できるようにする。
		事務スペース 静養スペース				
		台所		1		
	玄関		1			
小 計				256		
合 計				544		

棟	区分	室名等	面積・計:m ² ,数:室数			配 慮 事 項
			面積	数	計	
屋 内 運 動 場 棟	屋内 運動場	体育館	860	1	860	1. 体育館は2階に設置する。
		ステージ	70	1	70	2. 教育活動上必要十分な広さ（ミニバスケットコート
		控室	30	2	60	2面分以上）とし、振動、騒音対策に配慮する。
		ミーティン グルーム	30	1	30	3. 中学生の部活動使用や地域開放を想定し、二方向の 動線確保とセキュリティの確保を計画する。
		更衣室 (男女別)	15	2	30	4. 屋内運動場上部に、高さや強度のある手すりや窓か らの転落防止柵等、安全性のある観覧席兼ランニング
		トイレ (男女別)	40	1	40	コースを設ける。
		多目的トイレ		1		5. 避難所としての環境を向上させるため、バリアフ リー化と情報通信環境の整備を行い、自家発電機・冷
		洗面所		1		暖房設備の導入とセキュリティの確保対策を検討す る。
		器具庫	35	2	70	6. ステージ両脇に控室を設ける。
		放送室	20	1	20	7. ステージに車いすです上がれるようにスロープを設け る。
		いす収納庫		1		8. グラウンドとの連携を踏まえた導線に配慮する。
		連絡口		1		
		玄関		1		
	小 計				1,180	
	防災 倉庫	防災倉庫	64	1	64	1. 避難所となる体育館に物品を運搬しやすい配置とす る。 2. 資機材の搬出入を考慮し、安全な動線と作業スペ ースを確保する。
	小 計				64	
合 計				1,244		
延べ床面積計				6,836		

棟	区分	室名等	面積・計:m ² ,数:室数			配 慮 事 項
			面積	数	計	
屋 外 施 設 等	プール	プール	25m×6コース 2コース低学年用			1. 屋外仕様を地上に設置し、外部からの視線などに配慮する。
		教官室 事務室		1		2. プール授業が天候に左右されにくくなるような附帯設備を検討する。
		更衣室(男)	20	1	20	3. 児童の安全、日当たり、利便性、防災機能、メンテナンス性等を考慮する。
		更衣室(女)	20	1	20	4. 夏休み中の市民開放を考慮する。
		トイレ (男女別)	50	1	50	5. 雪害に強いフェンスの設置を考慮する。
		シャワー コーナー		1		6. 災害時にプール水を飲料水等に活用できる浄化装置を備えるとともに、防火用水、便所洗浄水等として利用できるようにする。
		器具庫	30	1	30	
		機械室	30	1	30	
	グラウ ンド	グラウンド	200mトラック 100m直線コース			1. サッカー、野球などの球技が可能な広さを確保する。また、中学生の部活動使用や地域開放を想定し、外部からも利用しやすい位置に計画する。
		遊具		1		2. 校舎及び保健室からの動線等を考慮し、児童の円滑な利用と安全対策が図られる位置に計画する。
		畑	36	6	216	3. 良好な排水性を確保する。
		旗揚げ塔 時計		1		4. グラウンドや遊具は、放課後児童クラブの児童も使用することに配慮する。
		用具倉庫	80	1	80	5. 遊具は耐雪型の鉄棒・滑り台・ジャングルジム・ブランコ・雲梯と砂場を整備する。
		水飲み場		1		
		足洗い場		1		
		トイレ (男女別)		1		
	外構等	駐車場	200台			1. 駐車場は、歩行者と車両の動線を分離した安全な計画とする。
		校門		1		2. イベント時は周辺公共施設と連携し、学習情報センター、文化体育施設、市役所の駐車場を有効活用する。
		スクールバ ス乗降場・ 待機場		1		1. 歩行者の安全に配慮したアプローチ動線とする。
		マンホール カバー		1		1. 児童の安全性、利便性等を考慮して計画する。また、正門まで歩車分離や駐車場出入口との交錯防止等、交通安全対策を図るとともに、教職員の目が届くように配慮する。
		かまどベンチ		1		
		街路灯		1		
		植栽・花 壇・ビオ トープ		1		1. 中庭や敷地の外周部等に、四季を感じることでできる樹木の植栽、花壇の設置等をし、緑豊かな環境を創造する。

5. 構造計画

(1) 耐震安全性

耐震安全性は、官庁施設の総合耐震・対津波計画基準（国土交通省大臣官房官庁営繕部）に基づき、下表の分類の耐震性能を確保し児童の安全性に配慮し検討する。

部 位	分類	耐震安全性の目標
構造体	Ⅱ類	大地震動後、構造体の大きな補修をすることなく建築物を使用できることを目標とし、人命の安全確保に加えて機能確保が図られるものとする。
建築非構造部材	A類	大地震動後、災害応急対策活動等を円滑に行ううえ、又は危険物の管理のうえで支障となる建築非構造部材の損傷、移動等が発生しないことを目標とし、人命の安全確保に加えて十分な機能確保が図られるものとする。
建築設備	乙類	大地震動後の人命の安全確保及び二次災害の防止が図られていることを目標とする。

(2) 構造・階数

構造は、安全性、機能性、快適性、経済性に配慮し、階数、スパン、耐震性（強度）、長寿命性、遮音性、耐火性、耐水性、耐雪性、拡張性、柔軟性等を加味して以下を基本に検討する。

- ・校舎：鉄筋コンクリート造、3階建、陸屋根、地中熱を利用した屋根雪庇防止融雪
- ・屋内運動場：鉄筋コンクリート造、鉄骨造、2階建、切妻屋根

6. 設備計画

設備は、安全性、快適性、省エネルギー性、経済性、メンテナンス性に配慮するものとする。

(1) 電気設備

①基本方針

- ・エネルギー効率の高い機種の選定により、ライフサイクルコストを削減するとともに、消耗品、交換部品の手配やメンテナンス性等、維持管理に配慮した計画とする。
- ・自然採光を積極的に取り入れ、節電や自然エネルギーの活用等に取り組む。
- ・各設備は、機能の拡張性、柔軟性等を考慮する。

②照明・電灯コンセント設備

- ・照明器具はLED等の省エネルギー・高効率タイプを利用するとともに、メンテナンスの容易なものとする。また、器具の種別を最小限にして維持管理を容易にする。
- ・照明は、各室の利用用途に応じた消点灯方法とする。

③受変電設備

- ・受変電設備、分電盤、制御盤等について、適切に整備する。

④発電設備

- ・災害時等にも対応する太陽光発電設備及び蓄電システムを設置する。
- ・発電設備の能力は、関係法令等に定めのある機器類の予備電源装置として設置するとともに、施設内の重要負荷への停電時送電用として設置したうえで、最低限必要な設備（照明、コンセント、送水ポンプ等）を24時間稼働できるようにする。

⑤情報通信設備

- ・各諸室において、無線LANを整備するほか必要に応じて有線LANを利用することができるよう整備する。

- ・LAN技術の革新に対応する配線交換の容易な設備を設置する。

⑥校内放送・テレビ受信

- ・職員室からグラウンドを含めた校内全体への放送設備を設ける。
- ・テレビ放送受信設備の設置を適切に行う。
- ・放送室には、各種イベントに対応できる放送設備を計画する。

⑦警備設備

- ・機械警備設備の設置に当たっては、職員室にて一元管理（警備状況の監視及び入切）を行い、職員室にて確認できる計画とする。
- ・必要な箇所に防犯カメラを設置し、職員室にて一元管理（監視及びカメラのコントロール）を行い、職員室にてモニター等で確認できる計画とする。

⑧中央監視設備・防災設備

- ・中央監視盤、総合防災盤は、職員室に設置する。

（２）機械設備

①基本方針

- ・地球温暖化防止等地球環境に配慮し、資源の節約と自然エネルギーの有効活用に配慮した環境にやさしい設備計画とする。
- ・安全性、将来性を考慮し、各室の用途・利用時間帯を配慮したゾーニングを行い、快適な空調システムを選定する。
- ・熱源機器の集約化や自動制御設備等を導入し、維持管理が容易なシステムとする。
- ・給排水管は高耐久性に配慮するとともに、腐食等の変形が生じにくいものを使用する。

②空調換気設備

- ・使用方法、コスト等を考慮した最適なシステム・方式を選定する。また、冷房・暖房熱負荷や換気量等を考慮して、適正な室内環境を維持する仕様を選定する。
- ・各室の用途、使用方法、利用時間帯等に配慮したゾーニングを行い、各室ごとに制御できるものとする。
- ・熱中症対策、感染対策、豪雪寒冷地域の気象を考慮した冷暖房機能と空気清浄機能を持たせるとともに維持管理費の抑制に配慮する。
- ・教室及び屋内運動場等については、自然通風に十分配慮し適切な換気計画とする。
- ・各給排気口は、粉塵・害虫・雨水の侵入を防止する構造とする。
- ・屋内運動場は災害時の避難所となることから、夏の熱中症対策と冬の暖房、感染防止対策に配慮する。

③給排水衛生設備

- ・衛生器具類は、感染対策やユニバーサルデザインに十分配慮しつつ、節水型の器具を採用する。
- ・停電時における飲料水確保のため、設置可能な部分には直結給水方式を計画する。避難所の飲料水確保のため、受水槽には緊急時用の蛇口設置を計画する。
- ・雑用水は、雨水や軽負荷排水再利用等による水資源の効率的運用、省資源化を検討する。
- ・職員、児童の快適性、耐久性、保守管理の容易さに優れた機器及び器具とする。
- ・多目的トイレは、車椅子使用者及びオストメイトに対応した設備を設け、特別支援教室の近傍に配置する。
- ・災害時にプール水を飲料水等に活用できるように浄化装置を備える。

④エレベーター設備

- ・ユニバーサルデザイン対応として、児童及び来訪者が利用するエレベーターを１基設置し、各諸室に車椅子で移動できる計画とする。

7. 防災安全計画

(1) 安全性の確保

- ・児童の利用に際し、安全性を確保した施設として整備する。
- ・窓ガラスには、強化ガラス及び飛散防止フィルムを採用する等、ガラスの安全性を確保する。
- ・不審者対策や不法侵入防止について、施設内外からの見通しや管理諸室の配置に配慮し、「人の目」による危険性の察知、犯罪の抑制を図る等、視認性が確保された計画とする。
- ・防犯カメラや機械警備を活用する。
- ・落雪や暴風雪による事故や破損を防ぐ構造・配置とする。

(2) 防災機能の確保

- ・地震等の自然災害発生時や非常時における安全性の高い施設とする。
- ・避難所として必要な設備（自家電源、蓄電池、マンホールトイレ、かまどベンチ、通信機器等）、備品を整備する。

8. 環境配慮計画

- ・環境負荷に配慮した「エコスクール」を目指し、自然エネルギーの活用、省エネルギー対策、資源の再利用等環境に配慮した施設とする。
- ・断熱性能を高めるなどにより、夏涼しく、冬暖かい校舎とする。
- ・環境教育の教材としても活用できる施設となるよう配慮する。
- ・四季の移り変わりを体感できる景観を創出し、自然との共生が図れる計画とする。

9. 事業スケジュール

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
基本設計・実施設計					
造成設計					
法規制の解除					
用地買収					
造成工事					
建設工事					
工事監理					
外構工事					
備品・校務用PC購入					
ネットワーク工事					
移転作業					
開校					

資 料

尾花沢市小中学校建設検討委員会 名簿

委員

No.	組 織 等	役 職 名	氏 名	備考
1	小学校教職員代表	尾花沢小中学校校長会会長	水 田 浩	
2	中学校教職員代表	尾花沢小中学校校長会副会長	高 橋 和 哉	
3	小学校の保護者代表	尾花沢小学校PTA会長	大 山 英 将	
4	〃	福原小学校PTA会長	柿 崎 拓 也	
5	〃	宮沢小学校PTA会長	加 藤 伸 輔	
6	〃	玉野小学校PTA会長	岩 崎 賢 一	
7	〃	常盤小学校PTA会長	佐 藤 雅 宏	
8	中学校の保護者代表	尾花沢中学校PTA会長	鈴 木 完 司	
9	〃	福原中学校PTA会長	菅 野 敏 幸	
10	〃	尾花沢中学校PTA副会長	柳 橋 満由美	
11	幼稚園・保育園の保護者代表	保育施設保護者会連絡協議会会長	加 藤 誠	
12	〃	保育施設保護者会連絡協議会副会長	伊 藤 翔 太	
13	〃	ひまわり保育園保護者会副会長	堀之内 恵 佳	
14	自治組織代表	尾花沢地区会長	笹 原 光 政	
15	〃	福原地区会長	加 藤 静 雄	
16	〃	宮沢地区会長	石 山 洋 幸	
17	〃	玉野地区会長	生 田 健 一	
18	〃	常盤地区会長	松 本 純 一	

アドバイザー

No.	組 織 等	役 職 名	氏 名	備考
1	学識経験者 (教育の専門家)	山形大学大学院 教育実践研究科教授	三 浦 登志一	
2	学識経験者 (建築・環境の専門家)	東北芸術工科大学 建築・環境デザイン学科学科長教授 榊みかんぐみ代表	竹 内 昌 義	
3	学識経験者(建築の専門家)	(公財)山形県建設技術センター 業務部建築課長	長 岡 勇 男	

事務局

No.	組 織 等	役 職 名	氏 名	備考
1	事務局	こども教育課長	坂 木 良 一	
2	〃	教育指導室長	工 藤 雅 史	
3	〃	こども教育課長補佐 (兼)学園構想推進係長	鈴 木 正 樹	
4	〃	教育指導室 指導係長(兼)指導主事	田 中 雄 大	
5	〃	こども教育課管理係長	落 合 夏 樹	
6	〃	こども教育課学園構想推進係	高 橋 隆	

小学校・中学校建設に係るアンケート調査結果

令和４年５月実施

1. アンケート調査実施の目的

尾花沢市では、少子化が急激に進み、将来的にも児童・生徒数が減少していくことが見込まれることから、学校の適正規模、教職員の適正配置を目指して、市内の小学校・中学校をそれぞれ1校に統合していきます。また、尾花沢小学校は昭和44年に竣工してから53年が経過し、老朽化が進み早期の建て替えが必要になっています。

そこで、新しい小学校の令和9年4月開校を目標に整備し、その後、中学校についても小学校に併設して整備していく計画です。

そのため、新しい小学校・中学校建設の基本構想・基本計画を策定するにあたり、アンケート調査を実施して市民の皆様のご意見をお聞きするものです。

2. アンケート実施対象者と回答率

対象者		回答率
①教職員	156人	83.3%
②小学校保護者	450人	90.4%
③中学校保護者	306人	92.8%
④幼稚園・保育園保護者	268人	94.0%
⑤区長	92人	72.8%
合計	1,272人	89.6%

※児童生徒からは、1学期中に開催する「僕たち私たちが考える学校を語ろう会」で、どのような学校が良いか、話し合いをして意見の集約をしてもらっています。

3. アンケート調査実施期間

令和4年5月1日から5月20日

4. 調査結果

Q1. お住いの地区を教えてください。あてはまるものに○をつけてください。

※保護者、区長への質問

①福原	17.6%
②尾花沢	57.8%
③宮沢	6.4%
④玉野	10.8%
⑤常盤	7.5%
計	100.0%

Q2. お子さんの学年を教えてください。あてはまる全てに○をつけてください。

※保護者、区長への質問

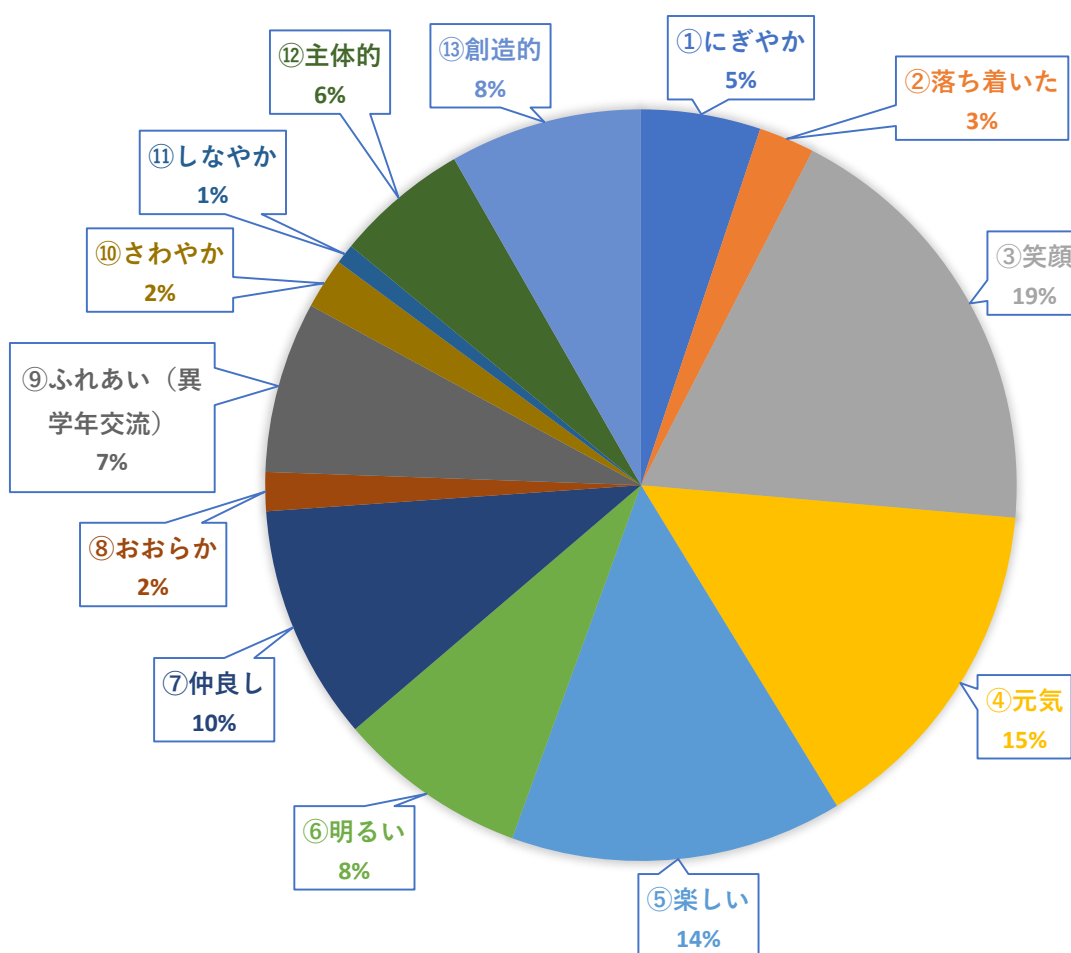
①幼稚園児・保育園児	21.8%
②小学校1年生	8.3%
③小学校2年生	7.9%
④小学校3年生	8.7%
⑤小学校4年生	8.1%
⑥小学校5年生	7.2%
⑦小学校6年生	9.2%
⑧中学校1年生	8.9%
⑨中学校2年生	6.9%
⑩中学校3年生	9.8%
⑪中学生以下の子どもはいない	3.4%
計	100.0%

Q3. 新しい学校に通う児童生徒をイメージするキーワードはどういったものですか。

あてはまるもの3つに〇をつけてください。

	全体	教職員	保護者	区長
①にぎやか	5.1%	3.7%	5.2%	7.8%
②落ち着いた	2.4%	4.2%	2.1%	2.6%
③笑顔	18.8%	20.3%	19.2%	10.4%
④元気	14.9%	9.1%	15.3%	20.7%
⑤楽しい	14.3%	10.4%	15.5%	5.7%
⑥明るい	8.2%	8.6%	8.1%	8.8%
⑦仲良し	10.1%	7.3%	10.3%	14.0%
⑧おおらか	1.7%	1.6%	1.7%	2.1%
⑨ふれあい（異学年交流）	7.4%	7.3%	7.2%	9.3%
⑩さわやか	2.2%	4.7%	1.8%	2.6%
⑪しなやか	0.9%	2.9%	0.6%	0.5%
⑫主体的	5.8%	11.0%	5.1%	5.2%
⑬創造的	8.3%	8.4%	8.1%	10.4%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

新しい学校に通う児童生徒をイメージするキーワード（全体）

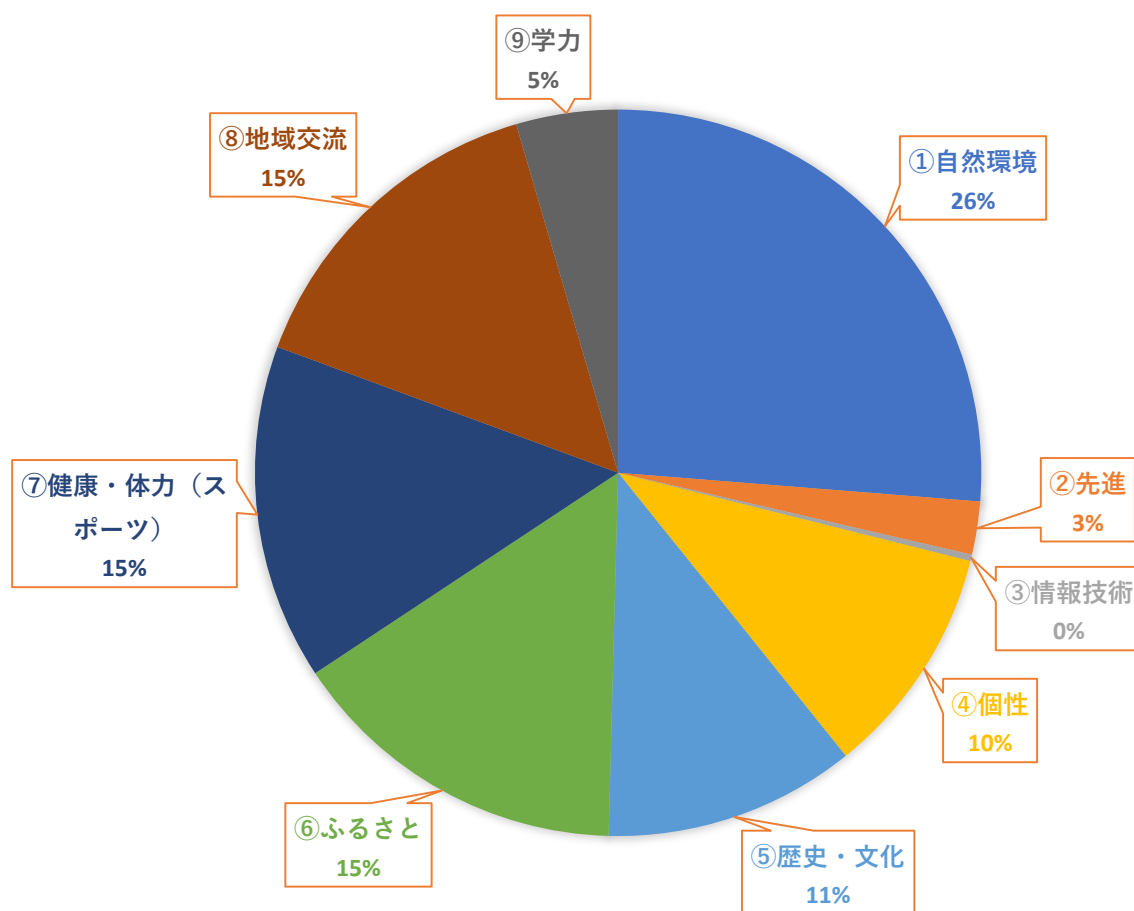


Q 4. 尾花沢市らしい学校をイメージするキーワードはどういったものですか。

あてはまるもの3つに〇をつけてください。

	全体	教職員	保護者	区長
①自然環境	26.3%	23.1%	25.7%	22.5%
②先進	2.4%	1.3%	2.4%	2.1%
③情報技術	0.3%	2.4%	4.1%	9.4%
④個性	10.3%	5.6%	10.7%	7.3%
⑤歴史・文化	11.2%	14.2%	10.0%	14.7%
⑥ふるさと	15.3%	24.1%	13.8%	8.9%
⑦健康・体力（スポーツ）	14.9%	9.1%	15.1%	13.6%
⑧地域交流	14.8%	16.6%	13.9%	14.7%
⑨学力	4.5%	3.5%	4.3%	6.8%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

新しい学校をイメージするキーワード（全体）

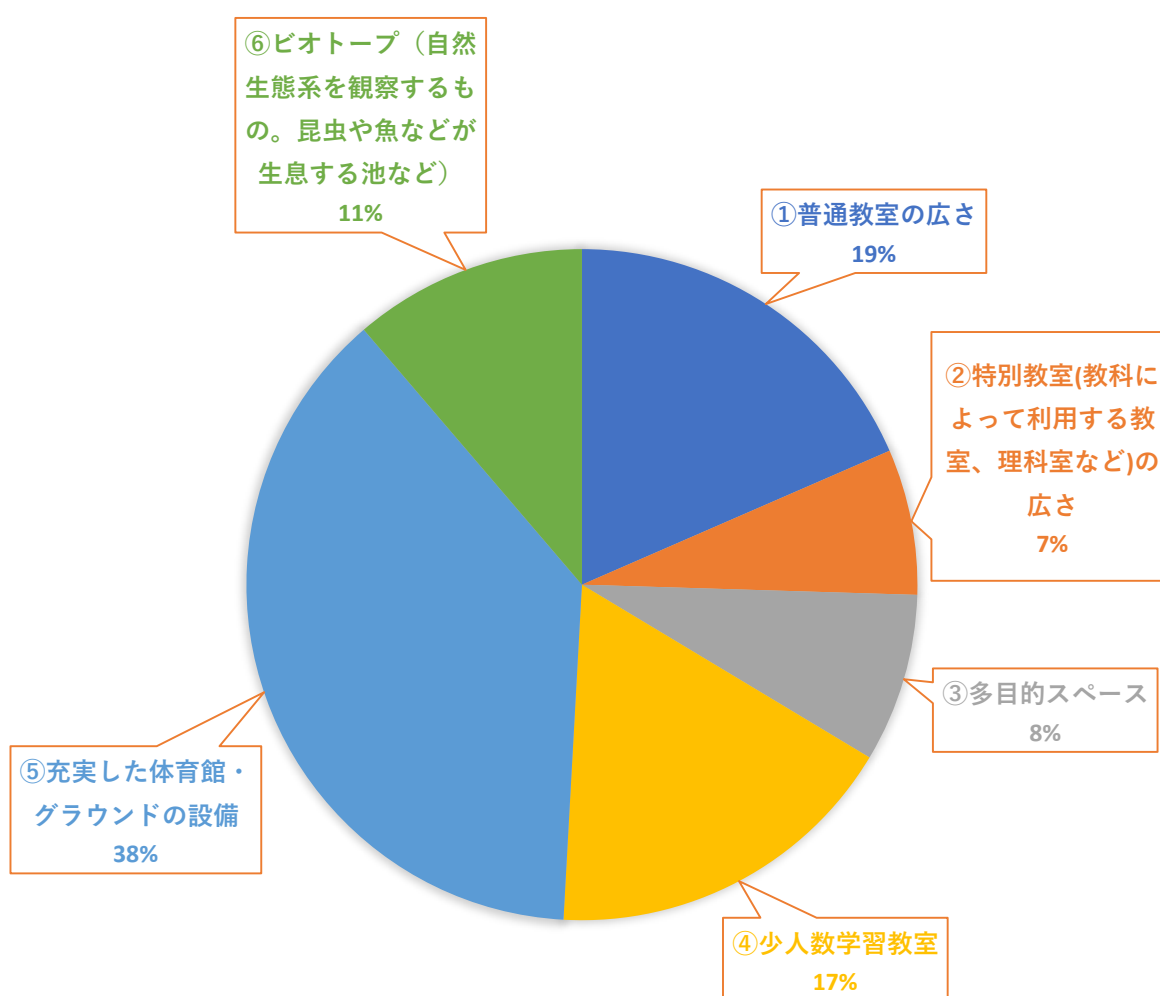


Q 5. 新しい学校で最も充実させたい施設や設備は何ですか。

ア. 学習環境に関して、充実させたいもの 1つに〇 をつけてください。

	全体	教職員	保護者	区長
①普通教室の広さ	18.5%	28.0%	18.1%	6.2%
②特別教室(教科によって利用する教室、理科室など)の広さ	7.0%	10.2%	6.1%	13.8%
③多目的スペース	8.1%	16.9%	6.1%	20.0%
④少人数学習教室	17.3%	17.8%	16.9%	21.5%
⑤充実した体育館・グラウンドの設備	37.9%	20.3%	40.9%	27.7%
⑥ビオトープ(自然生態系を観察するもの。昆虫や魚などが生息する池など)	11.3%	6.8%	11.9%	10.8%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

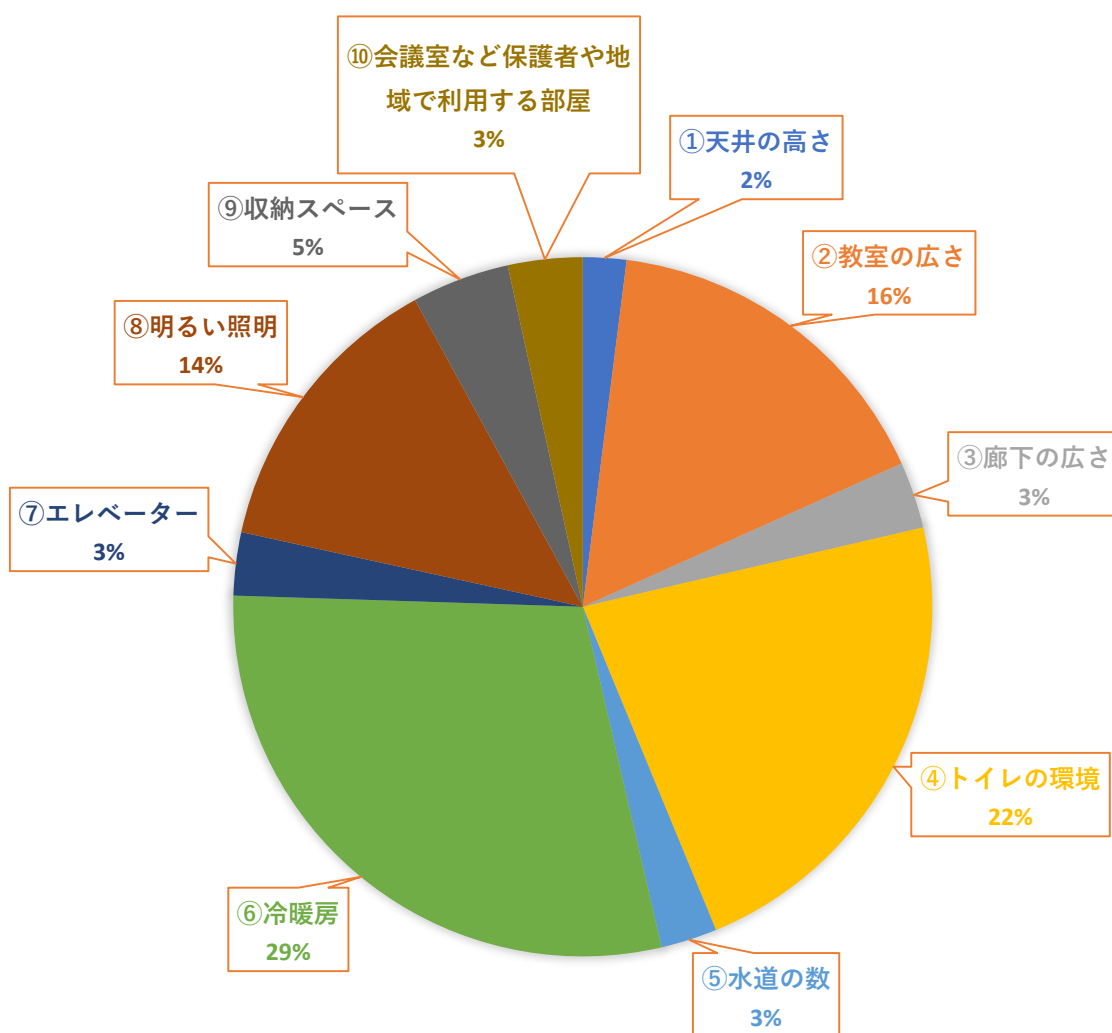
新しい学校で最も充実させたい施設・設備（全体）



イ. 校舎内の環境に関して、充実させたいもの3つに〇をつけてください。

	全体	教職員	保護者	区長
①天井の高さ	2.0%	0.3%	2.2%	2.9%
②教室の広さ	16.3%	18.5%	16.3%	10.5%
③廊下の広さ	3.1%	3.8%	2.8%	5.3%
④トイレの環境	22.4%	16.3%	23.3%	22.2%
⑤水道の数	2.6%	3.3%	2.5%	2.9%
⑥冷暖房	29.1%	26.6%	29.7%	26.3%
⑦エレベーター	2.9%	8.4%	2.3%	0.6%
⑧明るい照明	13.6%	10.1%	13.7%	19.9%
⑨収納スペース	4.5%	8.2%	4.2%	1.8%
⑩会議室など保護者や地域で利用する部屋	3.4%	4.6%	3.0%	7.6%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

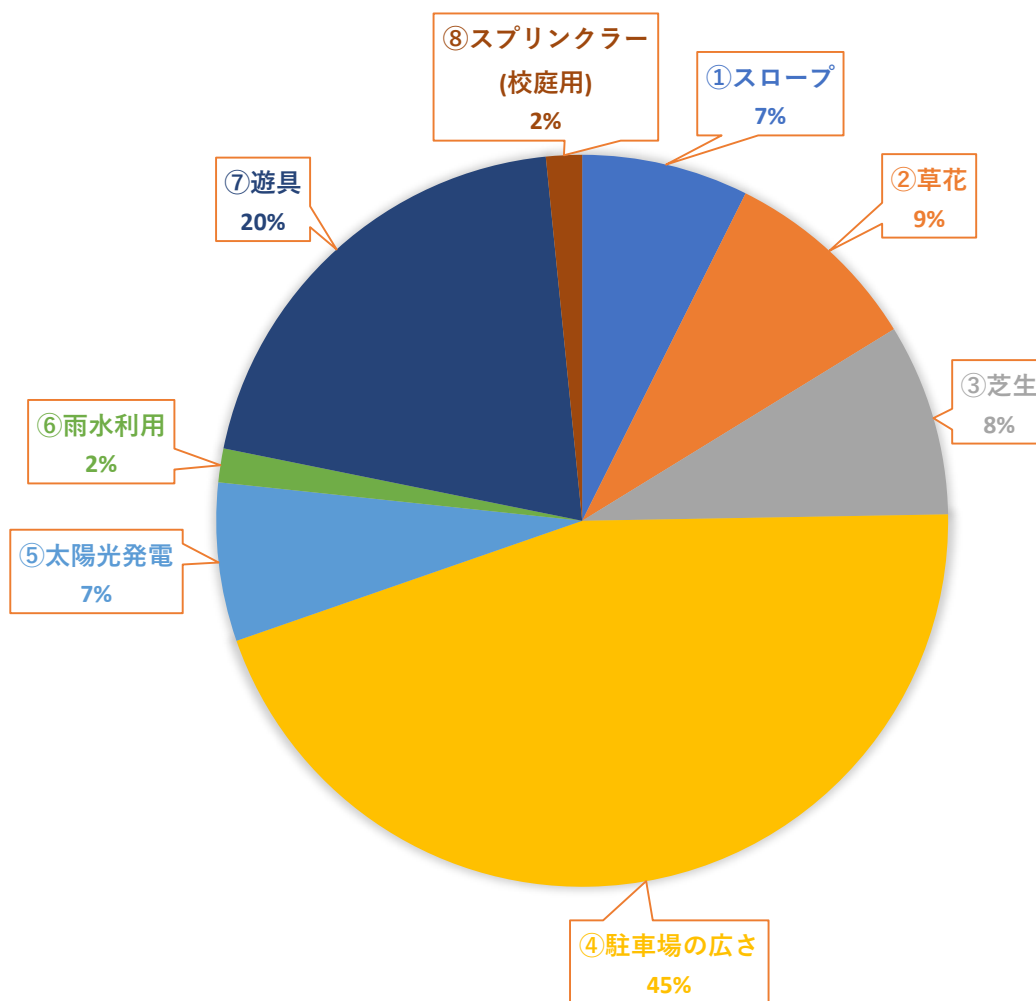
校舎内の環境で充実させたいもの（全体）



ウ. 校舎外の環境に関して、充実させたいもの1つに〇をつけてください。

	全体	教職員	保護者	区長
①スロープ	7.4%	18.1%	6.1%	5.1%
②草花	8.9%	5.2%	8.9%	15.3%
③芝生	8.5%	8.6%	8.6%	6.8%
④駐車場の広さ	45.0%	37.9%	46.4%	37.3%
⑤太陽光発電	7.0%	3.4%	6.7%	18.6%
⑥雨水利用	1.5%	1.7%	1.2%	5.1%
⑦遊具	20.2%	23.3%	20.7%	6.8%
⑧スプリンクラー(校庭用)	1.6%	1.7%	1.3%	5.1%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

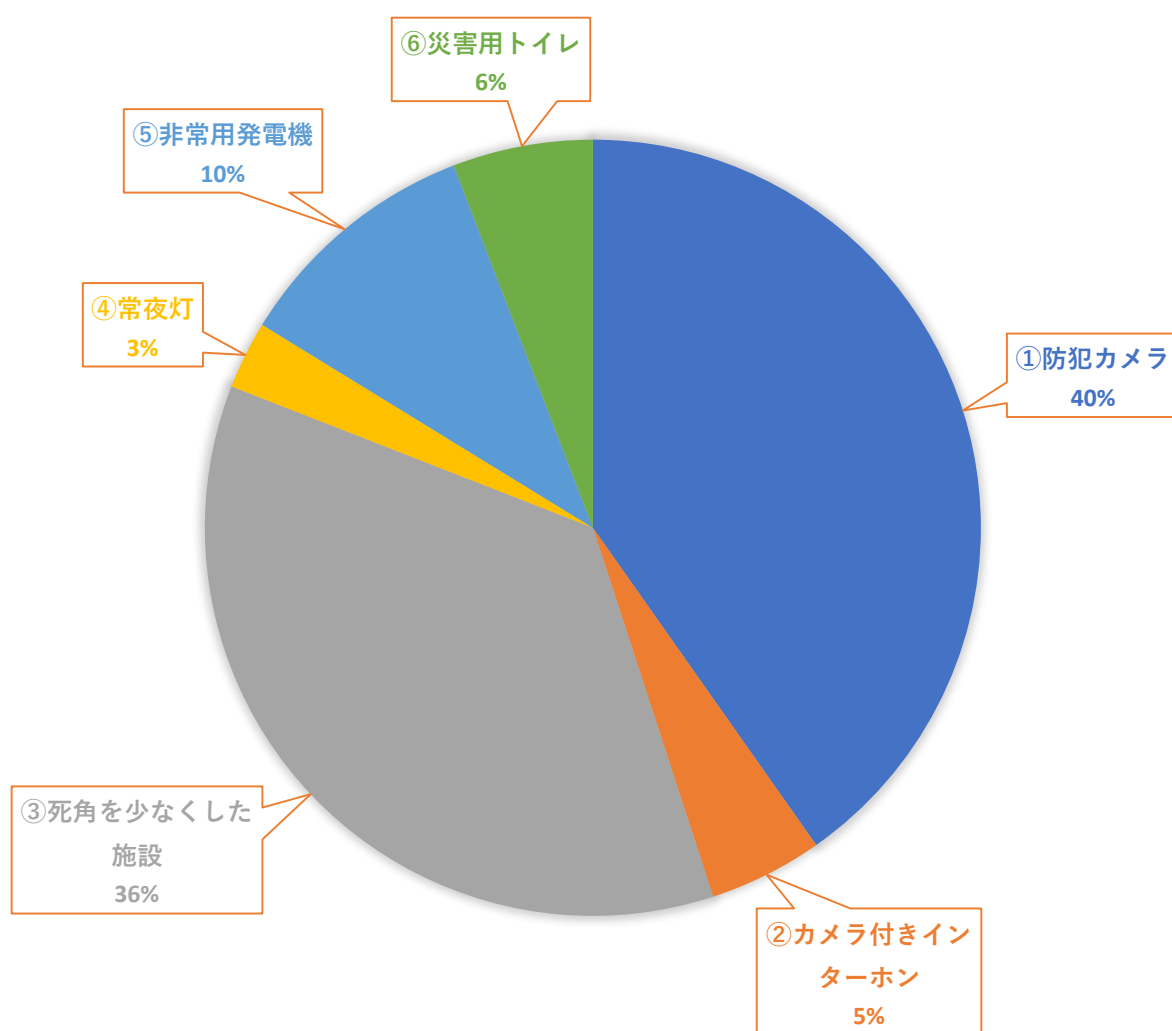
校舎外の環境で充実させたいもの（全体）



エ. 防犯・防災対策に関して、充実させたいもの1つに〇をつけてください。

	全体	教職員	保護者	区長
①防犯カメラ	40.2%	33.9%	41.0%	39.7%
②カメラ付きインターホン	4.7%	12.5%	4.1%	0.0%
③死角を少なくした施設	35.9%	38.4%	35.8%	33.3%
④常夜灯	2.8%	4.5%	2.7%	1.6%
⑤非常用発電機	10.4%	4.5%	11.0%	12.7%
⑥災害用トイレ	5.8%	6.3%	5.3%	12.7%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

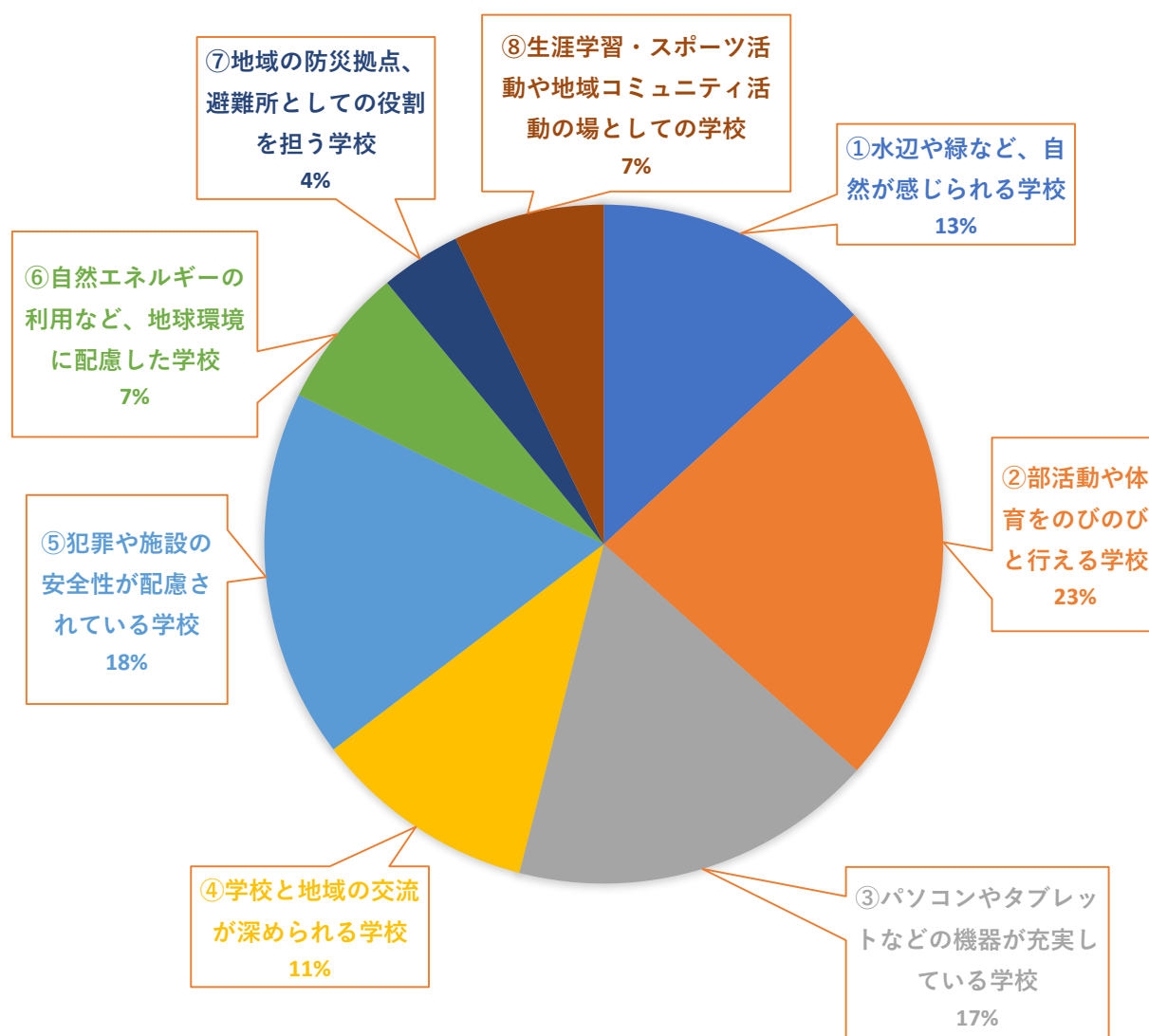
防犯・防災対策で充実させたいもの（全体）



Q 6. 新しい小中学校は、どんな学校が良いと思いますか。
あてはまるもの1つに〇をつけてください。

	全体	教職員	保護者	区長
①水辺や緑など、自然が感じられる学校	13.2%	16.5%	13.1%	7.9%
②部活動や体育をのびのびと行える学校	23.4%	13.2%	25.3%	15.9%
③パソコンやタブレットなどの機器が充実している学校	17.4%	16.5%	17.7%	14.3%
④学校と地域の交流が深められる学校	10.7%	26.4%	8.1%	17.5%
⑤犯罪や施設の安全性が配慮されている学校	17.6%	11.6%	18.5%	15.9%
⑥自然エネルギーの利用など、地球環境に配慮した学校	6.7%	5.0%	6.9%	7.9%
⑦地域の防災拠点、避難所としての役割を担う学校	3.8%	4.1%	3.5%	7.9%
⑧生涯学習・スポーツ活動や地域コミュニティ活動の場としての学校	7.2%	6.6%	6.9%	12.7%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

新しい小中学校はどんな学校が良いか（全体）

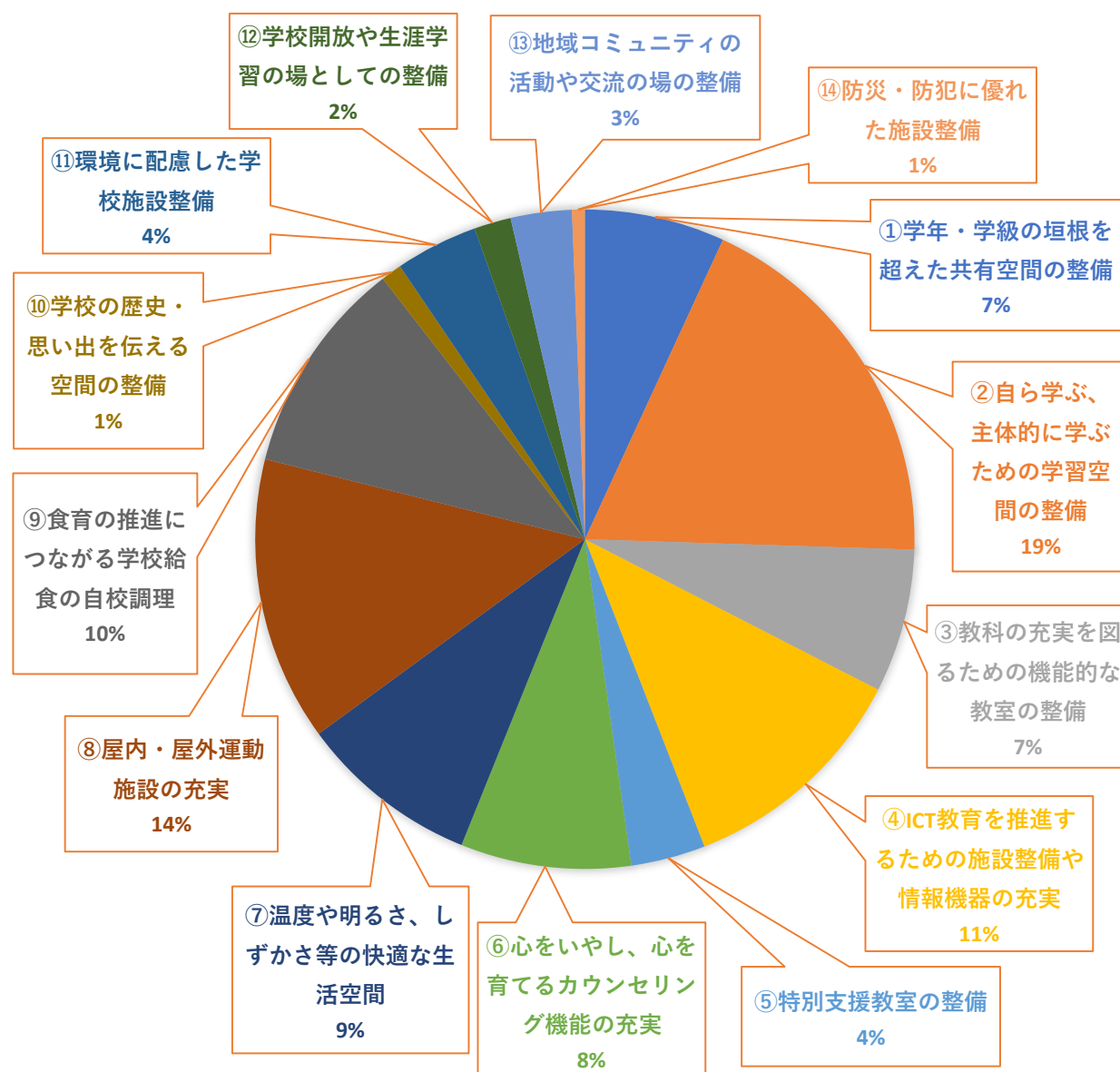


Q 7. 新しい小中学校で、より充実させたい内容はなんですか。

あてはまるもの3つに〇をつけてください。

	全体	教職員	保護者	区長
①学年・学級の垣根を超えた共有空間の整備	6.9%	7.2%	6.3%	7.2%
②自ら学ぶ、主体的に学ぶための学習空間の整備	18.6%	15.9%	17.7%	15.5%
③教科の充実を図るための機能的な教室の整備	7.0%	11.4%	5.8%	8.3%
④ICT教育を推進するための施設整備や情報機器の充実	11.5%	13.5%	10.3%	11.6%
⑤特別支援教室の整備	3.7%	10.1%	2.5%	2.8%
⑥心をいやし、心を育てるカウンセリング機能の充実	8.4%	10.1%	7.5%	7.2%
⑦温度や明るさ、しずかさ等の快適な生活空間	8.9%	7.7%	8.5%	5.5%
⑧屋内・屋外運動施設の充実	14.0%	7.2%	14.0%	9.4%
⑨食育の推進につながる学校給食の自校調理	10.6%	8.8%	10.3%	5.5%
⑩学校の歴史・思い出を伝える空間の整備	1.0%	0.5%	0.9%	3.3%
⑪環境に配慮した学校施設整備	4.0%	1.1%	4.0%	6.6%
⑫学校開放や生涯学習の場としての整備	1.8%	1.9%	1.6%	2.8%
⑬地域コミュニティの活動や交流の場の整備	3.0%	2.4%	2.8%	3.9%
⑭防災・防犯に優れた施設整備	0.6%	2.4%	7.8%	10.5%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

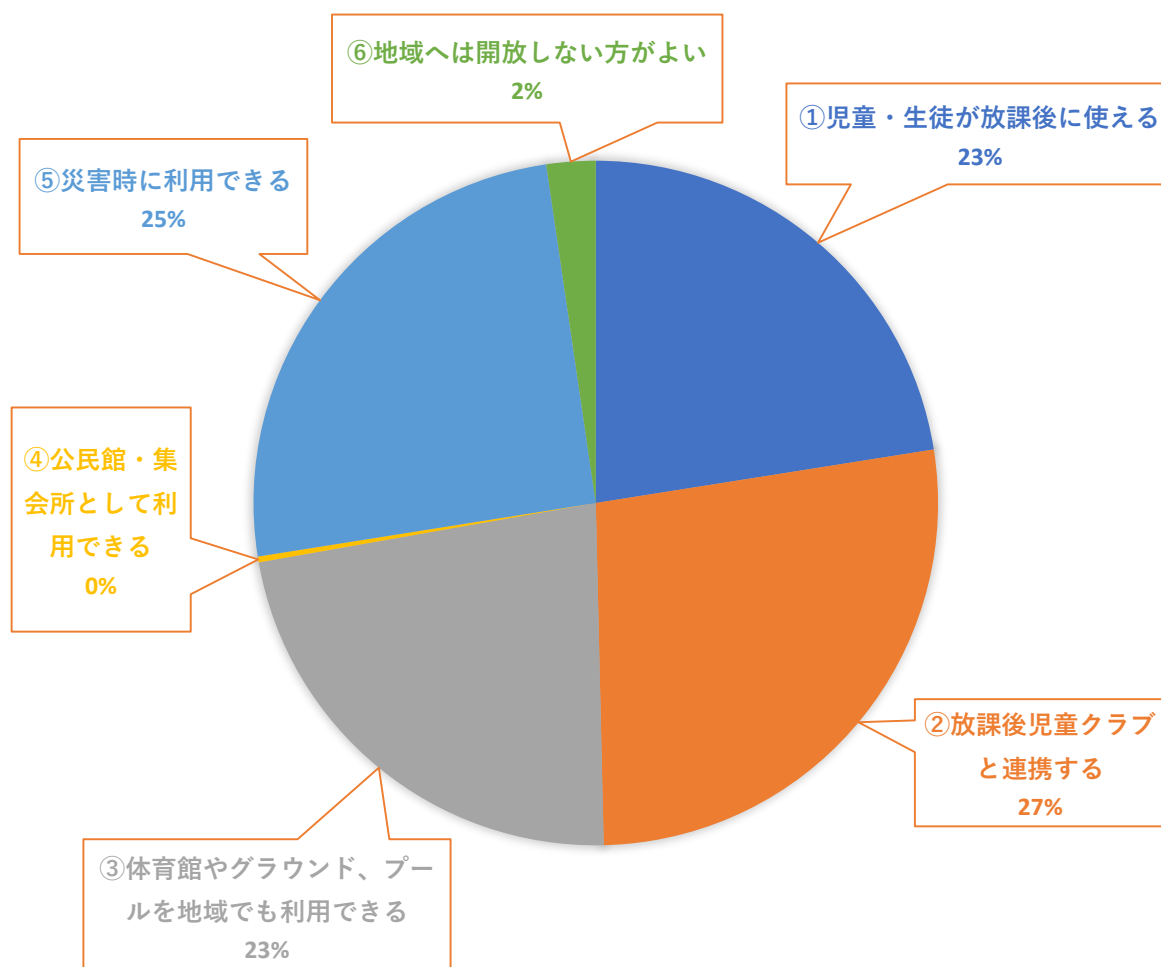
新しい小中学校でより充実させたい内容（全体）



Q 8. 学校の利活用方法について何が必要だと思いますか。
 あてはまるもの 1つに○ をつけてください。

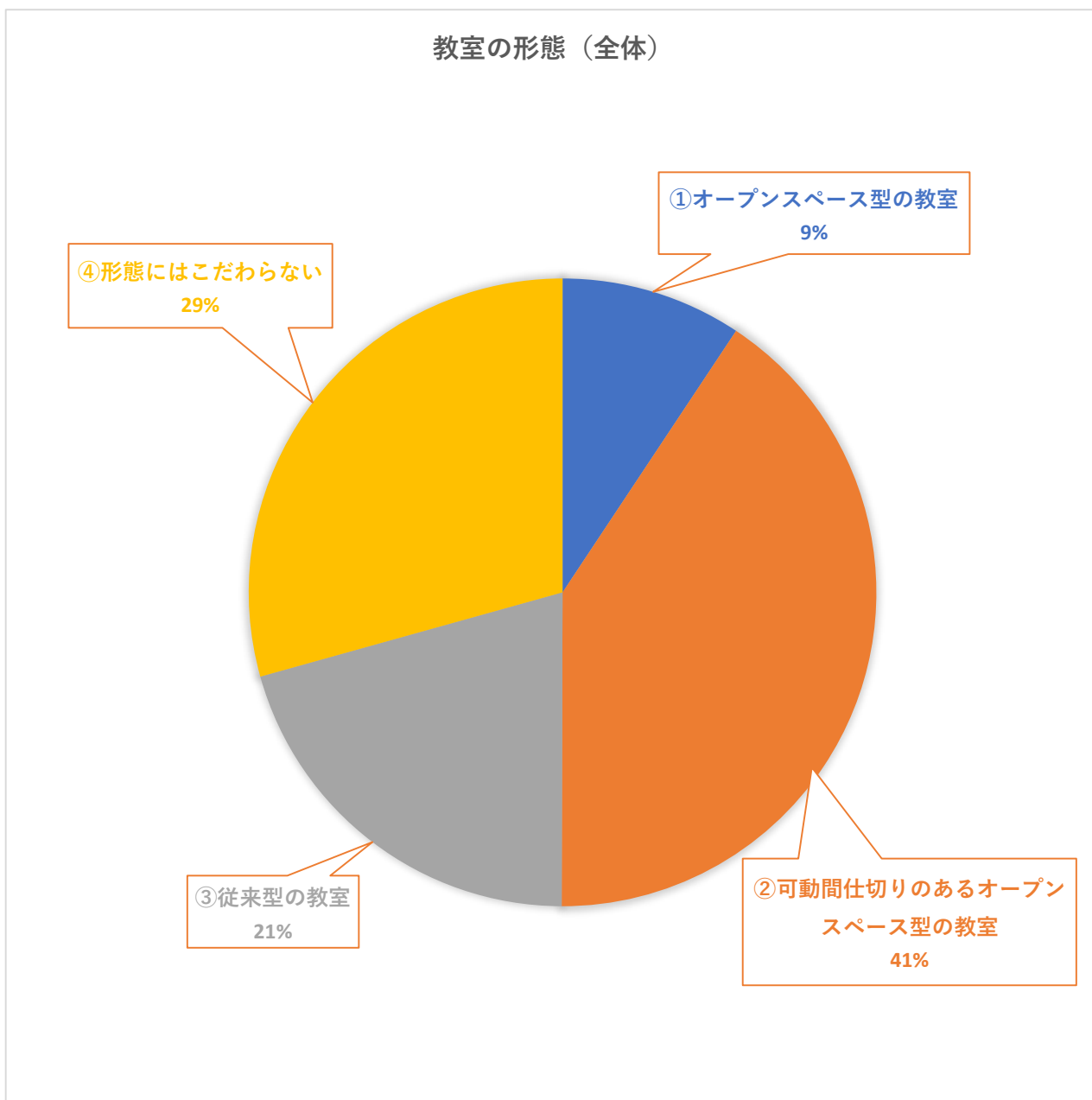
	全体	教職員	保護者	区長
①児童・生徒が放課後に使える	22.5%	8.9%	24.8%	7.9%
②放課後児童クラブと連携する	27.1%	21.1%	27.1%	30.2%
③体育館やグラウンド、プールを地域でも利用できる	22.6%	26.8%	21.7%	20.6%
④公民館・集会所として利用できる	0.3%	2.4%	2.1%	1.6%
⑤災害時に利用できる	25.2%	37.4%	22.2%	36.5%
⑥地域へは開放しない方がよい	2.3%	3.3%	2.1%	3.2%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

学校の利活用方法で必要なもの（全体）



Q 9. 教室はどのような形態が良いと思いますか。
 あてはまるもの 1つにQ をつけてください。

	全体	教職員	保護者	区長
①オープンスペース型の教室	9.3%	1.6%	10.3%	10.6%
②可動間仕切りのあるオープンスペース型の教室	40.7%	44.8%	40.2%	40.9%
③従来型の教室	20.6%	35.2%	19.4%	10.6%
④形態にはこだわらない	29.3%	18.4%	30.2%	37.9%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



Q 10. 学校や子どもとの関わりについてお聞きします。

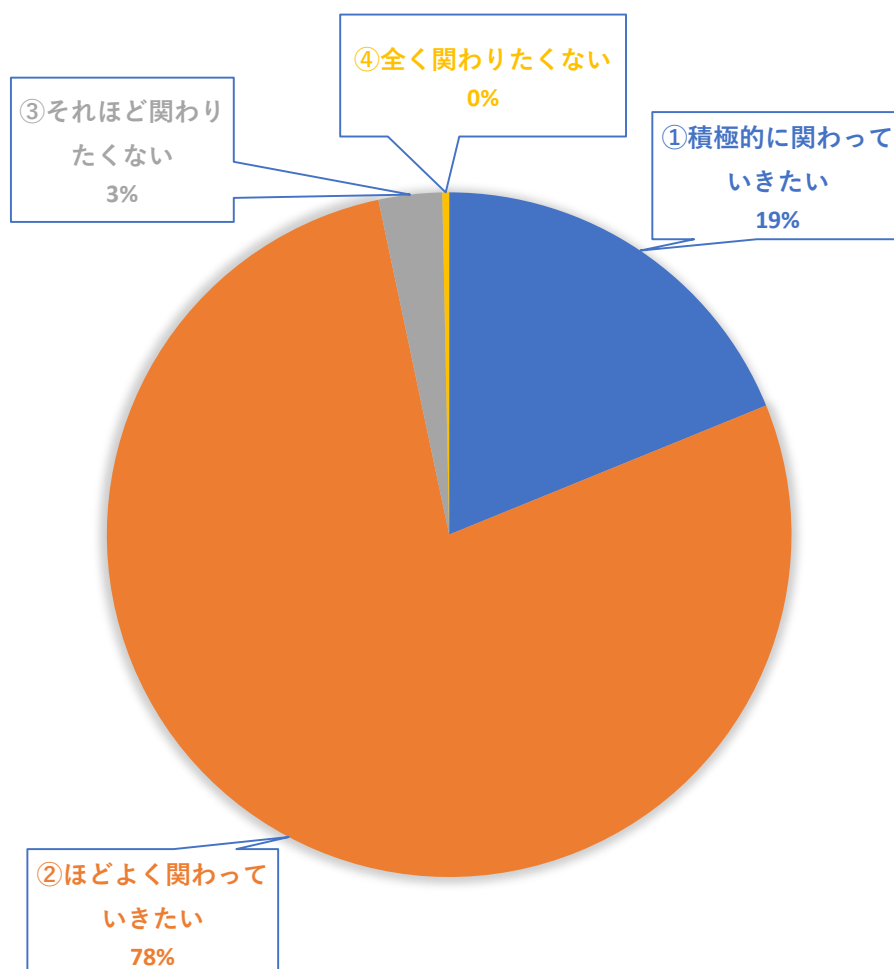
※保護者、区長への質問

ア. 学校との関わり方はどのようにしたいですか。

次の中から1つに〇をつけてください。

	全体	保護者	区長
①積極的に関わっていきたい	18.6%	18.8%	15.4%
②ほどよく関わっていきたい	78.1%	77.8%	81.5%
③それほど関わりたくない	2.9%	3.0%	1.5%
④全く関わりたくない	0.4%	0.3%	1.5%
計	100.0%	100.0%	100.0%

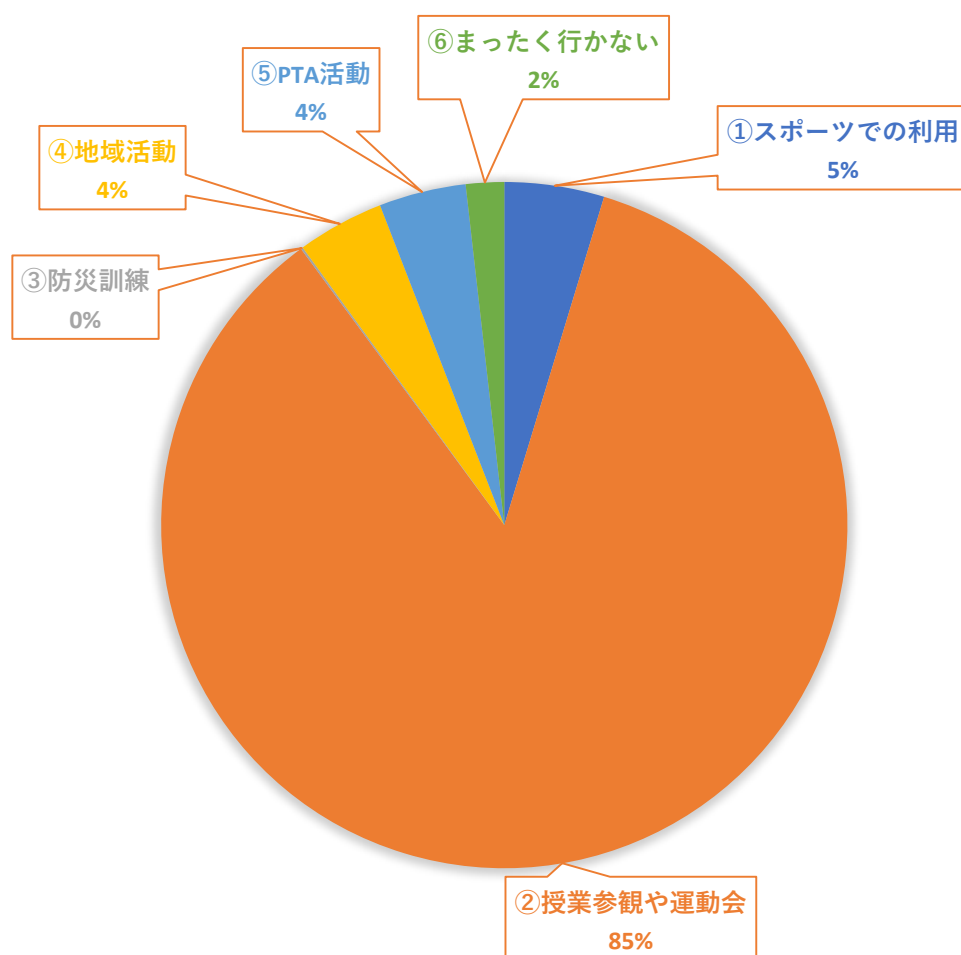
学校や子どもとの関わり方（全体）



イ. どのような時に学校に行きますか。
次の中から1つに〇をつけてください。

	全体	保護者	区長
①スポーツでの利用	4.7%	4.7%	4.5%
②授業参観や運動会	85.2%	89.1%	30.3%
③防災訓練	0.1%	0.1%	0.0%
④地域活動	4.1%	0.3%	57.6%
⑤PTA活動	4.1%	4.4%	0.0%
⑥まったく行かない	1.8%	1.4%	7.6%
計	100.0%	100.0%	100.0%

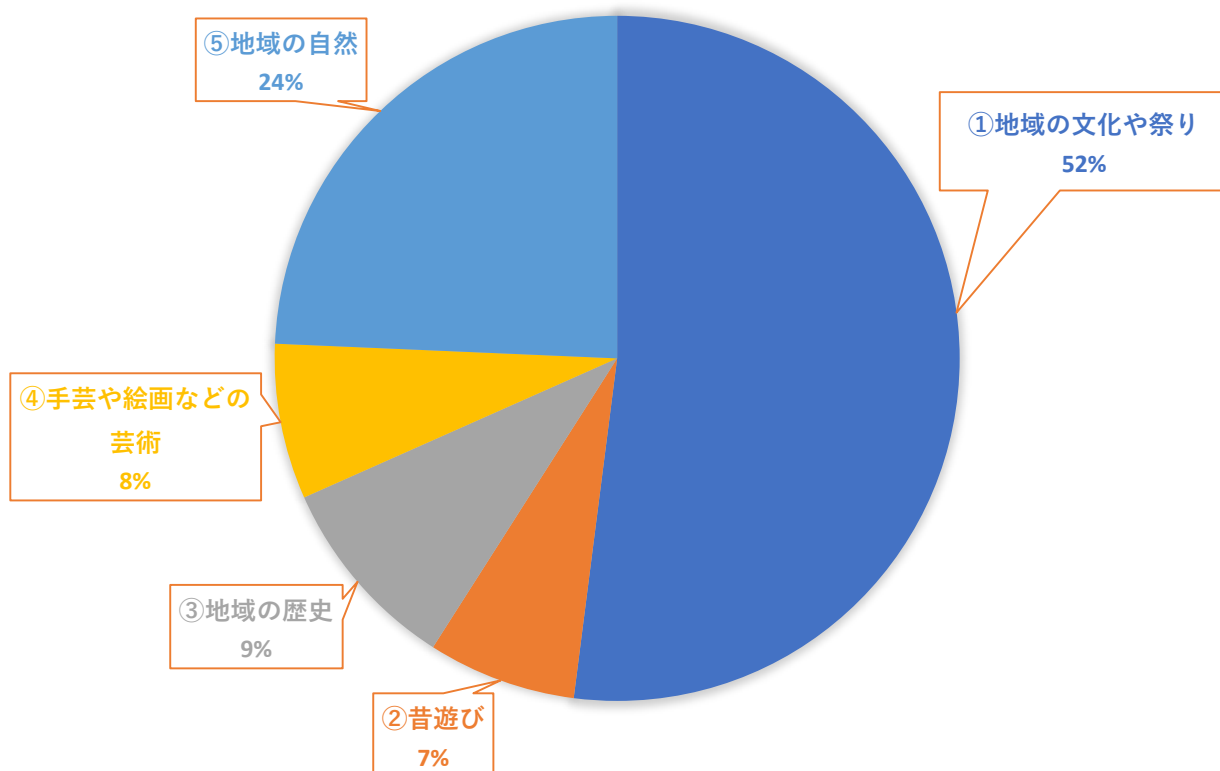
どのような時に学校へ行くか（全体）



ウ. 子供たちに教えたいことはありますか。
次の中から1つに〇をつけてください。

	全体	保護者	区長
①地域の文化や祭り	52.0%	53.1%	38.5%
②昔遊び	7.0%	6.8%	9.2%
③地域の歴史	9.3%	7.8%	29.2%
④手芸や絵画などの芸術	7.3%	7.7%	3.1%
⑤地域の自然	24.3%	24.6%	20.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%

子供たちに教えたいこと（全体）



教職員の記述意見

Q 8. 学習空間を充実させるためにはどうすればいいと思いますか。

多目的スペース	異学年や地域との交流スペースの設置。 多目的に使える広いスペースがあると交流や多人数での活動がしやすいと思う。 音楽教室だけでなく多目的に活用できる教室（空間）の確保。 1クラスのための教室ももちろんだが、それ以外にコースに分かれた学習や個別指導に使えるフレキシブルなスペースがあるといい。 尾花沢小は低・中・高ブロックに学習室（空き教室）が2つずつあるので、いろいろな形態で学習できる。新しい学校にも多目的スペースが最低学年1つは欲しい。 学年集会ができる広いスペースが教室の外にあるといい。学年集会の他にも共同で学習できて学習の幅が広がる。 学年で集まれるぐらいの広いスペースが特別教室以外に3カ所ぐらいあるといい。 スペースの確保。 学年全員が集まって活動できる場所。 コロナが収束しグループ活動を積極的にやれるようになれば、多目的空間は多いほど助かります。 集中できる区切りがありながらも学年で集まれる場所がある。 体育の授業や学年で使えるような多目的な教室の広さを確保して欲しい。 現福原中のような教室とつながる学習スペース。 学年集会等を開けるようなスペースを教室近くにつくる。 各学年で集約・活動することができるワークスペースの確保。 ホールの的なものがあり多人数でも交流が可能な（自由な）空間があること。 ある階を全部フリースペースにして、どこでも本が読めるような大きな図書館みたいにしたたり、ボードゲームや積み木、けん玉、絵を描いたりできる場所がある。 のんびり読書ができるスペース。 多様に使える空間 今の尾花沢中のような各階にホールのような、少人数で集まれるスペースを作ったりベンチを置いたりすると、自治会の集まりもできるのではないのでしょうか。 中学校では、クラスの差が出ないように全体に話をする事が多く重要なので、各学年が冬でも集会できる場が欲しい。 多目的スペースの充実。
空間の広さ	教室・廊下の広さをとる。 広い教室。 床面積が広い。 教科書やノートが大きくなったので机の天板も大きくなりました。余裕をもって並べられるような教室の広さが必要です。 生徒の人数に対してゆとりのある広さの教室。 空間が広いこと。 教室は広く教室内に手洗い場があるといい。 教室の広さ。くつろげる空間（休憩スペース等）。 机と机の間が適切にとれる広さ。

空間の広さ	広いホール、多目的室、会議室。 子供たちがゆったり学習できる広さを確保して欲しい。 コロナによって教室は広くとって欲しい。 廊下は広く。 広い廊下があれば、雨や雪の時など外に出れない時そのスペースで遊べる。
オープンスペース	あまりオープンだと集中できなくなる時があるので、廊下側にも壁がある従来の教室がいい。ただし、広くてゆったりとれる大きさがあるといい。 集中できる教室、よそから気になるものがない空間、どちらが良いかわからないが、オープンスペースでの学習は集中できるのか疑問。 間仕切りできるオープンスペースを作る。隣の学級の声が大きく聞こえないようにする。 広々とした活動しやすい場所。 オープンスペース型の教室。 教室のオープン空間。 オープンスペースの確保。 オープンスペース型にすると「廊下を歩く」という意識が自分事としてとらえられると思う。また、居場所のない子や教師の目の届かないところが無くなり、はじめの指導は大変ですが、安心して過ごせる学校になりやすいと思う。 生徒同士が気軽に話ができる空間。そういうスペースがあると教師も生徒とより話す機会が増えると思います。 教室外で10人くらいで集まれる場。
特別教室	特別教室（体育館、グラウンドを含め）の利用割り当てが各クラスに十分に行きわたるだけの施設の数、または広さが必要だと思う。 教科教室制にして欲しい（特に英語）。 教科教室の充実。 異学年・学級の交流の場を増やすため教科教室型に。 理科教師は3人、特別支援の先生も理科をする場合実験できないので理科教室は3つ欲しい。 音楽室は、大型の打楽器の運搬を考えると1階がいいと思う。もしくは、大型の打楽器が入る大きさのエレベーターの設置をお願いしたい。（今のエレベーターは大きくて重いものが入りません。）
少人数学習教室	少人数や習熟度別など、様々な形態で集まることのできる教室をつくる。隣の声が聞こえない方がいい。 個別学習が必要な時に活用できる空間がある。 各学年教室の近くに取出し指導用の個別学習室（狭くてもよい）を複数設置する。 個別指導ができる教室。 個別支援や個人面談等のできる小部屋。 個別に数分間話したり指導したりできるスペースや仕切があるといい。
図書館 学習スペース	楽しく自分から進んで学習をしたくなる空間ができるといい。 学習スペース（例えば市立図書館の学習スペースのような）が学校にもあり土日に利用できる。 利用しやすい図書室のデザイン、少人数のクラスでも対応できる教室や収納（ロッカーなど）。

図書館 学習スペース	学校図書館の設備・機能が今は不十分だと思う。 図書館はイスと机だけでなく、ジュースで座って読むスペースがあるといい。 充実した図書館。 図書館に行きやすいデザイン。 図書館はオープンな形で、自由に気軽に利用できる形にして、「情報を集めるには図書館」と言えるよう、様々な機能を持たせてほしい。 楯岡小のようなGIGAスクール構想に基づいた設備を伴った図書館と、図書館に併設した学習スペース（オープンスペースでなくてもいい。）があるとよいと思う。 広い机を囲んでグループ学習ができる図書室内の環境整備。 図書室のデザインを工夫し、楽しく読書にひたれるような部屋をつくる。 図書館が広い。 図書館を広くする。 図書室の空間づくり。
特別支援教室	多様な個性を持つ子供たちが増加しているので、その子供たちに対応できる人材と子供たちが安心して、落ち着いて学習できる居場所。 特別な支援が必要な児童にとって、様々な情報（音や動き）が学習の妨げになっていると感じるので、オープンスペース（クラスの仕切りなし）はない方がいい。 不登校やクールダウンが必要な児童でも安心して学校で過ごせるスペース。 特別支援の子供たちが増えると思われるので、特別支援教室を増やしてほしい。
運動	体育館は2つあるのが望ましい。 室内プールがある。 スポーツ施設（体育館、客席付きアリーナ、武道場、陸上競技場、サッカー場、野球場、テニスコート）。 各活動が自由に行えるグラウンド（ベースボール型…十分な両翼がとれる、陸上競技…ゴムグラウンド等）。 校外に限らず校内にも子供が伸び伸び遊べる環境があるといい。 雨天時も遊ぶ場所が確保されるような施設の種類、数、広さが必要だと思う。 外遊びが自由にできる空間、外遊びをしたくなるような遊具の充実。 スクールバスによる運動不足を解消できるよう、遊具や運動コーナー、アスレチックなどを設けて欲しい。 冬は外で遊べない環境なので、体育館と同等のスペースがもう一つあると体を動かせる機会が増えると思います。 グラウンドを広く。 楽しい遊具（挑戦できるアスレチック）。 遊具の充実。 校内グラウンドはゴム、野球・陸上・サッカーが安全に伸び伸び練習できる空間、運動器具の充実。 広い体育館を希望します。
ICT	ITCの充実。 全クラス（特別支援教室・特別教室を含む）へのICT環境の整備。 一人ひとりの端末で作成した考え等を集約、紹介することのできる大型スクリーンを各教室に備えて欲しい。

ICT	通信速度やネットの回線がスムーズにできるようにし、子供たちがタブレットなどで学習できる。もしくは他の学校の子供たちと交流し学習できる。 ICT教育施設の充実。 タブレット等のICT機器を児童生徒が自由に使えるようなスペースをつくり、主体的な学習を促す環境を充実させる。 ネット環境の充実。 ICT機器がそろっていて邪魔にならない。 ICT機器への対応。 タブレット・iPadなどを映す大型テレビ。プロジェクター。 各教室に大型TV、デジタル教科書が活用できる環境、机・いすなど統一されている。 タブレット・講師用パソコンの性能向上。 モニターを各教室に設置して欲しい。 モニター等の設置。 光の当たり方、黒板の見え方、電波状況、十分なコンセント数、音の遮断。 ICT機器・タブレットの充実。 ICT活用をやりやすくするため、大型テレビの配置などを進めるとともに教室を広々とした設計にする 大型テレビなど今あるものをもれなくあるようにすることが大事だと思います。 黒板やモニターなどの見えやすさ。 必要な時にすぐタブレットを出せる環境。 タブレットがどこでもだれでも使える環境。 普通教室にはプロジェクター等が最初からついていること。 一人一台タブレットの他にコンピュータ室がある。 各クラスにDVD付きの大型モニター（TV）を設置、画面が十分見えるくらいの明るさにできるモニター、十分な学習スペース。
可動間仕切り	ペア、グループ、一斉の学習形態においてどの形態にも移動しやすい広さ。 普通教室でも少人数に対応して空間を分けられといい。 普通教室は可動間仕切りのある形にし、活動に応じて時間をかけずに学年集会等多人数の学習に対応できるようにする。 様々な学びに対応できる柔軟性のある教室空間であって欲しい。 いろいろな子供たちがいることを考えると、個別に学習できる静かな空間がいくつか作れるように可動式のスペースがあるといい。 一斉授業がグループ授業に変わっていくと思うので、その時その時に対応できる環境ではないかと思います。 廊下と廊下の仕切を見通しがきくようにする（仕切なしの可動棚とか、上半分はガラス戸とか）。 大きな教室を個に応じてパーティションで仕切れるような空間を作ること、配慮の必要な子供のニーズに応じた指導ができるようになったらいい。
教材室	使い勝手のいい教材室。 教科別に教材をしまう部屋があって、そこで学年別に収納されていると授業準備がしやすいと思う。 辞書・辞典等の設置。

教材室	教材室のような収納スペースが学年1カ所ずつあるとスッキリした学校になる。
教育相談室	神町小の教育相談室のような個別空間は、保健室と玄関から直に入れるようになっており、子供はもちろん保護者の負担感が少ないつくりになっている。個別取り出し指導としても使用可能である。
外国語教室	外国語・英語のための教室をつくる。
従来の教室	教室は防音にもなるので従来通りの形状でいいと思う。 授業に集中しやすい教室づくり（オープンスペース型の教室を作らない）。 他教室の音が響かない独立教室にする。 オープンスペース型の教室は特性を持っている生徒には不向きなので従来の教室が望ましい。
その他	学習支援の職員の充実。 各学年の個別学習室、教育相談室、教材室。 教室数の充実。 合同のホームルームの時間をつくる。 小学校への教科担任制の導入。 33人以下の少人数学級にすべきだと思います。可能ならば、20人台が一番学級での見取りや机間巡視、一斉移動の支持が入りやすい。 1学級の人数。

教職員の記述意見

Q9. 生活空間を充実させるためにはどうすればいいと思いますか。

明るい	明るさ、換気は子供たちの健康を守るうえで大切。 明るく感染防止に留意した学校。 使いやすく明るい教科教室・普通教室、見通しの良い明るい廊下。 教室など1つ1つの部屋が明るく開放的で天井が高い児童生徒たちが伸び伸び学べる空間。 明るい十分な空間がある。 採光を意識したつくり。 明るく開放的な空間デザイン。 明るさ、広さ。 明るいスペース。 日当りを考えた教室配置。 自然光を取り入れた明るい雰囲気であること。
安全	安全を考えて、職員室や保健室はグラウンドやプールが見えてケガをした時すぐに対応できるような位置にある必要がある。 冬場でもしっかり避難路が確保されている。 インターフォンと玄関開閉自動機能（不審者対応）。全室内線電話。 安全管理。 不審者対策…来客通路にライン・防犯カメラ。 安全な学校。 2階3階の窓などに最初から安全対策がしっかりしている。 生徒の動きがわかりやすく誰の目にも入るような空間ができれば良いと思う。

安全	グラウンド、プールが校舎から近く職員室から見える。
バリアフリー	障がい者も自由に学べる学習空間とエレベーターが必要だと思います。 極力段差をなくす（バリアフリー）。 ノーマライゼーション、バリアフリー。 エレベーター・バリアフリーの階段。 エレベーター。
インクルーシブ	多様性に対応できる校舎内外のづくり（スロープ、エレベーター、更衣室など）。 体に不自由がある等、何らかの障害がある人でも安全に生活できるように、スロープ・エレベーター・トイレ（車椅子の人、オストメイト、男女どちらも使用できる視覚・聴覚障害）を充実させる。 配慮が必要な生徒を考えたづくり。
環境	学習の一環として太陽光発電等があってもいい。 廊下・トイレの照明の人感センサー化。 太陽光発電もできる。 SDG s の考えがこれからは必須で、暖房の熱源（冷房も含め）、資源の有効活用が生活の一部として学ぶことのできるようにしていただきたい。 SDG s 等そのまま教材にできるような設備。
子供の居場所	子供たち一人ひとりが居場所として安らげるスペースをつくる。例：木のベンチや相談室などの個室として使える場所など。 カームダウン・クールダウンのスペースの設置。 共有スペースを作り、イスやベンチのある空間でくつろげる場所が欲しい。 先生からは見えるような個室、小さな部屋を用意する。 児童が集まってくつろげる（遊べる）場所がある。 廊下にソファがあると心理的なくつろげる居場所になる。 休み時間に児童生徒が伸び伸びとリラックスできる空間や部屋 学習する場とリラックスする場がメリハリ良く配置され、悪いストレスを減らし、前向きにストレスを受け止められる環境。 生徒の居場所づくり。
自然とのふれあい	四季の移ろいを感じられる環境。 校舎の周りの設備など。花と緑がある学校。 学校から見える景色の良さ。 自然や生き物に触れ合う場所（子供がリラックスできる）。 ビオトープ。 実習畑、田等を安全な徒歩圏内に。 生物がすむビオトープ。 ビオトープ（花壇、植物等の充実）。
収納スペース	学習用具を移動しなくてもすぐに手に取れるような教室内の配置。 個人のロッカーをしっかり確保して欲しい。 ロッカーなどの整理場所の充実 収納もでき広々と過ごせる環境があるといいと思います。

収納スペース	ものが片付けやすい収納スペースがある。 一人ひとりの充実したロッカーの確保。 ロッカーも大きく教材等を入れられる。 廊下のフックだけでなくハンガーを掛ける竿も必要。 生徒用ロッカーを使いやすいものに、A4教科書・ファイルが立てて置ける大きさ。 広いロッカー。
冷暖房	冷暖房の充実。 換気が十分にできて冷暖房のきいた空調。 空調（冷暖）のある体育館や武道場。 冷暖房完備。 冷暖房がしっかりしていること。 夏の暑さ冬の寒さが厳しいので、教室のサイズにあったエアコンを設置してもらいたい。 冷暖房集中管理。 冷暖房、換気ができる設備。 冷暖房設備がしっかりしていて安全設計な校舎。 室温、湿度、自然光等、快適な環境。 エアコン・暖房。 冬でも温かい校舎のつくりにする。 寒さ暑さ対策。 湿気対策。
備品	各教室掲示スペースの充実。 机や椅子はデザインよりも機能性のいいものを。 市教委が備品管理を行えば故障修理が迅速になると思う。 学習した足跡を残せるように掲示物がはれる広い教室があるといいと思います。 壁がホワイトボードになっている。 机などの移動が簡単にできる。 黒板でなくホワイトボードの方が使いやすい。 教室前方に物や掲示が多くなりすぎないなど落ち着いて学習に取り組める配置。 広いスペースでも先生の声がしっかり聞き取れる設備。 広い机、自分の学習しやすいように調整できる椅子・机。 移動しやすい机、移動しやすい仕切版。 教室や廊下の壁面が活用しやすい材質のものに。 長靴も入れやすい下駄箱。 各場所への掃除用具（掃除機）配置。 ピアノや電子ピアノなどをできるだけ多く設置し合唱コンクール等で活用できるようにする。
トイレ	トイレと水場を広くして生活感のあるものがいい。 トイレの形状を工夫して、いじめ、いたずらの温床にならない配慮が欲しい。 トイレ、水回りが明るく広い。

トイレ	学校のトイレはタイルの印象が強いが、居心地のいいトイレだと思っています。 洋式の広いトイレ。 きれいで明るく広いトイレ、外トイレ。 十分な広さと数のトイレ・水場の設置。 トイレ・手洗い場の数多め（多目的トイレも）。 トイレの全面洋式化。
動線	栽培活動場所と教室とのアクセスの良さ。 グラウンドに出やすいつくり。 校舎からグラウンドまでの距離はできるだけ近いほうが良い。 教室移動の際の動線の簡素化。 移動の動線が複雑でなく、死角があまりないようなつくりであってほしい。 廊下が長くなく玄関に近い教室。教室と職員室が近い。 グラウンドを校舎の近くに。 動線をスムーズにできる見晴らしのいい間取り。難しくない間取り。 移動距離が極力短くなっており、授業間に余裕をもって進める作り。
雪対策	雪下ろししやすい雪国施設にしてほしい。 雪が降っても落雪等の心配があまりない校舎のデザイン。天窓、吹き抜けはいらない。 雪への対策が大切だと思う。雪が負担になるのではなく、うまく活用できるような設備があればいいと思う。 雪が多いため雪への対応。ピロティ。
ランチルーム	自校給食でのランチルームの設置。 食べることは生きることの基本なので、生活を整える意味でもランチルームでの昼食があるとよいと思います。 ランチルーム。
水道	お湯の出る水道。 水飲み場の数増やす（歯磨き時込み合う）。
更衣室	更衣室などを大きめに作り温度管理できるようにする。 男女の着替える部屋（更衣室）。
構造	清掃や修繕のしやすいシンプルなデザイン。 シンプルで使いやすく、メンテナンスのしやすい校舎をお願いします。
中庭	中庭の工夫。 中庭がある。
配置	教室・特別教室の配置がわかりやすい。 わかりやすい教室配置。
ピロティ	ピロティを広く明るく＝体力向上。 雨天時も「土」で運動できるよう、ピロティをお願いしたい。
木の活用	木を多用した温かみのある空間。廊下の途中にベンチなどがある様々な使い方のできる空間が欲しい。
その他	各フロア・調理室がお湯が出る。 相談室の出入り口

その他	家庭数分の駐車場。 天井が高い。 土地を広く確保する。 文化施設（講堂、コンサートホール、展示ホール・ギャラリー）。 美術館、科学・歴史展示等が定期的に更新されていくといい。 空間より人材だと思います。 学校に行くのが毎日楽しくて休みたくないと思う生活空間。 子供たちが休み時間等に自分で選択して過ごせる、今までになかったような場所をつくる（アート系が好きな子のために工作の材料等を揃えた部屋、運動系が好きな子のためにスポーツの道具を用意し、楽しみながら技能や体力を高められるような道具の設置、場所の設定）。 子供の生活の6～7割が学校であることを考えると、学び、遊び、安らぐことのできる場（給食、トイレ、保健室・・・）となることを望む。 人が生活することを感じられるようになって欲しい。給食を作ってくださいの方がいて、ボランティアで畑のお手伝いにいらっしゃって、挨拶を交わす・・・そんな学校であって欲しい。 好きな場所があると、学校に来る楽しみになると思う。 近くにバス停・タクシールールがある。 設備を更新する回数や頻度を多くする、増やす。 公共の施設のような雰囲気をもたせる。 各教室・校舎の清掃などに力を入れる。
-----	---

教職員の記述意見

Q10. 地域との連携を充実させるためにはどうすればいいと思いますか。

ホームページを学校外で運営してくれる。

クラブ活動や総合的な学習の時間等で地域の人材を活用する（地域人材バンクの創設）。

学校開放日を学期に1回、PTAが主体となり内容を考えて行う。

PTAルームの新設。

総合的な学習の時間や生活科の学習の中で、地域の方々ともっと触れ合う機会が持てるとよい。

授業でご協力いただけるゲストティーチャー、人材バンクの充実、学校と地域をつなぐ事業などを紹介していただく行政の支援。

清掃や畑、花の栽培、クラブや委員活動など日常活動・生活の中で地域や祖父母が学校内に気兼ねなく留まることができるスペース（ホール・部屋）があると、多くの大人の目があり防犯にもつながるし、関りも多くつくれると思います。

学校のことと、地域で行うことのすみわけを年度初めにきちんと提示するべきだと思います。

ボランティアの方々の協力により今の支援員さんのような方を増やす。

開かれた学校を目指し、生活科・総合的な学習の時間などに多様な方面の方々に協力を依頼する。

1階ホールにギャラリースペースをとって地域に開放する機会を設けるとか、公民館的なものや学童スペースがあるとか。

地域の指導者や学習ボランティアが集えるような部屋、打合せできるスペースがあるといい。

地域人材を活用した外部講師による出前授業。地域の文化施設を活用した授業づくり。

地域ボランティアの集まる場所（あつ旋所のような機能）があり、気軽に頼んだりお話ししたりできると助かる。

サポートしてくれる方のリストを作っておき、総合的な学習の時間などで協力してもらうようにする。ICTが十分に使える通信環境を作っておく。

クラブ活動に特色ある地域の各学校でやってきた行事や文化を取り入れる。学年ごとに各地域の方々と触れ合う機会を設ける。

今でも行っていますが、クラブ活動の時間を使って地域の先生から教えてもらうのは続けて欲しい。

地域性を重視して全域に担当させるといい。

地域の方を先生として迎え様々なことを授業で教えていただく（生き物、植物、昔の生活、昔の街並みなど）。

地域の方との行事を増やす（ゴミ拾い、祭り、運動会など）。

地域の人だれでも見学・参観に来れるフリー参観日の設定。

学校行事、地域の行事・伝統行事などお互い参加しながら交流を深めていく。

今まで通りに地域との連携をとる。

市内に一つの学校となるので、各地区（旧学区）の拠点となる場所を明確化して欲しい。例：各地区公民館に学校に関する情報ネットの充実を図るなど。

現在の地域との連携事業から継続できるものは継続できるといい。

災害時に活用できるもの（神町小のように）。

各旧学区で元々地域の先生として関わってくださっていた方々が、学校が統合してもつながっていられるようなシステムづくり（福原コミュニティスクールなどのシステムを各地区と新学校間でつくる）。

学校と公民館の連携強化。

社会教育団体やスポ少等の施設利用管理を公民館で。

各地区から選出された役員からPTA組織の三役についてもらう。

スクールバス担当者の学校配置（スクールバスの利用性向上）。

ふるさと学習・地域の先生のリストアップ（コミュニティスクールで）。

各地区代表区長との連携。

地域の人に学校に来てもらったり、子供たちが地域に実際に行ったりする。

学校全体として地域の企業や伝統・文化に親しむ機会を意図的に設ける。

人材バンクを作り、いろいろな方面にわたって社会教育、生涯教育の講師を募る。また、それに対応するため多目的に使えるような場所（教室）を多く備えておく。

地域の人材・物・施設・魅力をマップに明記するなどして、みんながわかるようにする。

市内5地区の公民館との連携強化が必要と考える。学校は地域コミュニティとしての役割を強化し、「地域みんなで子供を支える」という考えを浸透させていただきたい。面積の広い本市に一小一中となることへの不安が大きい（地域の衰退）ことは否めない。学習活動の素材として活用していくことが大事。是非、子供の声が地域に響く活動を。

おたがいに負担のない関係をつくる。

全小学校での人材確保。

自由参観日の日程を増やし、PTA関係者でなくても学校の普段の様子を見てもらうようにして、交流を持ち、その中で地域や情報を教えてもらいたい。子供たちに良い影響があるものはどしどし取り入れる。

幼保、中学校、福祉施設、企業等さまざまな社会構成との交流ができるシステム。

地域学校協働本部、SC協議会等の事務局を校内に置く。

セキュリティの問題があるかもしれないが、文化祭や運動会など市民が学校に行ける機会を作る。極端にすれば子供がいない日曜に文化祭の展示などを一般公開。

統合前の小学校のあった地区の公民館と連絡して学期ごとに交流行事などを行うといいと思う。

地域の教育団体の活動に協力し、積極的に学校教育に関わっていただく体制を作る。そのためには市のコーディネーターを学校に配置して、年間計画の作成から実施に向けた調整までをしていただけるといいと思います。転勤すると尾花沢を離れてしまう教職員ではできないことです。持続するシステムを作ってほしいと思います。地域が広くなり6学年分の活動をコーディネートするのは大仕事です。

地域の方（協力したいことを考えている方がいる）の協力を得られるような機会があるといいと思います。

地域の人達との交流ができる大きな会議室が必要だと思います。

コミュニティスクール。

クラブ活動等に地域の先生の協力を。

人材バンクなど連携する際の情報を充実するいいと思う。

地域資源の活用。

地域人材を活かした社会科・総合的な学習の時間などの授業、地域の人とのスポーツなどの交流、職場体験・見学。地域調べ。地元の人にインタビュー。地域のPR動画作成。

情報発信。

地域の方に講師等をお願いできる仕組み、地域の方が学校で準備活動や待機できるスペース。

学校開放日を設け地域の人々に参観してもらう。

地域の人材が自由に出入りできる寺子屋みたいなスペースがある。

学習指導ができる人、畑ができる人、放課後子どもと過ごしてくれる人をリストアップし、曜日を分けてお願いする。

子供たちが率先して参加できるようなイベントや学校への出前授業など学校で行う行事などを増やし、子供たちにボランティア係などをしてもらう。

保護者との連携（コロナ禍で学校に足を運んでもらう機会が減っているから特に）を繋げる。

地域の行事に積極的に参加させる。

コロナ前のように職場体験ができることが大きい。

校務分掌の中に地域連携部を設け、企画、交渉、窓口などを引き受ける等、連携行事サポートを行う。

学習に困難を感じている生徒、人間関係づくりが苦手な生徒など、様々な生徒をサポートしていただける地域の皆さんの協力が期待されます。

社会体育施設、会議室、多目的室など、共同で利用できるシステムにする。

地域に明るい人の配置（地域コーディネーター）。

コミュニティスクールをスタートさせ、運営協議会を設置し、熟議を通して学校と地域の共有する課題を確認し取り組めたらと思います。

今後部活動が外部への委託となる世の中なのだとすれば、体育館だけでなく文化施設も外から直接入れるようにしたほうが良いのではないかな。

コミュニティセンターとしての設置。

ふるさと・歴史などを掲示できるスペースの確保。

防犯・セキュリティを充実して開放する。

小学校の場合、放課後の学童施設を整備する。

地域の先生として様々な学習の中でお招きできるようにして欲しい。

学力低下対策が最優先では？ 連携など必要ですか？

地域への情報発信。

地域と学校をつなぐ人材の確保。

地域の方々が行うイベントやレッスン、クラブ活動、練習などで必要となる設備を備えた体育館や多目的スペース、講堂をつくる。

地域の方をお招きした学活、総合的な学習の時間を継続して実施する。

祭りや地域のイベント・活動への積極的参加もしくは運営に関わる。

地域で困っている事や生徒に手伝って欲しいことを募り公平に地区に関わる。

学校だよりの全戸配布（市内企業や施設も）。

外部講師（ゲストティーチャー、講話など）や部活動指導者の活用。

地域の方々と交流する企画（福原コンサート、職場体験など）。

ふるさと学習をする時間をつくる。

連携を密にするための方策がしっかりして（案内文書の流れ、会議の回数）、連携しつつそれに係る労力を減らす工夫が求められる。

地区ごとのクリーン作戦。

保護者・区長の記述意見

Q3. 新しい学校に通う児童生徒をイメージするキーワードはどういったものですか。

自主的
優しい
愛される
協力
さみしい、かなしい
ふるさと愛
自分たちが大切にしたいと思えるような。認め合う。
明るい、創造的
いじめのない
臥薪嘗胆
これらすべてが当たり前のようにできる学校であってほしい。
緊張（ドキドキ、わくわく）
緊張感
誇り
グループ分かれ
探究心
さわやかなあいさつ
しっかりした、おとなしい
さわがしい
個性
グループ分かれ
なんでも良い
こういったことが当たり前ができる子供たちであって欲しい
子供たちは個性豊であるべきと思いますので、選びようがありません
賢い
地元愛
緊張感・出身校ごとにまとまりがち（少人数の学校から行った子の場合特に）
多様性
同級生の人数が増え大人数との交流
不安げな顔

保護者・区長の記述意見

Q4. 尾花沢らしい学校をイメージするキーワードはどういったものですか。

絆
協働的な学び
キャリア教育
多様性の統合
スコップを上手に使える

地域特性（産業、観光）を活かす

農業（稲作・すいか）実践

高齢者や地域の方と交流できる学校

特色ある学習。スキー、雪、スイカ、花笠

探究心を育む

元気なあいさつ

スイカ柄の校舎

特色ある学習。スキー、花笠、スイカ学習など

同居率や高齢化率が高いので、高齢者などと交流し一緒に過ごせる

創造

保護者・区長の記述意見

Q5. ア. 学習環境に関して充実させたいものは何ですか。

各教室・特別教室・特別支援学級教室それぞれに適したつくりや環境の充実。

図書室の充実、学習センター、情報センターとなるような設備。

図書館を情報センター的にする。

教室は個別で。オープンスペースはダメ。

図書館を上学年・下学年に分けて2つ設置する。

学習支援員や特別支援学級への支援員の充実。

特別教室やICTなどの設備の充実。

生徒のロッカーとカバン置場。

学年ごとの集会がしやすいスペース。

最新、先端技術、情報処理。

ITなど学べる施設。

市役所みたいにムダに広い税金かけないでください。ふるさと納税でがっばり年収があるならいいですが。

医療費をゼロ円に。税をふるさと納税で低く。

IT機器。

屋内プール。民間委託して一年中市民が大いに活用できるもの。

障害のある子もない子も個々のいいところを伸ばせる環境。

普通教室の使いやすさ。

図書館やフリースペース、広場的な場、中庭のような、ゆったりくつろげる気持ちが安らぐように。

多目的スペース、ビオトープ。

教授の質。

充実した体育館・グラウンドの整備、ビオトープ。

IT設備。

充実した体育館・グラウンドの設備。

ICT教育の環境。

教職員が子供たちのことを考え充実させたいと思う設備。

インターネットを通じたたくさんの交流ができる施設。学業、スポーツ、音楽、その他。

個人事に合った学びのスペース。

図書館 県や市の図書館にもつながり子どもが読みたい本、話題の本、文献等の情報がすぐに手に入れられるように。

音楽に力をいれてほしいです。

充実したICT環境。WIFI、タブレット、PCなど。

WIFI環境、電子黒板、タブレットの活用、電子教科書の導入。

ICT関係の設備。

冷暖房の設備。

自然のもの、木の香り、ぬくもり、自然と触れ合えるいいこの場。

トイレ。男の子も個室が良い。洋式でも座っているし大便も恥ずかしくないから。

教育用機器。

個人室にあった場所（リリースルーム的な環境のある教室等）。

冬や雨天などでも体力づくりのできるトレーニング設備。

なんでも良い。

先生が指導しやすい設備。

ネット環境など学校以外とつながるツールの設備。

普通教室・特別教室の広さではなく設備をきちんとしてほしい。

普通教室、グラウンドなどすべて充実させてほしい。池はあぶないと思う。グラウンドは土ではないのが良い。

循環型社会への意識。

広さ＝良い ではないと思います。そこにしかないものや、情報機器の充実をして欲しいです。他自治体の人が、この学校のほうがよいと思わせるものをお願いします。

冷暖房完備。

プログラミング教育・パソコン教室。

IT情報技術。

今まで通り、大人になって楽しく思い出が語れる校風づくり。

保護者・区長の記述意見

Q5. イ. 校内環境に関して充実させたいものは何ですか。

自然光が入る。

通信環境。

アルコブ（くぼみスペース）やデン（個室）など子供たちがリラックスできるスペースの設置。

室内でも子供たちが伸び伸び遊べる環境。

木材を活かす。

落雪や除雪等を考えた、雪への対応が柔軟にできる、雪に強い。

図書室の書架と学習スペース。できれば上学年図書室と下学年図書室を。

教室の多さ。

部屋の多さ。

ウィルス対策しやすく、かつSDG s 的発想を重視した環境。

自然の光、身近さ。

安心して飲める水道。

無駄なスペースはいらない。

温水設備。

感染対策。

温度差の少ない校内。

死角のない安全なつくり。

悠美館のような図書室。クラブ活動の部屋。コロナ対応の抗菌の壁。

図書館の空間。

学習スペース。

体育館も含めて冷暖房。

体育館・グラウンドの広さ。

区切られている教室が良い。授業中に雑音が入るから。

学習に集中できる教室環境。

中庭、芸術作品、アート。

照明器具ではないものによる明るさ。

動物を飼育する部屋の設置、更衣室の設置。

ランチルーム（給食の時にコロナ対策をしながら集合して食事をする場所）。

高度なWIFI環境。

温水設備。

図書室の充実。悠美館との連携。

安心して飲める水道。

図書室の本。

冬も広い駐車スペース。

全て充実。

木材を利用した温かい雰囲気。

子どもの数がどんどん減っていくと思うので、いずれは保育園も校舎内に設置が出来るように、水廻り、環境を考えてみてはどうでしょうか・・・。

広い体育館（3面程度の広さ）。距離が近い所であればサルナートを利用するのも良いですが。

更衣室（子ども用）の設置、ICT機器の設置（モニターなど）。

衛生的に十分配慮された環境。

バリアフリーも必要なのではと感じる。

特にトイレは男の子も洋式を増やしてほしい。今は座ってトイレをする子が増えている。

校内の温度差が少ない。

運動施設、自然光、コンセントの数。

図書室の空間。

クラスが学年できちんと区切られている。

防音。

明るさ、トイレ、水道等はそろえて当たり前です。

バスの待合室。

おいしい給食。

体育館の広さ、設備。

体育館、グラウンド設備。
IT・情報技術。
清潔。
多目的に利用できる広い部屋(ホール)。

保護者・区長の記述意見

Q5. ウ. 校舎外の環境に関して充実させたいものは何ですか。

ユニバーサルデザインを取り入れた学校施設。
除雪対応。
子供たちが伸び伸び遊べる環境。
水はけの良いグラウンド。
ビオトープ。
体育館の下をピロティにして、冬場駐車できるようにする。
駐車場に入る道路の広さ。
自然に優しい太陽光、バイオマス、リサイクル等。
畑。
ゴムグラウンド。
駐車場が近所の遊び場や通り道になっていて危ないので区分してほしい。
畑スペース。
避難しやすく地域の安全地帯となりうる環境。
ピロティーの広さ。
児童の安全。
芝グラウンド。
敷地の広さ。
グラウンドの広さ。
災害があった時に使用できる遊具や設備。
雪対策。
駐車場の広さ、遊具。
太陽光発電、遊具。
雨水利用、遊具。
太陽光発電、雨水利用。
遊具、スプリンクラー。
プールのシャワーの温水、更衣室。
畑があるといい。
芝生、遊具。
駐車場の広さ、遊具。
清潔であること。
冬場、車で校舎まで上がれなくなるので急な坂は作らないでほしい。
山が近く熊等と出会う確立を減らせるような環境。
芝グラウンド。

プール。
子供たちが散策できる豊かな中庭（小川など）。
グラウンドをゴムグラウンドにして欲しい。
照明のあるグラウンド。芝のサッカー場。
市役所と同じようなエネルギー棟。
全て充実。
公認用グラウンド。
子供たちが通る所に雪が落ちないようにしてほしい。
雪囲い等の設置作業は保護者をあてにしないでほしい。
グラウンド設備。
地域との交流が図られる共同作業のできる花壇や畑。

保護者・区長の記述意見

Q 5. エ. 防犯・防災対策に関して充実させたいもの何ですか。

災害用品全般、非常食、ライト、簡易トイレ、パーテーションなど。
各教室と内線等で連絡が取れる。
玄関のオートロック。
内線電話。
児童ロック。
リモート開閉式玄関ドア。
玄関の施錠を職員室でON、OFFできるシステム。
附属小中のような柵と守衛さん。
自動ロック、玄関など。
地域と一体化した防犯・防災教育。
職員玄関のオートロック。
施錠の可視化。
しっかり手当てできる保健室の広さとベッド数。保健の先生の人数。
警備員。
全部あってあたり前です。
カメラ付きインターホンで常時施錠され、職員室などで開錠する形のもの。

保護者・区長の記述意見

Q 6. 新しい小中学校はどんな学校が良いと思いますか。

職員室からグラウンドや登下校する児童の姿が見えるつくり。
図書、ビデオ、ネット環境等、リソースセンターのある学校。
真正な学びが行われる学校。
本当の学力が身につく学校。
生きる力を育てる学校。
障がいを持った子も一緒に学び生活できる学校。
将来の人数減や防災を考え、汎用性の高い設備・施設であること。
学力を向上させる学校。

学力を向上させられる学校。

徳良湖まつり、花笠まつりなどに学校で参加する。

児童生徒数は減少していくのだから、コンパクトで使い勝手のいい校舎が良いと思う。大切な税金なので大事にしてほしい。

ICT教育が充実している学校。

小学校中学校は併設型ではなく、最上地域に多数ある小中一貫校の形が望ましい。今後児童数、生徒数、維持費を考えると市民や市の負担が少ない方がよい。

いきいきと学べる学校。

①～⑧まで全ての機能を備えているのが学校と思っていました。

受験対策。

自分の好きな事を探求できる場。

保護者・区長の記述意見

Q 7. 新しい小中学校で、より充実させたい内容はなんですか。

先生方との交流。

バリアフリー、老人ホーム訪問、職業体験など。

英語、英会話。

近くに図書館が欲しい。

地区別の垣根を超えた生活を送れる施設。

除雪が簡便な設計。

保護者・区長の記述意見

Q 8. 学校の利活用方法について何が必要だと思いますか。

尾花沢を活性化するために一定のルールを持ちながら、①～⑤の利活用は必要だと考えます。その他、子供食堂（弁当など）の検討もして欲しいです。

使わない施設の維持管理は大変なので解体したほうが良い。

プールは別の場所に屋内プールを作り、一年中授業や部活、スイミングスクールとして利用できるようにして欲しい。

統合後も子供の人数は減少していくと思うので、その後、空きスペースを活用できるように変化に対応できるように望みます。

社会人として働くことを学べる場（学校行事で働く、稼ぐことを学べる事をする）。

学童は別棟で。

①②どちらも必要。

保護者・区長の記述意見

Q 9. 教室はどのような形態が良いと思いますか。

少子化を見すえた教室。

子供たちに良いとされる方。

障がいをもつ子やボーダーラインの子も集中しやすい造りの教室。

楯岡中学校のような教室。

災害時すぐ外に出れるような教室。

保護者・区長の記述意見

Ｑ１０．ウ．子供たちに教えたいたことはありますか。

産業（農業、観光）。

地域の方との交流、人間関係の築き方。

地元企業の魅力など。

一般常識。

パソコン。

スポーツ。

ボードゲーム。

防犯セキュリティ。

日本の将来など。

専門的なことは一流の人に習った方がいいと思う。

スポーツ。

地域の人材。

人との関わり。

防犯、命の教育。

アウトドア。

個人差別のない、させない教育。支援学級の子供たちに対する、普通学級の子供たちの偏見を持たせない教育が必要だと思います。

尾花沢の良さ。

生きていくための知恵。

地政学。

親世代が頑張ってきたこと、失敗したこと、成功したこと、学んだこと。

スポーツ活動。

心の教育、いじめ等のないように現場だけでなく、ＳＮＳやネット上でのいじめ等も不安です。

地域のことにこだわらず、いろいろな職業があること教えたい。

ネットのこわさ。

現代に合った対応能力。

ひとつに選べません。育てていくうえですべて大切です。

高齢者との関わり。

基本的マナーや言葉の使い方。人を思いやる心。

社会で生きていくための常識。思いやり。人の心がわかる。

道徳。

人と人のかかわりあい方、思いやる心や生きていくうえで大切な事を先に教えるべきだと思います。

何事にも一生懸命に取り組むことの大切さ。

地域の産業（特産物、地元企業など）。

人口減少による過疎地での考え方。

社会人になるための準備や心構え。

人間力。

自分が教えられることはない。

子供たちの自ら学ぶ力が育つような学校にして欲しい。保護者の教育力、協力、教員の熱意、地域の皆さんの支えこそが大事。本当の意味での良い教育、それができてこそその尾花沢らしさ。今までは各学校に差（行事の中身、あり方、取り組み方、宿題の内容等）があると実感する。統合に向けて各学校の差が縮まり、子供たち、先生方、保護者の意欲の差が縮まって統合できるように願う。

先進技術、デジタル技術。

生きていくうえでの大切な考え方、人との交流、世界で起きていること。

競うことの重要性。

コロナの影響もあり、スマホやタブレット等の仕様が増えたので危険性等を教えてもらいたい。

社会で生き抜く力。

スポーツなど。

職業。

パソコン。

地元企業の魅力など。

尾花沢でのビジネスができる想像力。

命の大切さ。

地域の方との交流や人間関係の築き方。

自分の好きな事を学んでほしい。

スポーツ。

地域特性（農業・観光など）。

地域、ふるさとの良さ。

親自身が今まで何をかんばってきたか、どんな失敗をしたか、そこから何を学んだか。

ここで学んだ子供が、どこに行ってもやっていけるような、主に情報等の学びを充実させたいです。文化や昔ながらのあそび、歴史は市や他で学ばせるのがよいと思います。

特になし。

心の教育をして欲しい。

自分の好きな事、特技。

プログラミング。

将来の進路選択に役立つこと。

ネットのこわさ、顔の见えない相手への言葉。

防災。

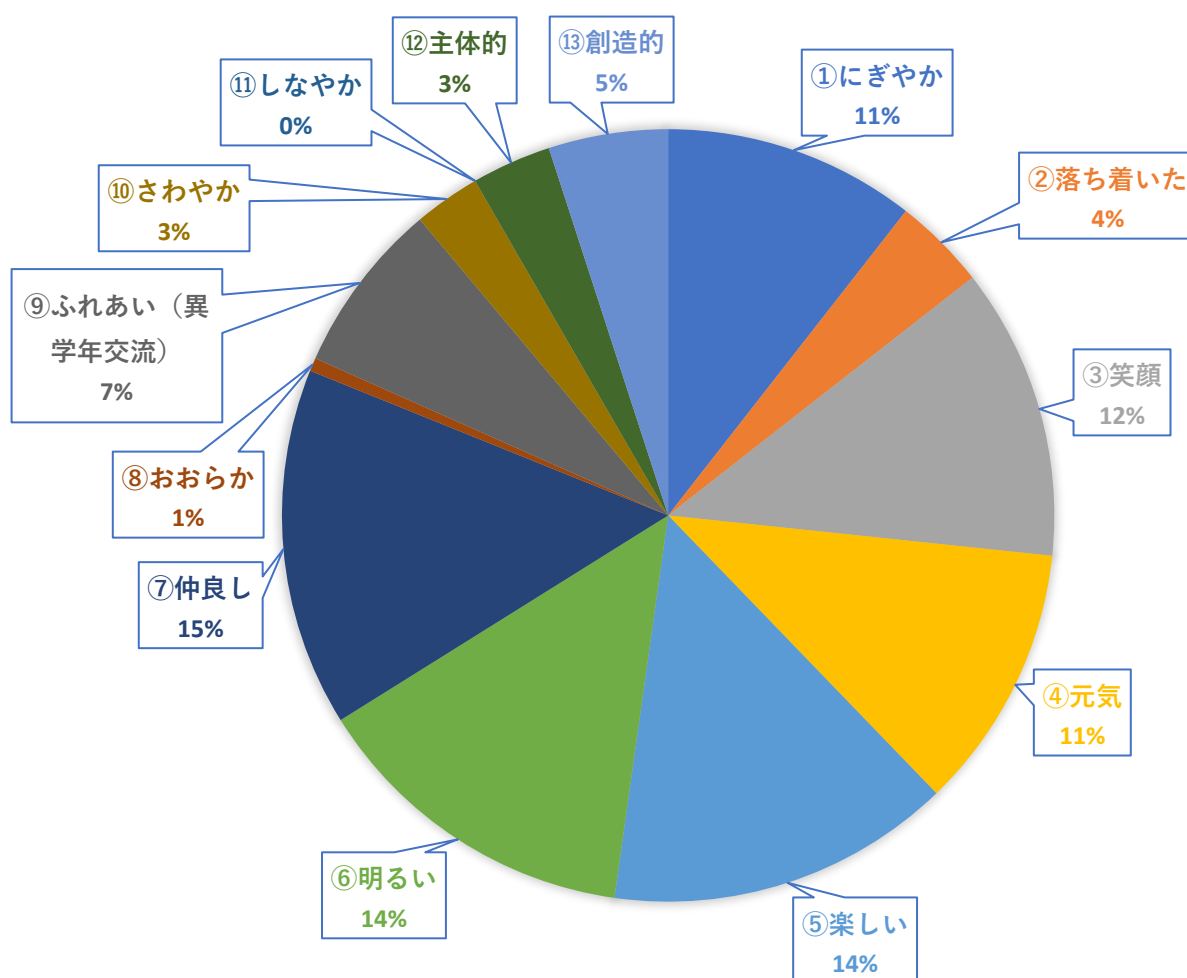
小学校・中学校建設に係るアンケート調査結果
『僕たち私たちが考える学校を語ろう会』で出された意見
(小学生)

令和4年5月～8月実施

Q 3. 新しい学校に通う児童生徒を考えた時、どのような学校を連想しますか。
あてはまるもの3つに〇をつけてください。

		児童生徒
①にぎやか	19	10.6%
②落ち着いた	7	3.9%
③笑顔	22	12.2%
④元気	20	11.1%
⑤楽しい	26	14.4%
⑥明るい	25	13.9%
⑦仲良し	27	15.0%
⑧おおらか	1	0.6%
⑨ふれあい（異学年交流）	13	7.2%
⑩さわやか	5	2.8%
⑪しなやか	0	0.0%
⑫主体的	6	3.3%
⑬創造的	9	5.0%
計	180	100.0%

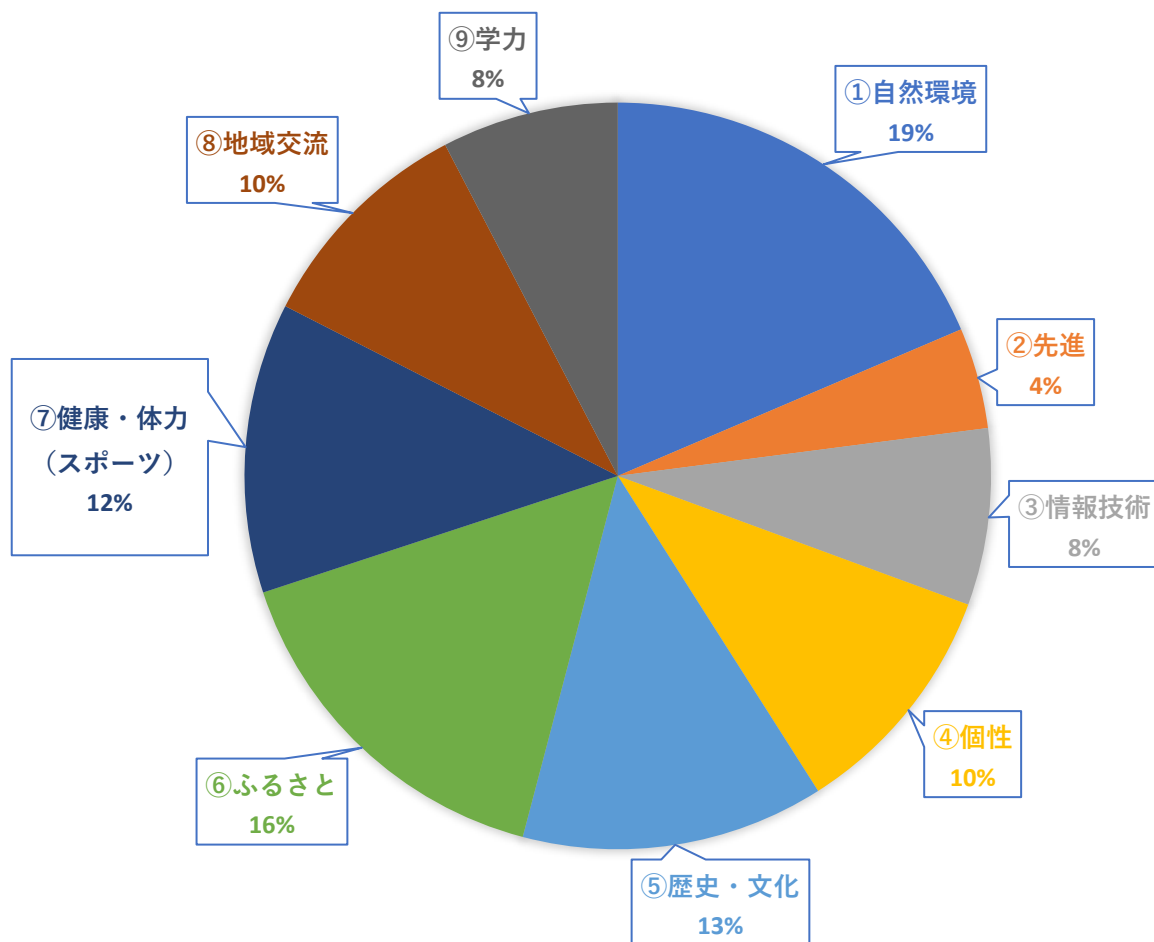
新しい学校に通う児童生徒を考えた時、どのような学校を連想するか



Q 4. 尾花沢市らしい学校を考えた時、大切にしたい学習はなんですか。
あてはまるもの3つに〇をつけてください。

		児童生徒
①自然環境	34	18.6%
②先進	8	4.4%
③情報技術	14	7.7%
④個性	19	10.4%
⑤歴史・文化	24	13.1%
⑥ふるさと	29	15.8%
⑦健康・体力（スポーツ）	23	12.6%
⑧地域交流	18	9.8%
⑨学力	14	7.7%
計	183	100.0%

尾花沢らしい学校を考えた時、大切にしたい学習は何

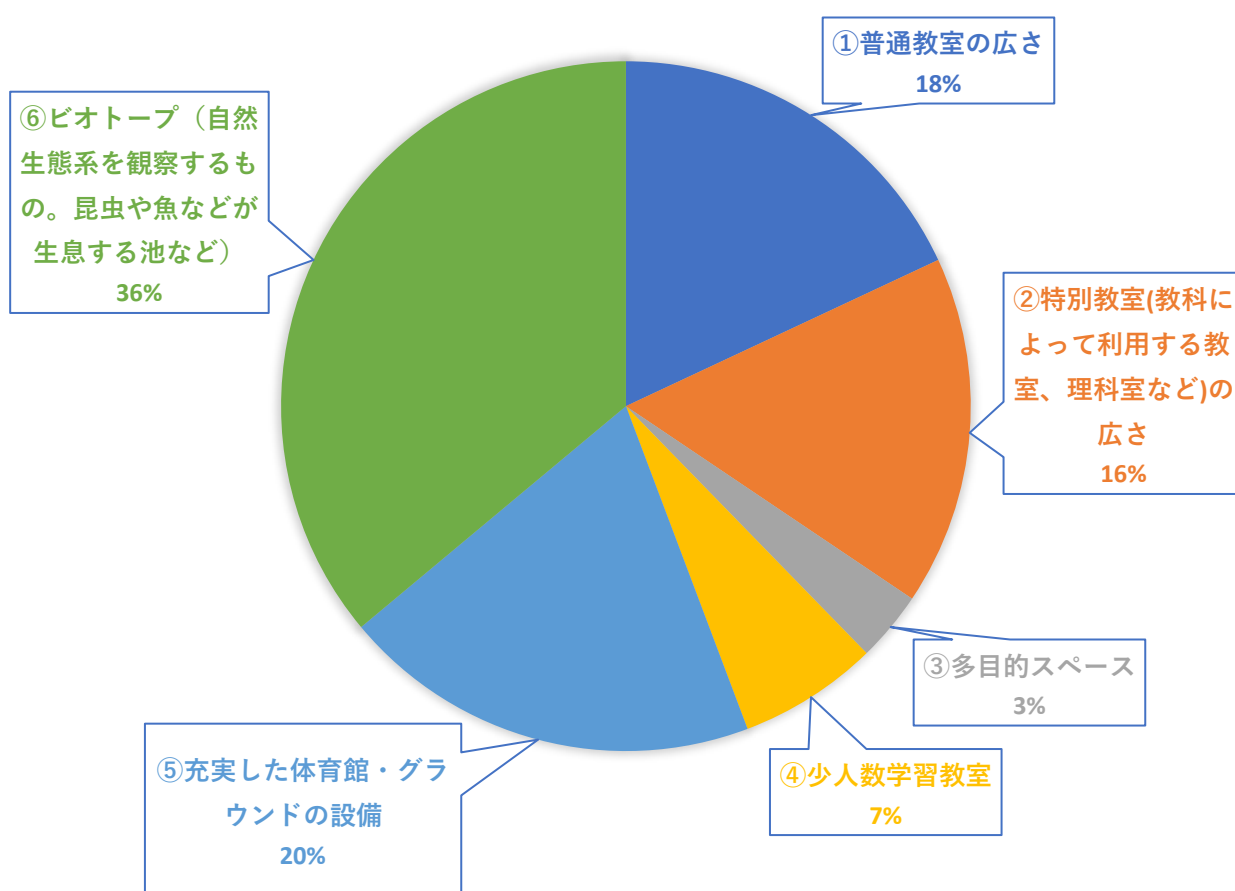


Q 5. 新しい学校で最も充実させたい施設や設備は何ですか。

ア. 学習環境に関して、よくなって欲しいもの 1つに〇 をつけてください。

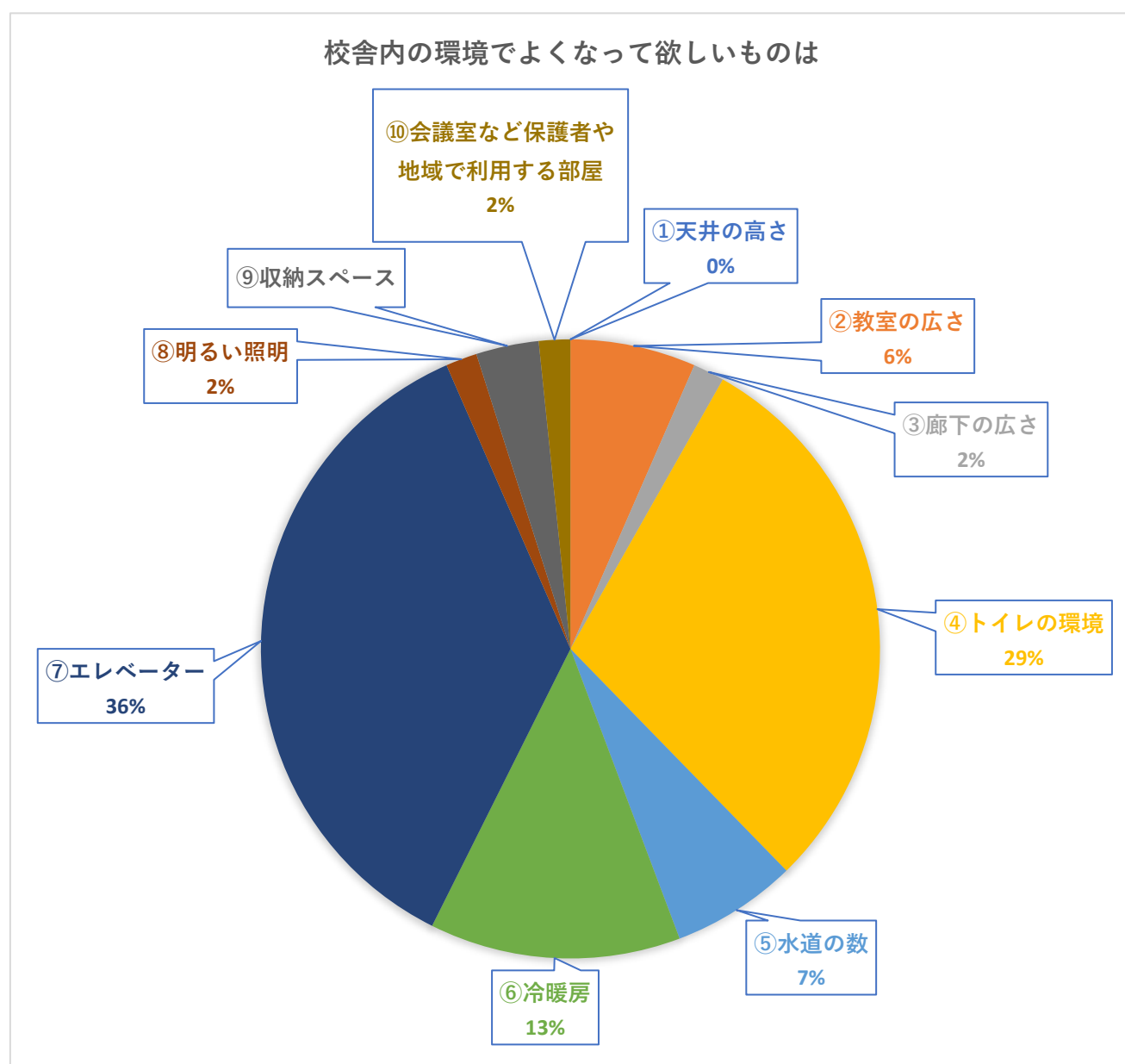
		児童生徒
①普通教室の広さ	11	18.0%
②特別教室(教科によって利用する教室、理科室など)の広さ	10	16.4%
③多目的スペース	2	3.3%
④少人数学習教室	4	6.6%
⑤充実した体育館・グラウンドの設備	12	19.7%
⑥ビオトープ(自然生態系を観察するもの。昆虫や魚などが生息する池など)	22	36.1%
計	61	100.0%

新しい学校でよくなって欲しい学習環境は



イ. 校舎内の環境に関して、よくなって欲しいもの3つにQをつけてください。

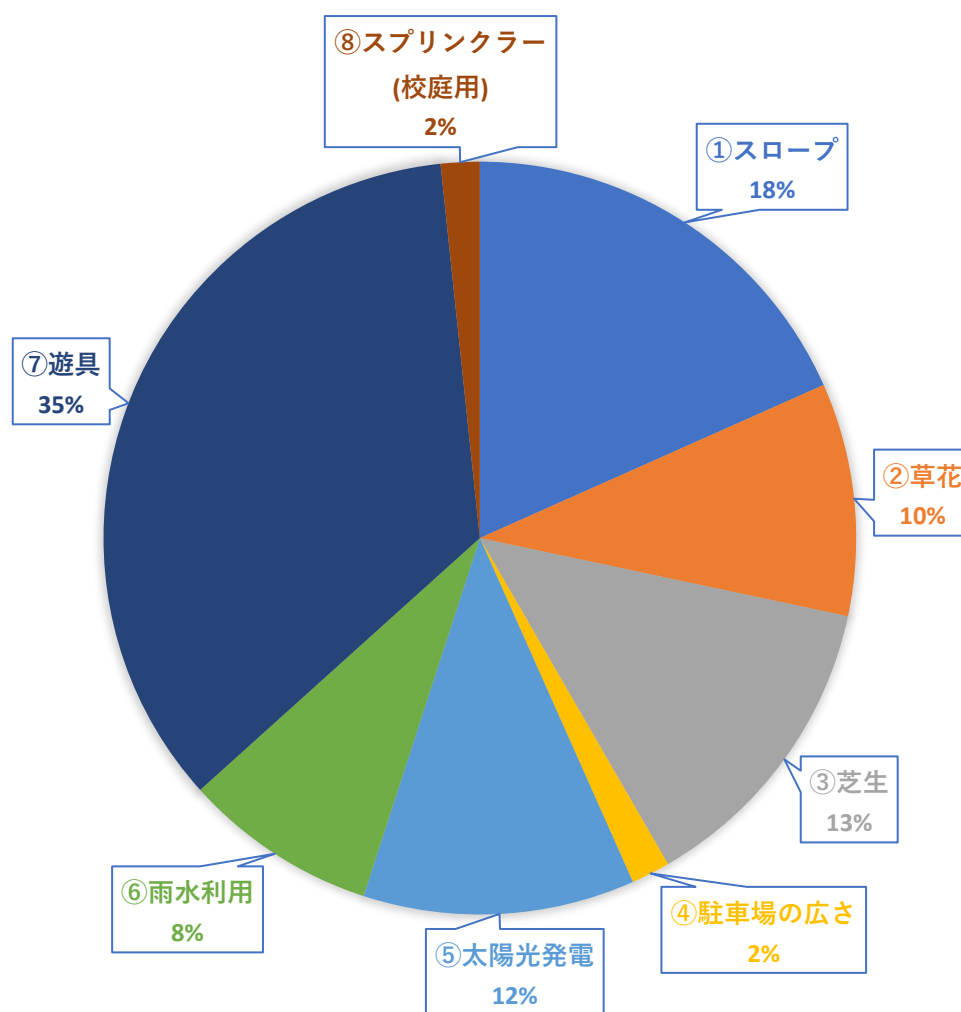
		児童生徒
①天井の高さ	0	0.0%
②教室の広さ	4	6.6%
③廊下の広さ	1	1.6%
④トイレの環境	18	29.5%
⑤水道の数	4	6.6%
⑥冷暖房	8	13.1%
⑦エレベーター	22	36.1%
⑧明るい照明	1	1.6%
⑨収納スペース	2	3.3%
⑩会議室など保護者や地域で利用する部屋	1	1.6%
計	61	100.0%



ウ. 校舎外の環境に関して、よくなって欲しいもの1つにQをつけてください。

		児童生徒
①スロープ	11	18.3%
②草花	6	10.0%
③芝生	8	13.3%
④駐車場の広さ	1	1.7%
⑤太陽光発電	7	11.7%
⑥雨水利用	5	8.3%
⑦遊具	21	35.0%
⑧スプリンクラー(校庭用)	1	1.7%
計	60	100.0%

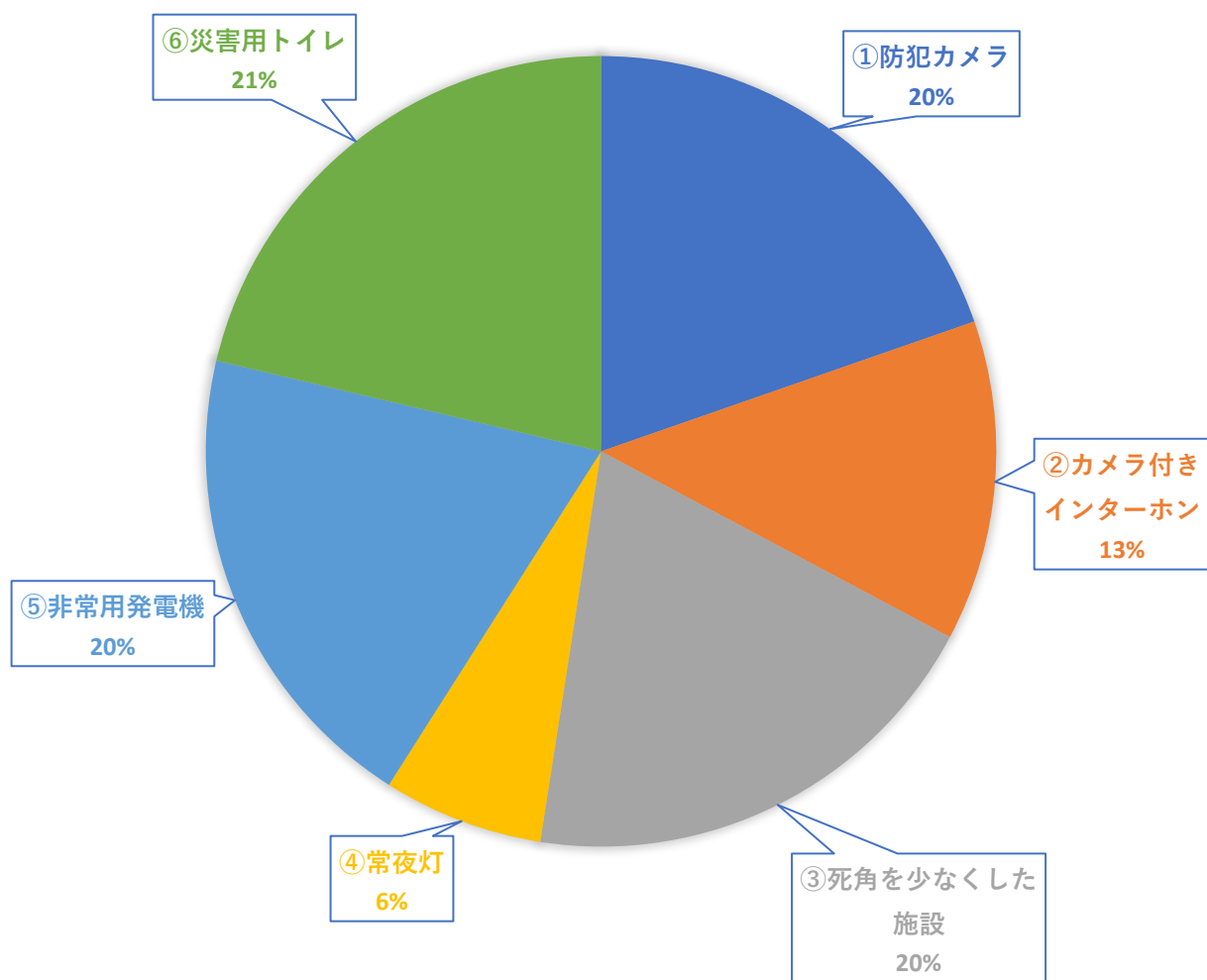
校舎外の環境でよくなって欲しいものは



エ. 防犯・防災対策に関して、充実させたいもの1つに〇をつけてください。

		児童生徒
①防犯カメラ	12	19.7%
②カメラ付きインターホン	8	13.1%
③死角を少なくした施設	12	19.7%
④常夜灯	4	6.6%
⑤非常用発電機	12	19.7%
⑥災害用トイレ	13	21.3%
計	61	100.0%

防犯・防災対策で充実させたいものは



『僕たち私たちが考える学校を語ろう会』で出された小学生の意見

【学習空間について】

普通教室	・普通教室が広くなって欲しい ・換気の良い広い教室 ・広々と使えて、物が置けるように広い教室 ・教室は今よりも広いほうが良い ・学習に集中できるようにエアコンが強力なものが良い ・広い教室 ・夏でも涼しく学習できる環境 ・各教室にスクリーン・大画面テレビ ・人数が多いと窮屈 ・コロナになるから広く
特別教室	・理科室・音楽室×2ずつ
多目的スペース	・近くに学年集会などに利用できる、学年ごとに集まれるスペースが欲しい ・多目的スペースがあると交流ができる
体育館 グラウンド	・体育館・グラウンドを充実して欲しい ・快適にいろいろな運動ができて、休み時間を楽しく過ごせるように体育館とグラウンドを充実させて欲しい ・広い体育館やグラウンドは使いやすい ・体育館にも冷暖房が欲しい ・スペースがあると運動できる、厚がるしいのがいや、グラウンドに芝生があるといい ・広い体育館 ・冷暖房完備の体育館 ・たくさんの人が運動などができるようにしたい
ビオトープ	・ビオトープなど自然と親しむ空間を大切にしたい ・ビオトープは理科などの学習で役立つ ・学校の身近な所にビオトープがあると、自然と関わるきっかけになりそうだ ・生き物が好き、理科で使える、本物が見れる、にぎやか。 ・生き物がいる学校 ・生物に触れうのが大事だと思う
その他	・タブレットやたくさんの資料を広げることができる机 ・温水シャワーや低学年用の浅いプールのあるプール ・ちゃんとした更衣室 ・遊具が欲しい ・温水プール(室内プール) ・広い机 ・上下できる黒板

【生活空間について】

校舎内環境	・重い物の持ち運びが大変なのでエレベーターが欲しい。 ・快適に過ごせるように冷暖房を充実させて欲しい。 ・死角の少ない構造にして欲しい。 ・臭くないトイレ。 ・楽に荷物を運んだり、けが人や車いすの人の移動のためにエレベーターを設置して欲しい。 ・もしもの時の備えに非常用発電機が必要。 ・走ってぶつかったり、けがしたりするのを防ぐため死角はないほうが良い。 ・暖房は床暖で、夏涼しく冬暖かいように。 ・廊下は広いほうが良い。 ・水飲み場は混雑防止のために広いほうが良い。 ・子供だけでなく、様々な方が利用できるようにエレベーターがあったほうが良い。 ・広いロッカー ・一つ一つの部屋が広いトイレ ・いろいろなスポーツができる体育館 ・トイレの環境をもっと良く（広く、清潔）。 ・エレベーターが欲しい（多数）。 ・照明→暗い所を軽くして欲しい（多数）。 ・スロープ（2人）→体の不自由な方に。 ・死角を少なくした施設（6人）→いじめ防止・非行防止につながる。 ・トイレ…トイレの数・広さ。
校舎外環境	・不審者対策のために防犯カメラが必要。 ・広い駐車場が必要。 ・安全に遊べる屋上 ・授業参観などの出入りがスムーズなように広い駐車場。 ・校内、グラウンドの水道の数を増やす ・芝生のグラウンド ・遊具（5人）→もっと充実させて！ ・芝生（2人）→ケガを防止。 ・太陽光発電…災害のための太陽光。 ・雪かきのいらない玄関。 ・スロープ…車椅子のスロープ。
防犯・防災対策	・災害用トイレ（4人）→災害が起きた時に必要。 ・非常用発電機…災害時にのための発電機。 ・防犯カメラ…不審者用防犯カメラ。 ・防犯カメラ

【地域との交流】

自然環境	・ 自然を親しむ時間が多く欲しい ・ 地域の先生などと一緒に自然に触れる機会が欲しい
歴史・文化	・ 花笠をつないでいきたい ・ 上ノ畑焼 ・ 徳良湖、銀山、ニッ森などについての歴史
地域交流	・ ふるさとの学習を地域と交流しながらして欲しい。地域を大切にしたい ・ 地域の人と仲良くなりたい ・ ゆう大学 ・ 自分たちが知らないことを教えて欲しい ・ クラブ活動で太鼓、茶道、書道、写真、俳句、バスケなどを教えてもらう ・ 地域の方が気軽に来校できたり、ゲストティーチャーとして授業に関わったりすることで、交流が活発に行われるきっかけになると思う ・ 児童も地域の安全・安全に利用できる交流スペース
その他	・ 尾花沢市の産業 ・ 尾花沢牛、スイカ、そば、花笠踊り

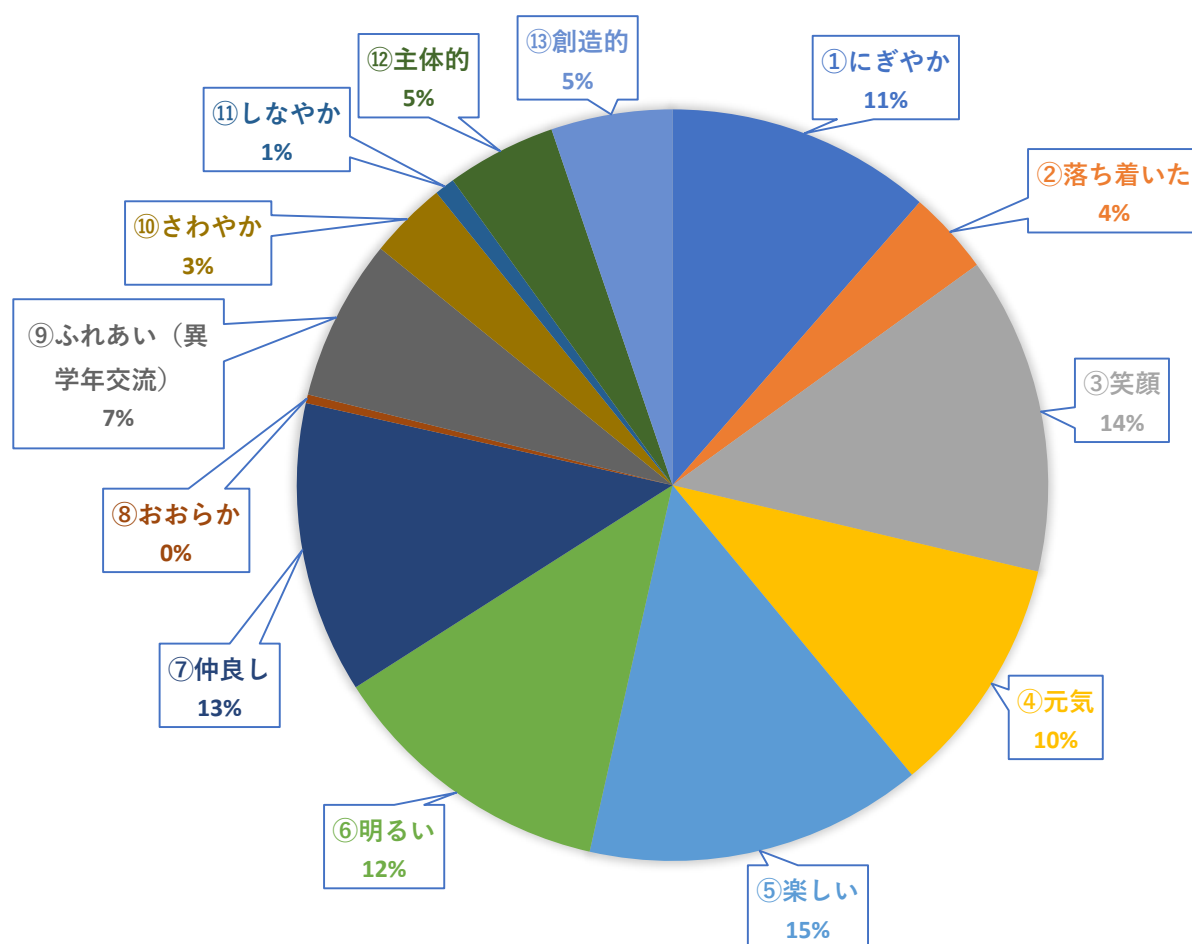
小学校・中学校建設に係るアンケート調査結果
『僕たち私たちが考える学校を語ろう会』で出された意見
(中学生)

令和4年5月～8月実施

Q 3. 新しい学校に通う児童生徒を考えた時、どのような学校を連想しますか。
あてはまるもの3つに〇をつけてください。

		児童生徒
①にぎやか	92	11.4%
②落ち着いた	29	3.6%
③笑顔	110	13.7%
④元気	83	10.3%
⑤楽しい	117	14.5%
⑥明るい	100	12.4%
⑦仲良し	101	12.5%
⑧おおらか	3	0.4%
⑨ふれあい（異学年交流）	56	7.0%
⑩さわやか	27	3.4%
⑪しなやか	7	0.9%
⑫主体的	38	4.7%
⑬創造的	42	5.2%
計	805	100.0%

新しい学校に通う児童生徒を考えた時、どのような学校を連想するか

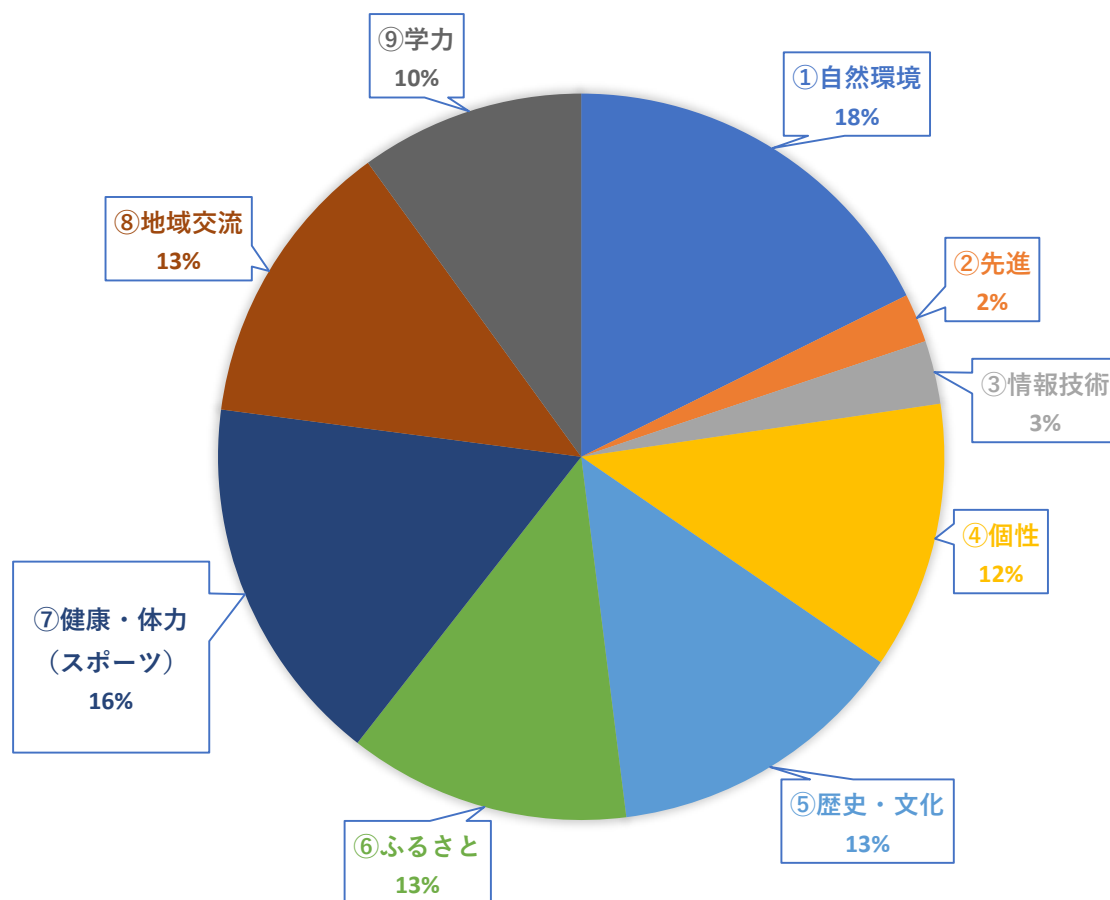


Q 4. 尾花沢市らしい学校を考えた時、大切にしたい学習はなんですか。

あてはまるもの3つに〇をつけてください。

		児童生徒
①自然環境	138	17.7%
②先進	17	2.2%
③情報技術	22	2.8%
④個性	93	11.9%
⑤歴史・文化	105	13.4%
⑥ふるさと	98	12.5%
⑦健康・体力（スポーツ）	129	16.5%
⑧地域交流	101	12.9%
⑨学力	78	10.0%
計	781	100.0%

尾花沢らしい学校を考えた時、大切にしたい学習は何

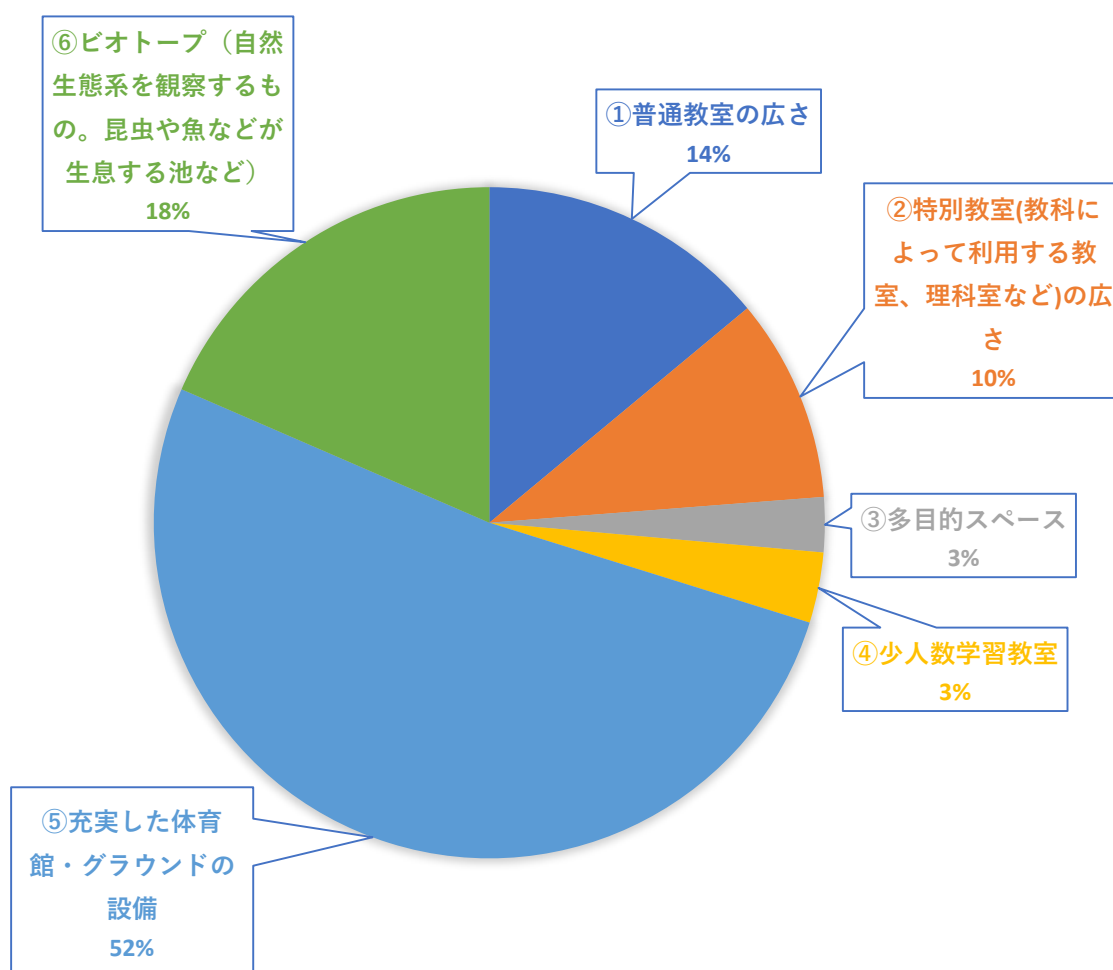


Q 5. 新しい学校で最も充実させたい施設や設備は何ですか。

ア. 学習環境に関して、よくなって欲しいもの 1つに〇 をつけてください。

		児童生徒
①普通教室の広さ	37	14.0%
②特別教室(教科によって利用する教室、理科室など)の広さ	26	9.8%
③多目的スペース	7	2.6%
④少人数学習教室	9	3.4%
⑤充実した体育館・グラウンドの設備	137	51.7%
⑥ビオトープ(自然生態系を観察するもの。昆虫や魚などが生息する池など)	49	18.5%
計	265	100.0%

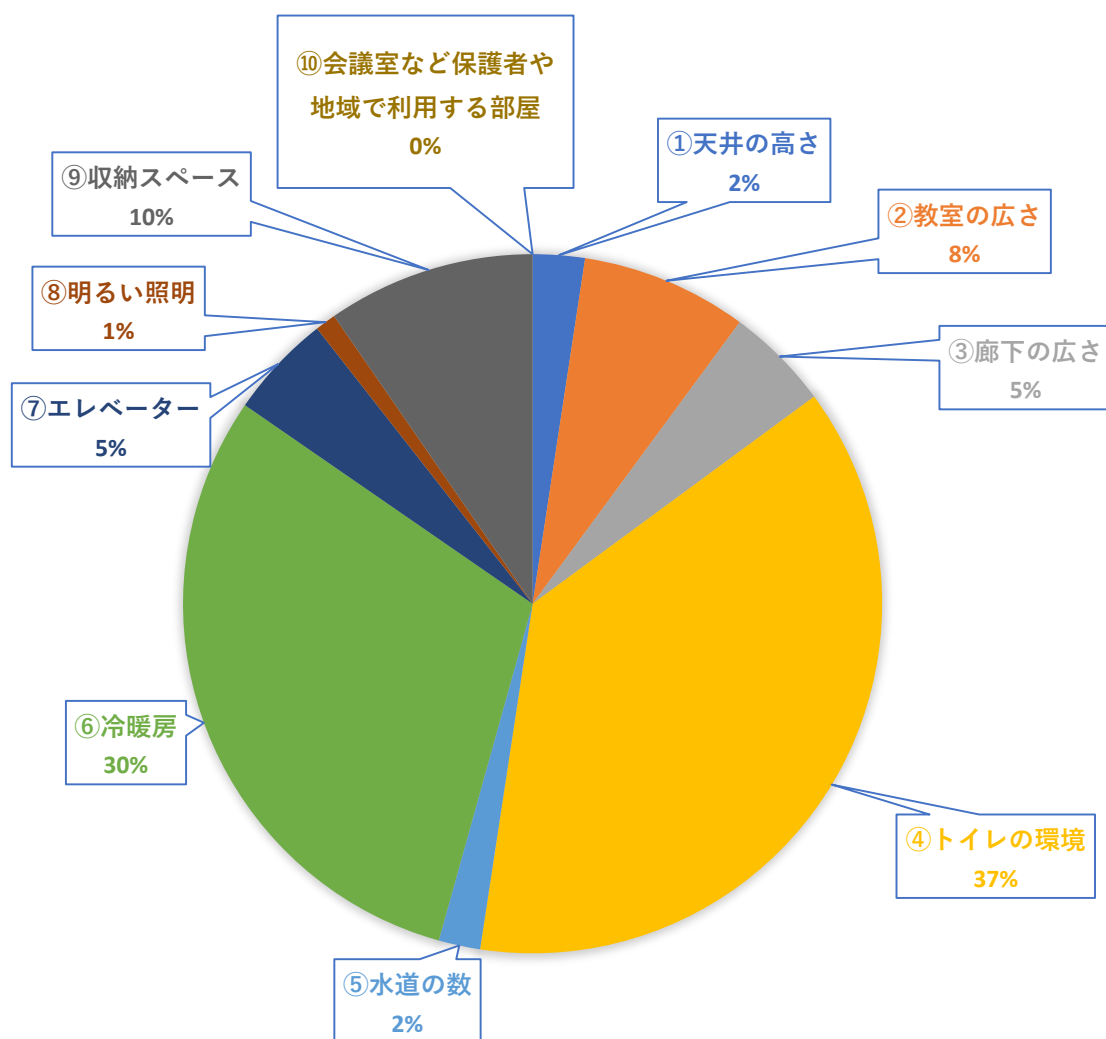
新しい学校でよくなって欲しい学習環境は



イ. 校舎内の環境に関して、よくなって欲しいもの3つに〇をつけてください。

		児童生徒
①天井の高さ	5	2.4%
②教室の広さ	16	7.7%
③廊下の広さ	10	4.8%
④トイレの環境	78	37.5%
⑤水道の数	4	1.9%
⑥冷暖房	63	30.3%
⑦エレベーター	10	4.8%
⑧明るい照明	2	1.0%
⑨収納スペース	20	9.6%
⑩会議室など保護者や地域で利用する部屋	0	0.0%
計	208	100.0%

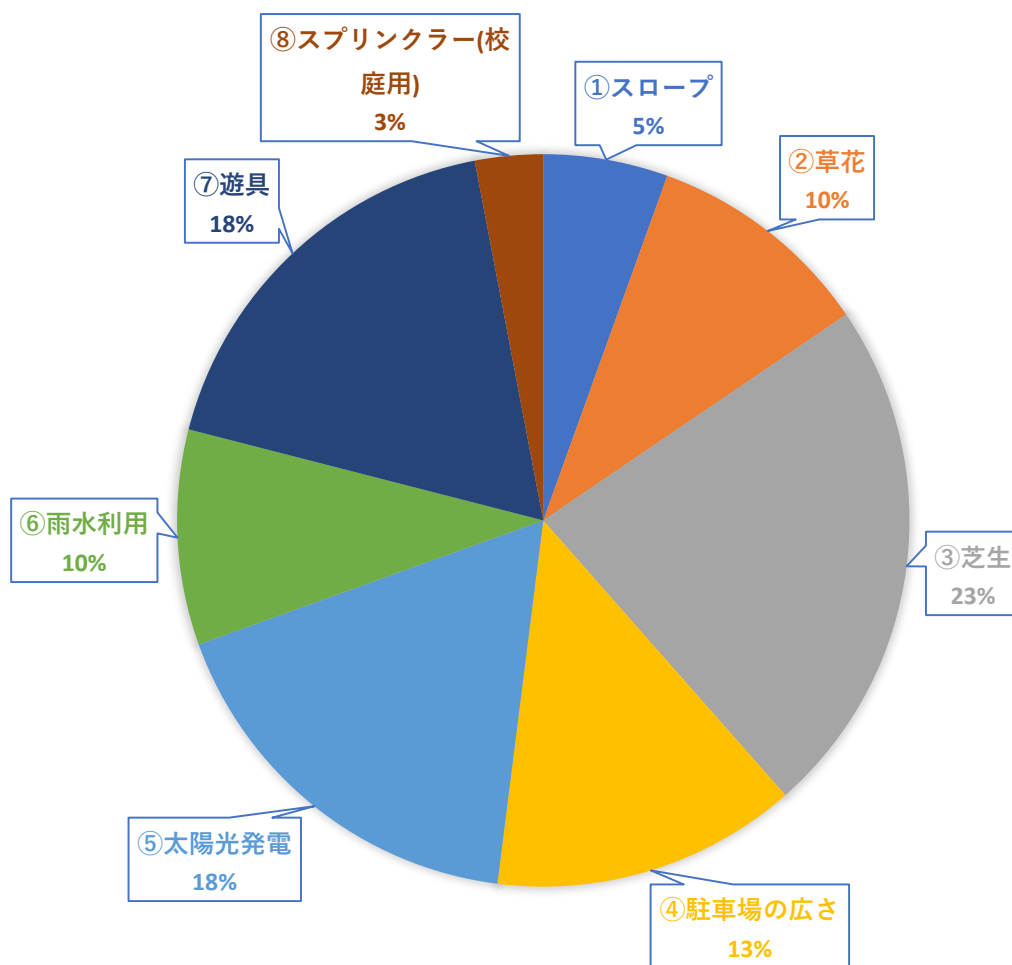
校舎内の環境でよくなって欲しいものは



ウ. 校舎外の環境に関して、よくなって欲しいもの1つに〇をつけてください。

		児童生徒
①スロープ	11	5.5%
②草花	20	10.0%
③芝生	46	23.0%
④駐車場の広さ	27	13.5%
⑤太陽光発電	35	17.5%
⑥雨水利用	19	9.5%
⑦遊具	36	18.0%
⑧スプリンクラー(校庭用)	6	3.0%
計	200	100.0%

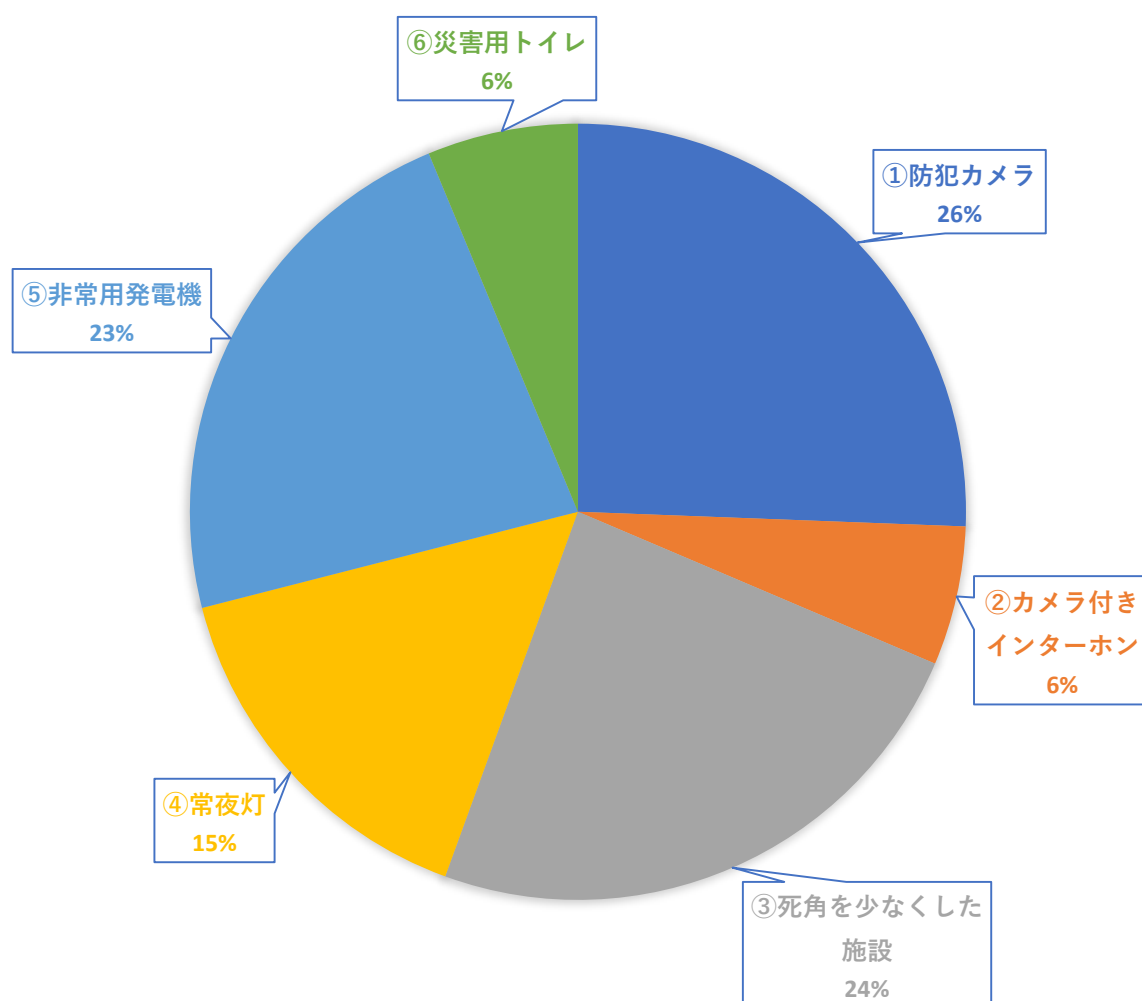
校舎外の環境でよくなって欲しいものは



エ. 防犯・防災対策に関して、充実させたいもの1つに〇をつけてください。

		児童生徒
①防犯カメラ	53	25.6%
②カメラ付きインターホン	12	5.8%
③死角を少なくした施設	50	24.2%
④常夜灯	32	15.5%
⑤非常用発電機	47	22.7%
⑥災害用トイレ	13	6.3%
計	207	100.0%

防犯・防災対策で充実させたいものは



『僕たち私たちが考える学校を語ろう会』で出された中学生の意見

【学習空間について】

普通教室	・人数が多くなっても距離をとれるように。 ・他学年の交流ができるように ・通路が狭く足が椅子に引っ掛かる ・人が集まると生徒数のわりに狭く物が多いので、部屋内の移動がしやすいように広く ・広い教室 ・予定表を見やすくわかりやすく
特別教室	・様々なものに触れ合えると学力が向上する ・誰もが使いやすくするため広い個室があればいい ・図書館にたくさんの本（広い図書室） ・理科室の実験台を大きく ・理科室にプラネタリウム ・音楽室をもっと広く
多目的スペース	・異学年との交流、放課後学習 ・休み時間にゆったりできる場所が欲しい
少人数学習教室	・自分のペースで学習していける ・学校に登校しづらい子たち向けの教室を作ったほうが良い
体育館 グラウンド	・体力向上、みんなで一緒に遊びたい ・運動がしやすいように ・みんなが集まるから広くしたい ・福中は規模が小さい、尾花沢中は年数を重ねている ・部活動で不便・危険だったことがあるので、部活のボールが他の部の所に行かないような設備が欲しい ・人数増加で狭い思いをしないようにする ・野球部のボールが陸上部の人に当り危険なので部活ごとのエリアが欲しい ・ハンドコートが乾かない ・体育館が熱い ・部活に対応して欲しい ・広くすると運動する人が増える ・部活動が充実するように広い体育館とグラウンド（全天候型） ・1周400mのゴムグラウンド、ハンドコート ・野球部と陸上部、卓球部とハンド部が別コート、メイン体育館とサブ体育館 ・体育館のエアコン ・野球部と陸上部の使うグラウンドを分ける（広くする、ゴムにする） ・体育館・グラウンドの設備が良くなって欲しい ・体育館で壊れそうなものがある ・グラウンドは陸上部・野球部が共用で危ない ・水はけが悪い ・体育館にクーラー、ヒーター

体育館 グラウンド	・ ゴムグラウンド ・ 中が芝生 ・ 外にバスケットコート ・ 広く、第2体育館、ハンドができるように ・ グラウンドをきれいに ・ 雪を考えた校舎内での部活動場所の確保 ・ 体育館を2つ ・ 体育館の通気性をよく ・ 陸上部と野球部のグラウンドを別に ・ ハンドボールコートの草、水はけ ・ 野球場と陸上トラックが兼用で、いつもケガに注意している
ビオトープ	・ 生物をよりたくさん知って欲しい ・ 自然に対する気持ちを育む ・ 学校に登校するのが楽しみになる ・ 理科の授業につながる ・ 昔はウサギなどを飼っていて生き物の大切さを学べた ・ 自然に興味を持つ人が増える、理科で活用できる ・ 自然と触れ合える場所 ・ 理科の授業や委員会で使える ・ 昆虫や魚と触れ合うことが少ない ・ ビオトープは自然に触れられるから、小学生に体験してもらいたい
その他	・ エスカレーター ・ 窓と壁がガラス、部屋がパーテーションで仕切れる ・ 木の椅子でなく、プラスチックの丈夫な椅子にする ・ 個人で静かに集中して取り組める自習室が欲しい ・ ホワイトボード ・ 電子パット ・ ギシギシしない机と椅子 ・ 土足で入れるところ ・ カーテンを使いやすく ・ 自販機 ・ 池 ・ 冷房 ・ 教室テレビ ・ 大きいロッカー ・ 左利きでも影ができない照明の配置 ・ 教室の机を大きく ・ 黒板をモニターに、ホワイトボードに ・ ファイルが縦に入るロッカー ・ ダンス学習用の鏡のある部屋

その他	・ 情報社会についていくためのICT活用 ・ 一人一人の個性が生かせる学校
-----	--

【生活空間について】

校舎内環境	・ コロナ対策や開放感があるように教室を広く ・ 更衣室 ・ 障がいをもっている人も使いやすいように ・ 夏でも学習に集中できるように ・ 保護者や地域の人が誰でも学校を使えるように ・ エコな学校にしたい ・ 教室は広いほうがスムーズに活動することができる ・ トイレの臭いが気になる、トイレがきれいだと学校もきれい、洋式を増やしてほしい ・ 冬寒すぎる ・ 収納スペースが狭くてごちゃごちゃしてしまう ・ 地域の方々への配慮が大切なのでスロープが必要 ・ 体育や部活動で活用できる遊具があるといい ・ 冷房が教室に一台では涼しくならない ・ トイレが臭くなく、和式を洋式に ・ ロッカーが小さくて荷物が取りづらい ・ トイレの掃除がしやすい洋式、個室に、トイレがせまい、照明を明るく ・ 水道、水屋を温水、冷水に ・ 冷暖房は夏涼しく冬暖かく ・ 尾花沢の冬は厳しいので水道から温水を ・ きれいな広いトイレ ・ 4階建ては疲れるので3階建てが良い ・ ロッカーはA4が入るサイズに ・ 冷暖房設備を十分に ・ 下足入れ大きめに ・ 音楽室は1階に ・ エレベーターを広く ・ 屋上にプール ・ 廊下の電気を明るく ・ 全部様式トイレにして欲しい ・ 吹奏楽部の学期が入る広いエレベーターがあるといい ・ 教室を広くしてほしい、収納スペースの充実 ・ 暑さ寒さで集中できないのでしっかりした冷暖房を ・ 机と机の間が狭いので教室を広く ・ ファイルが入らないので収納スペースを ・ トイレをもう少し清潔に ・ 階段を少なく ・ エレベーターの場所を工夫して
-------	--

校舎内環境	・トイレをきれいに ・屋上を使えるように ・ロッカーを大きく ・更衣室を作る ・シャワールーム ・巨大スクリーン ・室内グラウンド、ピロティ ・電話を多く ・トイレの入口にドアを付けてもっと広く ・楽器などを運べるくらい広いエレベーター ・スロープ ・エスカレーター ・多目的トイレ ・エレベーター、エスカレーター ・きれいなトイレ ・階段脇にスロープ ・更衣室 ・室内プール ・体育館ギャラリー ・最近では小学生も体格が大きい子がいるので、天井を高くしてほしい ・トイレが汚く、ウォシュレットがない ・エアコンの性能が悪いのに教室に1台しかなく暑い、廊下や体育館が寒い ・地域の人やお年寄りの人も使いやすい学校
校舎外環境	・大きな駐車場が授業参観などの行事に必要 ・草花はリフレッシュ、リラックス効果がある ・スプリンクラーは熱中症対策になる ・障がい者やケガの人が利用しやすいようにスロープがあるといい ・日陰で休めるようなベンチがあるといい ・野球の外野部分に芝生が欲しい ・保護者のために駐車場を広く ・楽しく遊べる遊具の設置 ・遊具をつける ・ジム ・駐車場、駐輪場を広く ・ソーラー発電の導入 ・スプリンクラー ・自転車駐車場 ・外に水飲み場 ・楽器がすべて入るエレベーター ・体育館に冷暖房

校舎外環境	・体育館を2つ以上 ・人工芝グラウンド ・雨天時でも使用できるグラウンド ・ゴムグラウンド ・雨天時用のトレーニング(ランニング) コース ・冬期間、学区が広がることで駐車場が不足する ・車イスの人も安全に登下校できるように
防犯・防災対策	・防犯カメラ ・死角を少なくすると事故防止につながる ・何かあった時のため、夜に誰がいるかわかるようにする ・怪しい人が入ってこないようにする ・顔が確認できる ・防犯上職員室は1階、オートロックで玄関が閉まる ・部活帰りが暗くて怖いので常夜灯が必要 ・地震の時に使えるように災害用トイレが必要 ・アルソックの警備 ・カメラ付モニター ・死角がなければ変な人は入れない ・避難所になっても安心できるように ・防犯は万全に（オートロック）
その他	・給食をおいしく ・お掃除ロボット ・バス通が多く体力不足、肥満傾向

【地域との交流】

自然環境	・緑がいっぱいあるので、自然な環境で学習できたらいい ・雪を活かしたもの ・自然が豊かなので自然体験を大切にしたい
歴史・文化	・銀山温泉を活用するなど、様々な歴史文化を知って欲しい ・花笠、徳良湖 ・芭蕉資料館があるので歴史を大切にしたい
ふるさと	・生活してきた自分の市が大好きだから、大切にしていきたいからふるさとを大切に ・地域のことを知る必要がある
地域交流	・地域と仲良くしていきたい ・地域の企業との体験活動がしたい ・地域の人との関わり ・尾花沢の自然や文化を学ぶ ・地域交流のボランティア活動 ・高齢化で地域での交流が減っている ・山岳部（地域の人と） ・グラウンドゴルフ大会

その他	・ すいか、牛肉、鮭 ・ 魅力的なまちづくり ・ 冬季以外のオリンピック選手を出す ・ 郷土料理を一緒につくる ・ 新品種スイカを共につくる
-----	--

第1回 新しい学校を考える市民ワークショップ開催結果

6月5日（日）開催し、一般参加20名と事務局8名が6班に分かれて、『尾花沢市が目指す子供像』はどのようなものか、また、そのような子供を育てるために学校の『学習空間』『生活空間』『地域との連携』をどのように充実すればいいか討論しました。

【討論テーマごとのキーワード】

1. 『尾花沢市が目指す子供像』

元気、相手を思いやる、ふるさと尾花沢が好き、コミュニケーション能力、挑戦、あいさつ

2. 『学習空間の充実』

ICT環境、空調設備、明るい、オープンスペース、可動間仕切りできるスペース、集中しやすい、使いやすい図書室

3. 『生活空間の充実』

バリアフリー、トイレがきれい、夏涼しく冬暖かい、木のぬくもり、クールダウンできるスペース、先生のリフレッシュスペース

4. 『地域との連携』

学校に田や畑、地域の人が使える部屋、地域行事への参加、地元のすごい人の学習、尾花沢のモノ・歴史に触れられるコーナー、花笠踊り

第2回 新しい学校を考える市民ワークショップ開催結果

9月19日（月）に開催し、一般参加14名と事務局8名が3班に分かれて、学校建設に係る候補地5ヵ所について、「①子供たちの安全安心」、「②学習や活動しやすい環境」、「③地域連携とまちづくり」の3つの視点で、それぞれの「良い所」、「心配な所」について討論しました。

【① 子供たちの安全・安心】

候補地	良い所	心配な所
1	交通のアクセスが良好、警察署と消防署が近く安心(防犯対策、緊急時対応)	市街地から遠い、地吹雪、冬期間の通学、蓋の無い水路、人通りが少ない、国道の交通量と横断、活断層、野生動物
2	交通のアクセスが良好、警察署と消防署が近く安心(防犯対策、緊急時対応)	市街地から遠い、地吹雪、冬期間の通学、蓋の無い水路、人通りが少ない、国道の交通量、活断層、野生動物
3	交通のアクセスが良好、警察署と消防署が近く安心(防犯対策、緊急時対応)	市街地から遠い、地吹雪、冬期間の通学、蓋の無い水路、人通りが少ない、国道の交通量、野生動物
4	住宅地に近く登下校で安心、地域住民の見守り、子供の多い地区から近く徒歩通学が良好	蓋の無い水路、周辺道路が狭隘、取付道路が無い、活断層、野生動物
5	住宅地に近く登下校で安心、地域住民の見守り、子供の多い地区から近く徒歩通学が良好	住宅地への騒音、炭鉱の坑道

【② 学習や活動しやすい環境】

候補地	良い所	心配な所
1	周辺を気にせず活動できる、警察や消防、農業など社会科学習への活用、各地区とのアクセスが良好、自然が近い	市街地から遠い、文化的施設や運動施設から遠い、緊急車両のサイレン
2	周辺を気にせず活動できる、警察や消防、農業など社会科学習への活用、各地区とのアクセスが良好	市街地から遠い、文化的施設や運動施設から遠い、緊急車両のサイレン
3	周辺を気にせず活動できる、警察や消防、農業など社会科学習への活用、各地区とのアクセスが良好	市街地から遠い、文化的施設や運動施設から遠い、緊急車両のサイレン
4	市街地や公共施設に近く活動の幅が広がる、長根山運動公園・サルナート・悠美館・徳良湖等に近い、地域と連携した学習が可能	住宅地への騒音、周辺道路が狭隘
5	市街地や公共施設に近く活動の幅が	住宅地への騒音、牛舎

	広がる、長根山運動公園・サルナート・悠美館・徳良湖等に近い、地域と連携した学習が可能	
--	---	--

【③ 地域連携とまちづくり】

候補地	良い所	心配な所
1	各地区とのアクセスが良好、車での利用が便利、新しいまちづくりの可能性	市街地から遠く行き来が不便、地域の人との関わりが少ない、他の施設と連携しにくい
2	各地区とのアクセスが良好、車での利用が便利、新しいまちづくりの可能性	市街地から遠く行き来が不便、地域の人との関わりが少ない、他の施設と連携しにくい
3	各地区とのアクセスが良好、車での利用が便利、新しいまちづくりの可能性	市街地から遠く行き来が不便、地域の人との関わりが少ない、他の施設と連携しにくい
4	市街地に近く徒歩で利用できる、周辺住民との関りが持てる、学校を中心とした街づくりにつなげやすい	住宅地への騒音
5	市街地に近く徒歩で利用できる、周辺住民との関りが持てる、学校を中心とした街づくりにつなげやすい、周辺住宅地への移住者が期待できる	住宅地への騒音